

みやぎの子どもたちのために

今日から活用できる指導改善のポイント

平成24年度 全国学力・学習状況調査
宮城県検証改善委員会報告書



宮 城 県 教 育 委 員 会

はじめに

平成24年度全国学力・学習状況調査が4月17日に実施されました。

この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況の把握・分析と教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する持続的な検証改善サイクルを確立すること、また学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に行われています。

今年度の調査は、東日本大震災により昨年度の調査が見送られたため1年ぶりの実施となりました。あの未曾有の大災害によって子どもたちの学力低下や学習に対する意欲の低下等の影響が心配されていましたが、結果は過去4回の調査結果を上回る成績を上げております。ここに至るまで現場の教職員をはじめ教育関係者の皆様が、厳しい状況の中、教育環境の整備、子どもたちの心のケア等に全力で対応して頂きながら、子どもたちに志をもたせ、その志を実現させるために欠くことのできない確かな学力を確実に身に付けさせるためにご尽力頂いた成果であると考えております。

しかしながら、まだ全国平均を下回っている教科もあり、繰り返し学習させるなど、今後も鋭意努力していかなければならないと考えているところであります。

県教育委員会では、このような調査結果を踏まえ、全国学力・学習状況調査結果から本県の児童生徒の学力向上に向けての結果分析と対応策等について協議・検討するため、本年度も宮城県検証改善委員会を設置して進めて参りました。本年度は、国語、算数・数学については、過去4回の学力調査結果を含めた5回分の調査結果を総括しました。また、初めて実施された理科については、本年度の調査結果から、特に課題の見られた点について検討し、指導改善のポイントを示しました。あわせて「校内研修の活性化」、「学習習慣の形成」、「教育環境基盤の充実」の面から、今後の改善の方向性をまとめてあります。

本報告書が、各学校における授業改善に向けて積極的に活用されるとともに、市町村教育委員会や地域、家庭等でも活用され、本県の児童生徒の学力向上に役立てて頂けることを期待しております。

平成25年1月

宮城県教育委員会

教育長 高橋 仁

はじめに

第1章 児童生徒の学力向上に向けて

1 教員の教科指導力の向上 1

5年間（H19～H22, H24）の調査結果から成果の上がっている内容と課題と考えられる内容

- (1) 小学校 国語 1
 - 成果と課題, 指導改善のポイント例
 - 単元構想例
- (2) 中学校 国語 5
 - 成果と課題, 指導改善のポイント例
 - 単元構想例
- (3) 小学校 算数 9
 - 成果と課題, 指導改善のポイント例
 - 学習過程例
- (4) 中学校 数学 13
 - 成果と課題, 指導改善のポイント例
 - 学習過程例

今年度の調査結果から課題と考えられる内容

- (5) 小学校 理科 17
 - 課題の見られた問題の概要と結果①
 - 単元構想例, 授業アイデア例 1
 - 課題の見られた問題の概要と結果②
 - 単元構想例, 授業アイデア例 2
- (6) 中学校 理科 21
 - 課題の見られた問題の概要と結果①
 - 授業アイデア例 1
 - 課題の見られた問題の概要と結果②
 - 授業アイデア例 2
- (7) 研修の充実を図るために 25

2 児童生徒の学習習慣の形成 26

3 教育環境基盤の充実 27

第2章 全国学力・学習状況調査の結果

1	全国学力・学習状況調査の概要	28
2	各教科の調査の結果について	30
3	類似問題の経年比較（H21小とH24中の類似問題の比較）	50
4	児童生徒質問紙調査結果	53
5	学校質問紙調査結果	55
6	平均正答率の高い県との比較	57
7	平成21年度の調査結果との比較	60

第3章 学力向上に向けた施策の概要

1	教員の教科指導力の向上に向けた施策	61
(1)	学力向上サポートプログラム事業	
(2)	学力向上成果普及マンパワー活用事業	
(3)	市町村教育委員会学力向上パワーアップ支援事業	
(4)	基礎学カステップアップ支援事業	
(5)	小学校理科中核教員養成事業（H24新規）	
(6)	小・中連携英語教育推進事業	
2	児童生徒の学習習慣の形成に向けた施策	61
(1)	学び支援コーディネーター等配置事業（H24新規）	
(2)	みやぎ単元問題ライブラリー整備事業	
3	教育環境基盤の充実に向けた施策	61
(1)	学級編制弾力化事業	
(2)	幼・保・小連携推進事業（H24新規）	
	宮城県検証改善委員会について	62

第1章

児童生徒の学力向上に向けて

1 教員の教科指導力の向上

5年間（H19～H22, H24）の調査結果から成果の上がっている内容と課題と考えられる内容

（1）小学校 国語

「話すこと・聞くこと」

課題

- ◆ 司会の役割を果たしたり、立場や根拠を明確にしたりして話し合うこと。

【指導改善のポイント例】

- 観点を明らかにして相手の考えを聞き取る学習活動を設定しましょう。(H22検証改善報告書)
- 役割に応じた話す力・聞く力を高めるために、司会は進め方のポイントを参考にしながら一定の結論へと導くよう進行したり、記録や発言者は提案や意見の共通点や相違点を整理しながら聞き、内容を簡潔にまとめたりする学習活動を設定しましょう。(H23報告書授業アイデア例)
- 話の中心や話し手の意図を捉え、ねらいを明確にして質問する力を高めるためには、自分の経験と結びつけたり自分の考えと比較したりするなど、質問の観点を明確に意識させて質問の練習をしたり話し合ったりする学習活動を設定しましょう。(H24報告書授業アイデア例)
- 話し合いを録音したりビデオ撮影したりして、話し合いの進め方の良さや改善点について意見を交流させましょう。(H22報告書授業アイデア例)

(注) 検証改善報告書：宮城県検証改善委員会報告書（宮城県教育委員会）

報告書授業アイデア例：全国学力・学習状況調査【小学校】報告書（国立教育政策研究所教育課程研究センター）

「書くこと」

成果

- 内容に合わせて小見出しを書く。

課題

- ◆ 調べて分かった事実に対する自分の考えを、理由や根拠を明確にして書くこと。

【指導改善のポイント例】

- 明確な目的や課題に基づき、情報を正確に取り出す力を高めるために、様々な資料を取り上げながら取捨選択して活用する指導を行いましょ。 (H24報告書授業アイデア例)
- 話題の中心となる文や反復する言葉に着目しながら必要な箇所を選び、意味のつながりを考えながら、一文に要約するなどの指導を行いましょ。 (H22報告書授業アイデア例)
- 目的や条件に応じて効果的に書く力を高めるためには、記録、報告、説明、感想など多様な様式を用いて書いたり、必要な情報を書き換えたりする言語活動を計画的に取り上げて指導しましょ。 (H23報告書授業アイデア例)
- 具体的な条件を提示したり、「観点例」や「表現例」などの資料を作成して活用させたりしながら、実際に「書く」時間を保障しましょ。 (H21報告書授業アイデア例)
- 実際に書いた文章は、相互評価をさせながら、条件や観点到合わせて書かれているかどうかを確認し合う学習を大切にしましょ。 (H22検証改善報告書)

「読むこと」

課題

- ◆ 物語に登場する人物についての描写や心情，人物相互の関係を捉えること。
- ◆ 目的に応じて必要となる情報を取り出し，それらを関係付けて読むこと。

【指導改善のポイント例】

- 物語に登場する人物を相互に関係付けて読む力を高めるためには，行動や会話，情景などの叙述に着目し，登場人物の実体的な関係（家族，同級生など）や構造的な関係（仲間，好敵手など）などを整理し，物語の展開に即して人物像や役割などを押さえながら読むことができるよう指導しましょう。
(次頁単元構想例参照)
- 考えを広げたり深めたりすることができるようにするために，目的に応じて取り出した情報を関係付けて，自分なりの考えをまとめる言語活動を工夫しながら指導しましょう。
(次頁単元構想例参照)
- 複数の情報を比べて読むなど，効果的な読み方を工夫する力を高めるためには，複数の情報に含まれる共通点や相違点を整理し検討するように指導しましょう。その際，学習指導要領解説国語編に示されている「効果的な読み方に関する指導事項」を参考にしましょう。
(H22, H23, H24報告書授業アイデア例)
- 読む目的や意図に応じて文や文章を選び，的確に内容を押さえて読む力を高めるために，読む目的を明確にした上で，様々な分野の本や文章を適切に選びながら，読書の範囲を広げるように指導しましょう。
(H22検証改善報告書，H22報告書授業アイデア例)

「言語事項」

※小学校学習指導要領国語（平成20年告示）では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

成果

- 漢字を読むこと。

課題

- ◆ 文と文のつながりを理解し，文の論理を考えて書くこと。

【指導改善のポイント例】

- 文と文のつながりを理解し，相手に伝えたいことを的確に表す力を高めるためには，「書くこと」の記述や推敲の段階などにおいて，文と文との接続関係に着目し，必要に応じて複数の文を一文に書き換えたり，一文が長くなり，意味が伝わりにくい重文や複文については，一文一文に分けて簡潔に書いたりするよう指導しましょう。
(H21報告書授業アイデア例，H22検証改善報告書)

小学校 単元構想例

- 物語では、内容を理解するだけでなく、表現の良さや効果を捉え、それらに対する自分の考えをまとめることが重要である。そこで、表現に着目しながら必要な部分を繰り返し読んだり、優れた叙述について考えたりしたことを伝え合うなど、目的に応じて情報を取り出し、それらに関係付ける言語活動を単元を貫いて位置付けた構想を示した。

単元名 人物の生き方を考えながら読み、物語が自分に強く語りかけてきたことについて感想をまとめる～登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえる～
第6学年「C 読むこと」

1 単元の見目標

- (1) 目的に応じて、内容をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 登場人物の心情や場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。(読むこと)
- (3) 比喩や反復などの表現の工夫に気付く。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

2 本単元における言語活動

「海のいのち」を読んで、物語が自分に強く語りかけてきたことについて感想をまとめる。

<目的をもって自分の考えを書きまとめる活動>

3 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 物語に興味をもち、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考えながら読もうとしている。① 	<ul style="list-style-type: none"> 場面構成や人物の関係を手がかりに、中心人物の変化を読み取り、物語が自分に最も強く語りかけてきたことをとらえている。①((1)エ) 物語を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。②((1)オ) 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字や言葉について理解している。①(ウ)ア) 比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。②(イ)ケ)
	<p>評価規準は、年間指導計画(マトリックス表)を基にして、「関心・意欲・態度」「言語についての知識・理解・技能」+「重点的に指導する内容」について設定します。</p>		<p>取り上げる題材や教材を踏まえ、単元で取り上げて指導する事項に応じて、評価規準を設定することになります。</p>

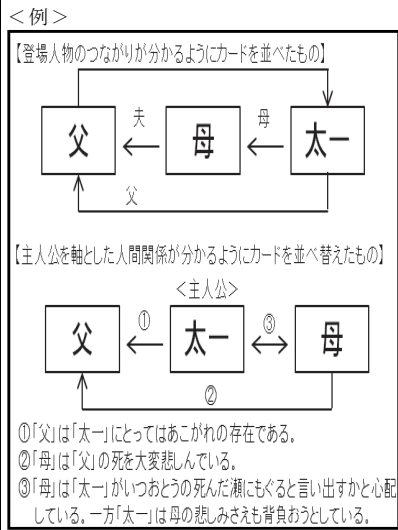
4 指導と評価の計画(9時間)

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいや進め方をつかむ。 本文を読み、最も印象に残った部分をあげ感想を交流する。 	[関心・意欲・態度] ① [言語についての知識・理解・技能] ①	観察、ノート
2 5	<ul style="list-style-type: none"> 物語の構成や登場人物の関係を踏まえ、主人公の心情の変化を読み取る。 	[読む能力] ① [言語についての知識・理解・技能] ②	観察、ノート、ワークシート
6 9	<ul style="list-style-type: none"> 物語が自分に強く語りかけてきたことや人物の生き方、考え方に対する自分の感想をまとめる。 友達と感想を交流する。 	[関心・意欲・態度] ① [読む能力] ②	観察、ノート

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいや進め方をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいと言語活動の内容を具体的に示し、学習の見通しをもたせる。 	単元の初めに、学習の進め方を確認し、学習の見通しをもたせます。その際には、どのような言語活動を通して、どんな力を身に付けていくのかを示しておきます。
	<ul style="list-style-type: none"> 太一の心情を読み取りながら、物語が自分に強く語りかけてきたことについて感想をまとめる。 本文を読み、感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 最も印象に残った部分について発表させる。 	[関心・意欲・態度] ① (観察、ノート) [言語についての知識・理解・技能] ① (ワークシート)

2 登場人物の関係や表現の仕方をもとに、太一の子心の変化について考えをまとめ、話し合う。

3
4
5 登場人物の関係を登場人物カード等を使って説明する。



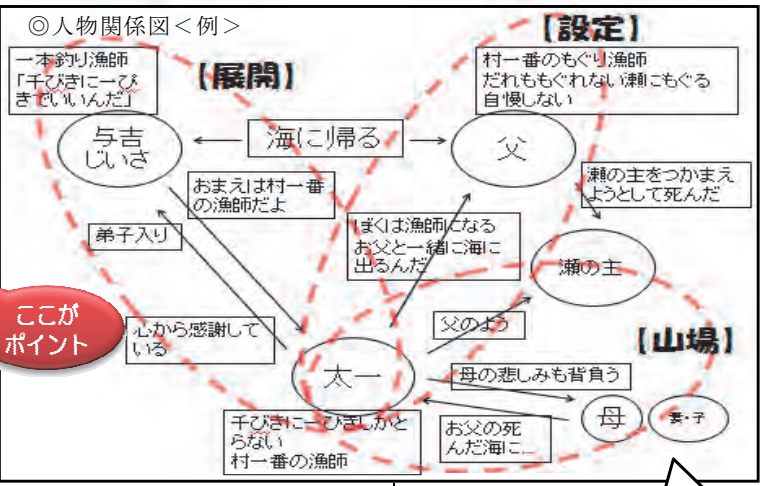
- 「設定」における、太一と父の関係(□は視点例)。
□親子として
□漁師として
□あこがれとして
- 「展開」における、おとうと与吉じいさの人物像の比較。
□師匠として
□漁師として
- 「山場」における、太一とクエについて。
□母の思い
□クエとの出会い
- 太一の思いが変化する文章を見つけ出し、その理由について考えさせる。
- 場面を選択したり比較したりしながら考えさせる。

登場人物のつながりが分かるように、登場人物の関係を言葉で説明させます(実体的な関係)。それにより、主人公を軸とした関係(構造的な関係)が意識されるようになり、人物関係図づくりにも役立ちます。
(参考:「授業アイデア例」H22 国立教育政策研究所)

[読む能力] ①
(観察, ノート, ワークシート)
[言語についての知識・理解・技能] ②
(ワークシート)

3つの場面の人物関係図を重ね合わせ、太一の子心の変化を考える手がかりとします。また、単元を貫く言語活動を意識させ、登場人物の生き方や物語の展開を振り返りながら、それぞれの感想を短く書きまとめておかせるといった手立ても大切になってきます。

- 比喩表現の効果についても触れさせながら、太一の子心の変化や他の人物の役割をまとめる。



ここがポイント

6 物語が自分に強く語りかけてきたことや人物の生き方
7 考え方に対する自分の感想をまとめるとともに、友達と
8 感想を交流する。

9 自分の感想をまとめるとともに、友達と感想の交流をする。

「最も印象に残った部分を書き出す」→「分かったことや感じたこと、考えたことを書き加える」→「太一の生き方と自分とを比較して感じたことをまとめる」等の手順でまとめる方法もあります。
(参考:「H22検証改善委員会報告書」宮城県教育委員会)

- それぞれが場面ごとにまとめてきた印象に残った部分を基にしてまとめさせる。
- 友達と自分の感じ方の違いに注意して、感想を交流させる。

主人公の生き方について触れていたり、自分と比較したりしてまとめていけば「おおむね満足」とします。

ここがポイント

それぞれの人柄や考え方を表している言葉を探しながら、「父と太一」「与吉じいさと太一」の関係について人物関係図を作成してみることも有効です。山場の場面では、父、与吉じいさと太一との関係を中心に、母、妻・子等の役割にまで目を向けさせ、太一の子心の変化について話し合わせます。

[関心・意欲・態度] ①
(観察, ノート)
[読む能力] ②
(観察, ノート)

(2) 中学校 国語

「話すこと・聞くこと」

成果

- 話の内容から必要な情報を的確に聞き取り、適切な質問をすること。

課題

- ◆ 資料の提示の仕方を工夫し、その方法を説明すること。

【指導改善のポイント例】

- 具体的かつ実際の言語活動を設定しましょう。
(言語活動の充実に関する指導事例集)
- 一度作成した資料を、目的や聞き手の様子に応じて見直して組み替えてみたり、今ある資料を有効に使い、限られた時間でスピーチしたりする学習活動を取り入れましょう。
(H22報告書授業アイデア例)
- なぜ、そのような話の構成や展開にしたのか、なぜそのような工夫を加えたのかを考えさせ説明や交流をさせましょう。
(H21検証改善報告書)
- 聞き手が「内容と提示された資料とのかかわりに注意して聞き取る役割」と「話の組み立てと提示された資料とのかかわりに注意して聞き取る役割」とに分かれて、それぞれメモを取りながら聞き、メモ内容を発表するなど、「話すこと」と「聞くこと」とを合わせて指導することを大切にしましょう。
(H22報告書授業アイデア例)

(注) 検証改善報告書：宮城県検証改善委員会報告書（宮城県教育委員会）

報告書授業アイデア例：全国学力・学習状況調査【中学校】報告書（国立教育政策研究所教育課程研究センター）

言語活動の充実に関する指導事例集：言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～
【中学校版】（文部科学省）

「書くこと」

課題

- ◆ 文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くこと。

【指導改善のポイント例】

- 取り上げる資料が、自分の主張を裏付けるための材料として適切であるか、根拠として使用する上で信頼できるものかといった点について検討、判断させましょう。
(H21報告書授業アイデア例)
- 着目した箇所やその理由を明確にして考えを具体的に書く力を高めるために、「そう思う」、「よかった」などの抽象的な言葉に着目させ、具体化させる指導を大切にしましょう。
(H22報告書授業アイデア例)
- 論理的な文章を書く力を高めるためには、根拠を明確にしたり、相手に効果的に伝わるように説明や具体例を加えたりするなどの学習の積み重ねが大切です。「書くこと」の指導のための配当時数を確実に確保しましょう。
(H23報告書授業アイデア例)
- 各学校や地域における実際の取組との関連を図りながら、相手意識や目的意識を明確にさせながら課題解決的な学習に取り組ませましょう。
(H23報告書授業アイデア例)

「読むこと」

成果

- 文学的な文章の内容を展開に即して捉えること。

課題

- ◆ 目的をもち、表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。

【指導改善のポイント例】

- 目的や意図に応じ、生徒が一層主体的に文章を読むことができるように、課題解決的な言語活動を設定して指導しましょう。課題を解決するために、文章の特徴や表現の仕方に着目しながら、自分の考えが形成できるよう指導事項に基づいて指導しましょう。
(次頁単元構想例参照)
- 思考や判断を促すために、文章の解釈など自分の考えをまとめる際に、例えば「語彙の使い分け例」などの資料を活用させることも有効です。
(次頁単元構想例参照)
- 本や文章を分析的あるいは総括的に読み、その主張や意図を解釈させる際には、目的に応じて本文を利用したり要約したりしながら書く活動を取り入れ、それに対する自分の考え（感想や意見、評価）をまとめられるようにしましょう。
(H24報告書授業アイデア例)
- 多様な教材の選定とともに、一冊の本を最後まで読む、多くの本に目を通すなど、様々な読み方を学習に取り入れましょう。
(H23報告書授業アイデア例)

「言語事項」

※中学校学習指導要領国語（平成20年告示）では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

課題

- ◆ 辞書に書かれている記述から、語句の意味を適切に捉えること。

【指導改善のポイント例】

- 実際の文脈の中で理解させることを大切にしましょう。
(H21報告書授業アイデア例)
- 聞き慣れない言葉に出合ったら積極的に使い方を確かめるように指導しましょう。調べたい言葉が見出し語にない場合には、語句を分けて調べた上で意味を検討させるなど、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を考えることを習慣化させましょう。
(H21報告書授業アイデア例)
- 定着しにくい漢字や間違いやすい漢字について、意識をもって読み書きできるようにしましょう。
(H21検証改善報告書、H21年度報告書授業アイデア例)

中学校 単元構想例

- 文章の特徴や表現の仕方に着目しながら解釈したり評価したりする課題解決的な学習に取り組むことは、「自分の考えの形成」に関する指導事項を指導する上で有効である。目的をもって主体的に文章を読む単元を貫く言語活動を位置付けた構想を示した。

単元名 社会で生きる人間の姿について意見を書く
 ～場面の展開や人間関係の変化をとらえ、作品を読み深めながら、
 社会の中で生きる人間の姿について自分の意見をもつ～
 第3学年「C 読むこと」

1 単元の目標

- (1) 場面の展開や人間関係の変化，表現の工夫について読もうとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 場面の展開や人間関係の変化をとらえ，自分の意見をもつことができる。(読むこと)
- (3) 抽象的な概念を表す語句，類義語と対義語，同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し，語感を磨き語彙を豊かにする。
 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

2 本単元における言語活動

小説中の人物に触れながら，社会で生きる人間の姿について自分の意見を書く。
 (必要な情報を取り出し，根拠を基にして自分の考えを書く活動)

3 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
評価規準	・ 場面の展開，表現の工夫，人物(人間関係)等を基に，読もうとしている。① <div style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; width: 20px; height: 20px; display: inline-block; color: red; text-align: center; line-height: 20px; margin: 5px;">ここがポイント</div> 年間指導計画(マトリックス表)で重点指導事項を確認します。	・ 場面の展開，人間関係の変化，表現の工夫等を理解し意見を書いている。①((1)イ) ・ 人間の生き方について自分の意見をもつ。②((1)エ)	・ 第2学年までに学習した常用漢字に加え，その他の常用漢字ののだいたいを読むこと。①(ウ(7)) ・ 抽象的な概念を表す語句，類義語と対義語，同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し，語感を磨き語彙を豊かにすること。②(2年:イ(1))

「言語についての知識・理解・技能」については，生徒の実態に応じて，既習学年の指導事項を設定することもできます。

単元	学習内容	A 読み・聞く			B 書く			C 読む			言語文化と国語の特質 (1)		
		イ	ロ	ハ	イ	ロ	ハ	ア	イ	ウ	エ	オ	
新国語(国語)	小説の読み・書き												
国語(国語)	小説の読み・書き												
国語(国語)	小説の読み・書き												
国語(国語)	小説の読み・書き												

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	・ 学習のねらいや進め方をつかみ，全文を読む。新出漢字や語句の確認をする。	[関心・意欲・態度] ① [言語についての知識・理解・技能] ①	観察 ノート
2 3	・ 場面の展開と人物像，人間関係の変化をとらえる。	[読む能力] ① [言語についての知識・理解・技能] ②	観察 ノート
4 5	・ 社会で生きる人間の姿について意見を書く。 ・ 互いに書いたものについて，読み合い考えを交流する。	[読む能力] ②	観察 ワークシート

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	・ 学習のねらいや進め方をつかみ，全文を読む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">過去と現在の人間関係の変化をとらえ，社会の中で生きる人間の姿について自分の意見をもつことという学習課題を確認する。</div>	・ 学習のねらいと言語活動の内容を具体的に示し，学習の見通しをもたせる。 ・ 漢字や難語句の確認を行う。	[関心・意欲・態度] ① (観察，ノート) [言語についての知識・理解・技能] ① (観察，ノート)

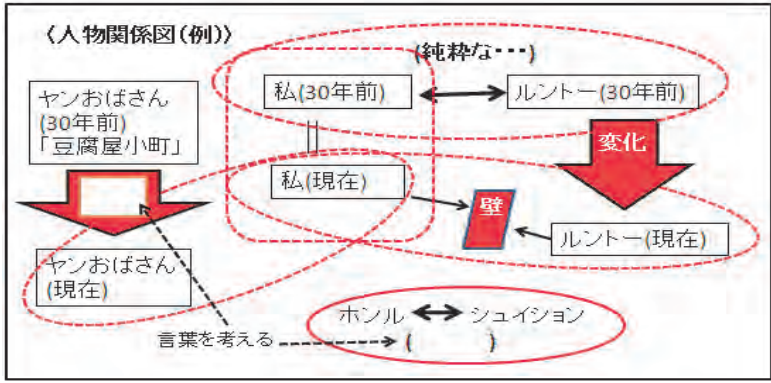
単元の初めに，「学習のねらい」と，ねらいを達成するための言語活動「自分の意見を書くこと」を予め示し，学習の見通しをもたせます。

- 2 過去と現在を視点にしなが
- 3 ら、人間関係をとらえる。
- 20年ぶりに見た故郷に対する「私」の心境を、故郷を表す言葉を使ってまとめる。
 - それぞれの人物像を人間関係図に書き込む。
- 人物像をとらえる視点例
- 行動 言葉遣い 境遇
- 身なり 持ち物 等
- 目的をもって繰り返し文章を読み返しなが
 - 自分なりの考えをまとめられるようにする。
 - 「ルントー」や「ヤンおばさん」の言動や描写等から、人物像をとらえさせる。
 - 視点例を提示しながら考えさせる。

既習の「描写や言動から、人物を理解する」を活用し、自分なりの視点で人物像を考えさせます。

ここがポイント

「風の唄」の主人公と大ばあちゃんの関係なども想起させながら、「故郷」のヤンおばさん、ホンル、シュイジョンなど主人公に関わりのある人物との関係にも着目させます。



[読む能力] ① (観察、ノート)

[言語についての知識・理解・技能] ② (観察、ノート)

場面設定や人物像、人間関係など、これまで目的に応じて読みまとめた自分の考えを振り返り、内容を構成し直して明確にさせることで、読み手としての自己を表出させます。

- 人間関係の変化の背景や理由を考える。
- 「私とルントー」の関係の変化を文章にまとめさせる。

4 社会の中で生きる人間の姿について、小説中の人物に触

5 れながら400字程度で意見を書き、交流する。

- 小説の中の人物に触れながら、社会の中で生きる人間の姿について最も強く感じたことについて、400字程度で、自分の意見を書く。

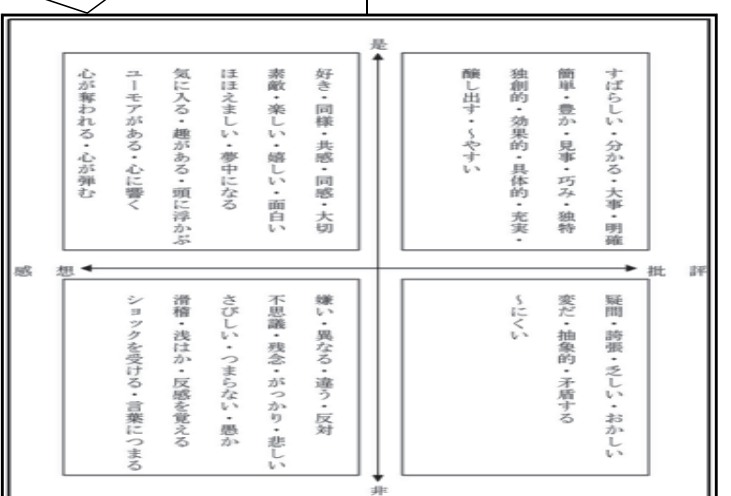
文章の解釈を踏まえて評価させる際に、生徒の思考や判断を促すために、語彙の使い分け例などを参考にさせる方法も考えられます。【言語活動の充実に関する指導事例集】

これまでの学習を踏まえて意見を交流することで、いろいろな方向性があることを確認します。それによって、見方が広がり、より深い意見を書くことが期待できます。

ここがポイント

様々な見方、捉え方があることを感じながら、自分なりに最も強く感じたことについて具体的に人物に触れながら条件に合わせて書き述べさせます。具体的な場面を示しながら、そう考えた「根拠」を明らかにさせることが大切です。

- 互いに書いたものについて読み合い、相互評価をしながら考えを交流する。



生徒の記述や意見の交流を通して、生徒が作品を読み深め、評価している状況を見取ることができます。

[読む能力] ② (観察、ワークシート)

(3) 小学校 算数

「数と計算」領域

成果

- 加法・減法の計算
- 数の相対的な大きさや十進位取り記数法のしくみについての理解

課題

- ◆ 「倍」という言葉だけをとらえて、立式は乗法であると判断していることが考えられることから、乗法の意味について理解し、問題の場面を適切にとらえ式を考えること。
- ◆ 乗数が1より小さい時に積が被乗数より小さくなること、除数が1より小さい時に商が被除数より大きくなることの理解。
- ◆ 基準量（基準にする大きさ）よりも比較量（割合に当たる大きさ）の方が小さい場面で、何倍かを求めるために除法が用いられることの理解。
- ◆ 商が1より小さくなる等分除「(整数) ÷ (整数)」の場面で、被除数に当たる数と除数に当たる数を判断して、除法が用いられることの理解。

【指導改善のポイント例】

- 乗法や除法の意味理解のために、テープ図や線分図などに表す活動が大切です。その際、子どもたちが数量をしっかりと捉え、自ら図を書くことができるよう、段階的に指導しましょう。また、図から式、式から図をつくる活動も大切です。(H22報告書授業アイデア例)
- 数量関係をしっかりと捉えることができるように、「倍」という表現を含む文章では、図などを活用して、何が基準量になっているのかをしっかりと確認できるようにしましょう。(H24報告書授業アイデア例)



(注) 報告書授業アイデア例：全国学力・学習状況調査【小学校】報告書（国立教育政策研究所教育課程研究センター）

「量と測定」領域

成果

- 測定値の平均を求めること

課題

- ◆ 三角形や平行四辺形などで、高さが図形の外にあったり、複数の情報から必要な情報を取り出したりして面積を求めたりすること。
- ◆ 底辺や高さなどに着眼して面積を求めること以外に、いろいろな図形の性質を活用して面積を求めること。

【指導改善のポイント例】

- 面積を求めさせるとき、教科書にある図形だけを示すのではなく、高さが外にあるような図形を示したり、あえて底辺も斜辺も高さも示して、そこから必要な情報を選択させたりして、面積を求めさせる体験もさせましょう。(H21報告書授業アイデア例)
- 身の回りの事象で、長さや角度、広さなど機会を捉えて問いかけるなど、量感を豊かに育てることも大切です。(H24報告書授業アイデア例)



「図形」領域

成果

- 基本的な平面の性質についての理解

課題

- ◆ 直接測定できない部分の長さを求めるとき、その問題解決の根拠となる図形の性質を基に判断すること。
- ◆ 与えられた条件や図形の定義、性質を基に図形を判断し、その理由を考えること。

【指導改善のポイント例】

- 身の回りから目的に応じて図形を見出すことができるようにするために、直観的に図形を判断したり、図形の定義や性質を根拠に筋道を立てて考えて、辺の長さや関係、角度を求める活動を、系統的に行いましょう。

(H22報告書授業アイデア例)



「数量関係」領域

成果

- グラフから必要な情報を読み取ること

課題

- ◆ 割合の考えを基に、数の大小関係を判断し、その判断の理由を数学的に表現すること。
- ◆ 百分率の意味について理解すること。
- ◆ 百分率を用いて問題を解決すること。
- ◆ 計算の順序についてのきまりについて理解すること。

【指導改善のポイント例】

- 「割合」とは「二つの数量を比べた時に、一方が他方の何倍にあたるかという関係」です。しかし、それ以上に、「AとBでどちらが速い？」など、速さや密度、味の濃さなど目に見えない量を目に見える数で比較する便利な考え方であるということを、子どもたちにしっかり伝えたいものです。
(H24報告書授業アイデア例)
(次頁学習過程例参照)
- 二つの事象の大きさを比べるときには、量で比べる場合と割合で比べる場合があることを理解し、目的に応じて使い分けられることができるように指導しましょう。
- 割合の学習では、比較量が基準量と割合の積で決まることを理解できるようにするために、数直線で割合を表したり、円グラフなどを書いたりする活動を大切にしましょう。
(H22報告書授業アイデア例)
- 百分率の意味理解を深めるために、日常生活の場面で百分率を用いて問題を解決する活動を大切にしましょう。
(H24報告書授業アイデア例)
- 計算の順序について理解させるためには、正しい計算過程と誤った計算過程を提示し比較させることにより、計算結果が異なってしまうことを児童に認識させ、正しい計算の順序を確認できるようにしましょう。
(H21報告書授業アイデア例)



小学校 学習過程例（数量関係 第5学年 割合〈百分率とグラフ〉）

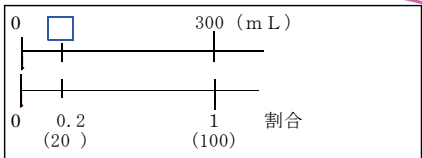
○ 過去5年間の学力・学習状況調査との関連

割合の意味の理解を見る問題では、事象の数学的な解釈と判断の根拠の説明をする問題や基準量や比較量を取り出して割合の大小を判断する問題、その他にも与えられた条件を基に筋道を立てて考える問題などに課題が見られた。そこで割合の学習では、比較量が、基準量と割合の積で決まることを理解できるように、数直線や図、数式、言葉で考え、それらを数直線と関連付けて表現する学習過程を設定した。

○ 本時のねらいと評価規準

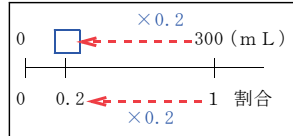
本時のねらい	評価規準	
	数学的な考え方	数量や図形についての技能
基準量と割合から比較量の求め方を考えることができる。	基準量と割合から比較量の求め方について、数直線や図などを使って、考えている。 (ノート、発言)	具体的な事象における、基準量、割合、比較量の関係を、数直線、図、式、言葉を用いて表すことができる。 (ノート)

○ 本時の指導過程

段階	主な学習活動と予想される児童の反応（・）	○指導上の留意点と☆評価
問題把握	<p>1 本時の問題場面をつかむ。</p> <p>300 mLのりんごジュースがあります。この中に果じゅうが20%ふくまれています。このジュースに入っている果じゅうは、何mLですか。</p> <p>問題場面を数直線に整理しましょう。</p>  <p>〈基準量、比較量、割合を数直線上で確認したり、読み取ったりする。〉</p> <p>前回の学習との違いはどんなところですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前は割合を求めた。もとにする量と割合が分かっている。 ・比べられる量が書いてない。 ・比べられる量ってどうやって求めるのかな。 	<p>○指導上の留意点と☆評価</p> <p>○ 求答事項を整理させるために、分かっていること（基準量、割合）に直線、聞かれていること（比較量）に波線を引かせる。</p> <p>ここがポイント</p> <p>○ 割合の問題構造を捉えさせるために、問題場面を数直線に表させる。これを活用して立式や説明などの思考、表現をさせるようにする。</p> <p>○ 数量の関係を捉えて立式できるように、割合の表し方（20% → 0.2）がしっかり押さえられているか確認する。</p> <p>○ 本時の学習課題の焦点化を図るために、前時の学習との違いに気付かせる。</p>
見通す	<p>3 見通しを立てる。</p> <p>どのようにすれば、果じゅうの量が求められますか。一人一人考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数直線の数や□はどんな関係になっているのかな？ ・2つの量の関係を使って求められそう。 ・前に習った言葉の式（割合＝比較量÷基準量）が使えるそう。 	<p>○ 全体で既習事項等を確認するのではなく、自力解決に向かわせるために、思考を促し一人一人に見通しをもたせる。</p> <p>○ 見通しをもてない児童にノート等で確認するよう助言する。</p>
自力解決	<p>4 自力解決する。</p> <p>数直線や式などを使って、友達に分かりやすく説明できるように自分の考えをノートに書きましょう。</p>	<p>☆ 具体的な事象における、基準量、割合、比較量の関係を、数直線、図、式、言葉で表すことができる。 (ノート)</p>

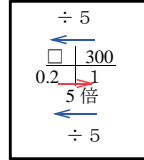
① 数直線

20%は小数で表すと0.2つまり300 mLの20%は、0.2倍することだから、 $300 \times 0.2 = 60$
答え60mL



② 2つの量の関係

20%は0.2となり、0.2の5倍が1だから、□の5倍が300になる。つまり $\square \times 5 = 300$
 $\square = 300 \div 5 = 60$ 60 mL



③ 言葉の式

割合 = 比べられる量 ÷ もとにする量
 $0.2 = \square \div 300$ $\square = 0.2 \times 300 = 60$ 60 mL

④ 数式 ㉗ $300 \times 20 = 6000$ (20%のまま誤答) ㉘ $300 \times 0.2 = 60$

○ 思考過程が見えるよう数直線や表、式を関連させ、相手に分かりやすく説明するためにノートにまとめさせる。

ここがポイント

○ 集団解決の場合につなげるために、児童の考えを見取って、類型化し、意図的に指名して発表用紙に書かしておく。

集団解決

5 それぞれの考え方を発表し、全体で共有する。

代表の人に説明してもらいます。○○さんからお願いします。



- ・ $300 \times 20 = 6000$ (20%のまま誤答) $20 \rightarrow 0.2$ (④と関連)
- ① 数直線を使って説明する
- ② 2つの量の関係を使って説明する
- ③ 言葉の式「割合 = 比べられる量 ÷ もとにする量」から
- ④ 数式 (㉗) $300 \times 0.2 = 60$

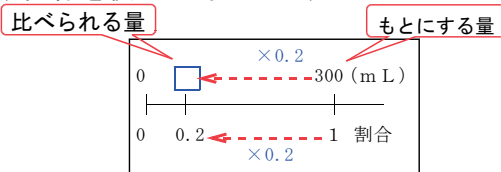
どのように考えれば、比べられる量が求められましたか。



- ・ 問題を数直線に表わして考える。
- ・ かけ算で求められる。
- ・ もとにする量と比べられる量と割合の関係を確認してから式を立てる。

6 まとめ・適用問題に取り組む。

数直線を使って考えると、



比べられる量 = もとにする量 × 割合

- ・ 適用問題に取り組む

- 全体で考えを共有化していくために、類型化した考え方を数直線と関連付けられそうな順番で代表児童に発表させる。理解力、表現力を高めるために、別の児童にも説明させる。
- 最初に割合を20%のまま計算している誤答を取り上げ、基準量を1と見たとき割合は0.2となることを数直線で再確認する。

○ 考えの根拠を明確にさせるために、②③④も数直線を使って説明させる。小数倍、比例の関係にも気付かせたり、数直線を根拠に考えさせたりする。

ここがポイント

☆ 基準量と割合から比較量の求め方について、数直線や図などを使って、考えている。
(ノート、発言)

○ 問題構造を的確に捉え、数直線を根拠に立式できることを単元を通して理解、習熟させていくことが大切である。

ここがポイント

○ 学んだことのよさを実感させるために、数直線に表せるかを含めて適用問題を設定する。

まとめ・適用

振り返り

7 本時の学習を振り返る。

- ・ 数直線を使うと簡単に式を立てることができる。
- ・ 友達の説明で割合をかけることが分かった。

○ 分かったこと、気付いたこと、話し合いでの発見等の観点を示し数行で感想を書かせる。

(4) 中学校 数学

「数と式」領域

成果

- 数の計算，文字を用いた式の計算
- 一元一次方程式，連立方程式の解法

課題

- ◆ 移項の意味の理解
- ◆ 方程式の立式の手順や立式のために着目する数量の説明
- ◆ 「～について解く」等，目的に応じた等式の変形

【指導改善のポイント例】

- 等式の意味を理解させるために，フレーズ型とセンテンス型の式を比較するなどの活動を取り入れましょう。
- 移項の意味を理解させるために，方程式を等式の性質を用いて順に変形し，解を求める活動を重視しましょう。
(H22検証改善報告書)
- 方程式を立式するために着目する数量を見出せるように，「数量の間の関係を見つけよう」から「ある数量を2通りに表現しよう」という指示を取り入れてみましょう。
(H21報告書授業アイデア例)
- 方程式をつくる手順の確実な定着を図るために，立式に用いた方法や手順を説明させる活動を取り入れましょう。
(H21報告書授業アイデア例)



(注) 検証改善報告書：宮城県検証改善委員会報告書（宮城県教育委員会）

報告書授業アイデア例：全国学力・学習状況調査【中学校】報告書（国立教育政策研究所教育課程研究センター）

「図形」領域

成果

- 作図の手順の理解
- 回転体の構成についての理解
- 展開図についての理解と，立体と展開図を関係付けて見ること

課題

- ◆ 証明の必要性や意味についての理解
- ◆ 円柱や円錐の体積の求め方の理解

【指導改善のポイント例】

- 条件に合う図形が複数存在することを実感できるように，条件に合った図形を生徒自身にかかせ，友達の図形と比較するなどの場を設定しましょう。
- 条件に合っている図であれば証明は変わらないことを理解させるために，複数の図形と照らし合わせながら証明を読み取らせる活動を取り入れましょう。
- 一つの証明からさらに考えを深めるために，証明の手順や内容を振り返って新たに言えることを探ったり，条件の一部を変えて課題を発展させたりする活動を取り入れましょう。
(H23報告書授業アイデア例)
- 円柱と円錐の体積の関係について実感を伴って理解できるように，円柱と円錐の容器に入る水の量を比較する実験や観察等を取り入れましょう。また，その結果について考察し，まとめる場面を設定しましょう。
(H23報告書授業アイデア例)



「数量関係」領域

成果

- 比例関係を表す表の特徴の理解

課題

- ◆ 2つの数量が比例・反比例・一次関数の関係になることへの理解
- ◆ 二元一次方程式の解とグラフの関係についての理解
- ◆ 他の領域と比較して正答率が低く、全体的に課題がある

【指導改善のポイント例】

- 関数の概念を理解させるために、「関数」領域（平成20年告示学習指導要領）の系統性を踏まえて、1年生の指導から伴って変わる二つの数量を見つけ出したり、変化や対応の様子を調べ自分なりに表現したりする活動を取り入れましょう。
（次頁学習過程例参照）
- 関数についての理解を深めるために、関数の概念に従って比例も反比例も一次関数も $y = ax^2$ も関数であることを関数の世界の拡張を味わわせながら理解させましょう。
（H23報告書授業アイデア例）
- 「伴って変わる二つの数量の関係を探ることが関数の学習」であることを理解させるために、表、式、グラフは「目に見えない二つの数量の関係」を表現し考察するための道具であることを意識して指導しましょう。
（次頁学習過程例参照）
- 表、式、グラフそのものを指導する過程でも関数を学んでいることが意識できるように、表、式、グラフで表していることを身の回りの事象と関係付けながら指導しましょう。
- 関数の特徴が表、式、グラフという異なる方法によって形を変えて表現されていることを理解させるために、それぞれの表現を関連させてつながりを探ったり、説明したりする活動を取り入れましょう。
（H21検証改善報告書、H24報告書授業アイデア例）
- 一次関数を活用して身の回りの事象を見直したり、考察したりすることができるように、「一次関数である」とことと「正確に一次関数とは言えないけれど、一次関数とみなすと・・・」と考えることの意味を理解させましょう。
（H21、H23報告書授業アイデア例）
- 二元一次方程式の解の意味を理解させるために、整数以外の分数や小数の解を求めたり、一元一次方程式の解と比較したりする活動を取り入れましょう。
- 二元一次方程式の解とグラフの関係を理解させるために、二元一次方程式の解を座標とする点を数多くとって直線に並ぶことを確かめたり、座標平面上の点の座標を方程式に代入して解であるかを判断したりする活動を取り入れましょう。



中学校 学習過程例（数量関係 第2学年 一次関数）

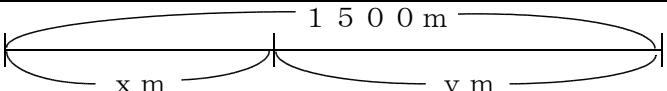

○ 過去5年間の学力・学習状況調査との関連

具体的な事象における2つの数量の関係には、比例・反比例・一次関数として捉えられるものがあることへの理解を見る問題に課題があることを受け学習過程を設定した。

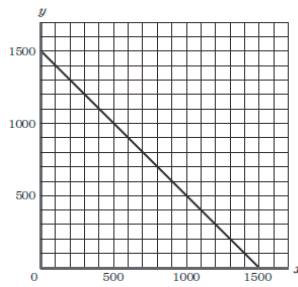
○ 本時のねらいと評価規準

本時のねらい	評価規準（評価方法）	
	数学的な見方や考え方	数学的な技能
具体的な事象における2つの数量の関係を一次関数、反比例であると判断できる。	具体的な事象における2つの数量の関係を調べ、その特徴から一次関数、反比例と判断し、その理由を説明できる。（ノート、発言）	2つの数量の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりできる。（ノート）

○ 本時の指導過程

段階	主な学習活動と予想される生徒の反応（・）	○指導上の留意点と☆評価												
問題把握	<p>1 本時の問題場面をつかむ。</p> <p>Aさんは、家から1500m離れた図書館まで歩いていこうと思います。このとき、伴って変わる2つの数量としてどのようなものがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩いた道のりと残りの道のり ・歩いた時間と歩いた道のり ・歩く速さとかかった時間 <p>2 学習課題をつかむ。</p> <p>歩いた道のりを x m、残った道のりを y m とします。この2つの数量の関係はどのような関係でしょうか。これまでに学んできた方法を使って調べてみましょう。</p> 	<p>○ 具体的な事象を自分の生活経験と照らし合わせながら捉えさせ、その中から伴って変わる2つの数量を生徒自身に見出させる場を設定する。</p> <p style="text-align: center;">ここがポイント</p> <p>○ 関数である2つの数量を意図的に取り上げる。</p> <p>○ 数量の関係についてイメージがもてない生徒に対しては、線分図等で表すことでイメージがもてるようにする。</p>												
見通す	<p>3 見通しを立てる。</p> <p>伴って変わる2つの数量 x と y の関係を探るには、どのような方法がありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ x をいろいろな値に変えて y の値を計算で求めてみる。 ・ 具体的な数値で表をつくり調べてみる。 ・ y を x の式で表して調べてみる。 ・ グラフをかいて調べてみる。 	<p>○ 一人一人に既習事項を想起させ調べる方法の見通しをもたせる。もてない生徒に対しては、個に応じて表、式、グラフ等を使って調べるように支援する。生徒の反応を見取り、必要であれば全体で確認する。</p>												
自力解決	<p>4 自力解決する</p> <p>○ 表で表す。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>x</td> <td>0</td> <td>10</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>...</td> </tr> <tr> <td>y</td> <td>1500</td> <td>1490</td> <td>1480</td> <td>1470</td> <td>...</td> </tr> </table> <p>$x=0$ のとき、$y=0$ ではないので比例ではなさそうだ。xが増加すると y は減少するので反比例かな。 (xの値を1, 2...とした表もある)</p> <p>○ y を x の式で表す。</p> <p>全部で1500m、歩いた道のりが x m で残った道のりが y m (残った道のり) = (全部の道のり) - (歩いた道のり)</p> $y = 1500 - x$	x	0	10	20	30	...	y	1500	1490	1480	1470	...	<p>○ 伴って変わる2つの数量の関係を、表、式、グラフ等を使って存分に調べ、「友達に分かるように」を視点にまとめさせる。</p> <p style="text-align: center;">ここがポイント</p> <p>○ $1500 - x = y$ のような式の形で考えている場合には、そこからどのように判断しているのかを見取り、集団解決の場面で取り上げ全体で検討する。</p> <p>○ 表、式、グラフは、2つの数量の関係を表現し、考察するための道具であるこ</p>
x	0	10	20	30	...									
y	1500	1490	1480	1470	...									

○ グラフをかく。
 グラフは直線になるので
 反比例ではない。原点を
 通らないので比例でもな
 いグラフだ。直線なので
 傾きは一定だ。



とを確認し、それを利用し
 て2つの数量の関係を考察
 するようにさせる。
 ☆ 2つの数量の関係を表、
 式、グラフを用いて表現し
 たり、処理したりできる。
 (ノート)

集団
 解決

5 数量の関係から、関数関係について考える。

○ 表、式、グラフの特徴に着目して関数関係
 について考える。

調べたことから、2つの数量の関係につい
 て発表しましょう。

- ・一方の値が決まると他方の値も決まるので関数だ。
- ・xが増えるとxの増えた分だけyが減ることがわかるが、xが0のときyは0ではないので比例ではない。
- ・グラフが原点を通らないので比例ではない
- ・グラフが直線なので一次関数といえる。
- ・式からxが1増えるとyが1減るので一次関数といえる。
- ・ $y = 1500 - x$ だが、この式は $y = -x + 1500$ と変形できるので一次関数といえる。
- ・この表、式、グラフから、変化の割合は-1で一定であるので一次関数といえる。

今までのことから、この2つの数量の関係
 で、yがxの一次関数といえる根拠を整理
 しましょう。

- ・変化の割合が-1で一定である。
 - ・グラフが直線である。
 - ・式が $y = -x + 1500$ なので、 $y = ax + b$ の形になっている。
- これらのことから、この2つの数量関係は「yはxの一次関数である」といえる。

まとめ
 ・適用

6 表、式、グラフを用いて、新たな関数関係を考える。

では、毎分x mの速さで歩いたときに到着するま
 でかかった時間をy分とすると、xとyはどのよう
 な関係ですか。同様の方法で調べ、ノートにまとめ
 しましょう。

- 表、式、グラフの特徴に着目して、各自で見通しを
 立て、自力解決する。
- ・xの値が増えるとyの値は減る。
 - ・yの減り方(変化の割合)が一定ではない。
 - ・グラフが直線ではなく、曲線になるので一次関数ではない。
 - ・ $xy = 1500$ となるので反比例といえる。
 - ・ $y = 1500 / x$ となるので反比例といえる。

これらのことから、この2つの数量関係は「yはx
 に反比例する」といえる。

- $y = 1500 - x$, $x + y = 1500$ 等の考えも取り上
 げ、それぞれを比較し、 $y = ax + b$ の形に変形する
 活動を取り入れる。
- 生徒の発表を生かしなが
 ら、発言を重ねさせ、適切
 な数学的表現に改めていく
 ようにする。
- ☆ 具体的な事象における2
 つの数量の関係を調べ、そ
 の特徴から一次関数と判断
 し、その理由を説明できる。
 (ノート、発言)

ここが
 ポイント

- 一次関数と判断し、説
 明した学習を生かして、
 反比例であることの判断
 とその理由の説明までで
 できるようにする。調べる
 過程で一次関数との比較
 をすることになり、その
 ことによって関数の理解
 を深める。
- xが増えるとyが減るの
 で反比例と判断した考え方
 があれば取り上げ、他の根
 拠や一次関数と比較するこ
 とで一次関数と反比例の理
 解を深める。
- ☆ 具体的な事象における2つ
 の数量の関係を調べ、その
 特徴から反比例と判断し、そ
 の理由を説明できる。
 (ノート)

振り
 返り

7 本時の学習を振り返る。

- ・表、式、グラフ等を使って2つの数量の関係の変化や対応の
 様子を調べると、どのような関数かわかる。
- ・一次関数と反比例の特徴や違いが確認できた。

- わかったこと、気付いた
 こと等を自己評価カード等
 に記入させる。

今年度の調査結果から課題と考えられる内容

(5) 小学校 理科

「知識」の定着については、概ね全国平均を上回る良好な結果であったが、一方「活用」については、全国平均に届かなかった設問が幾つかあり、特に考えをまとめ記述する力に課題が見られた。思考力と表現力の育成を図るための授業の改善が必要である。(詳細は第2章)

○課題の見られた問題の概要と結果①

- 2 (5) スイカの受粉と結実の関係を調べる実験について、適切な実験方法を選択し、選択した理由を記述する問題。(正答率 30.8% 全国とのかい離 -1.3ポイント)

実験や観察の結果を基に実験方法を改善するには、得られた情報について、自分なりに考えて分析することが大切である。その際、気づいたことや考えたことを繰り返し表現することが必要である。(思考力や表現力の育成)

○単元構想例

<単元を見通した、思考力や表現力を高める学習の例(第5学年:ヘチマの観察)>

時間	段階・場面	主な指示・発問と予想される児童の反応
1	<p>課題設定の場面</p> <p>身近な自然事象から感じることや疑問を書かせます。</p>	<p>T: ヘチマの花について「なぜだろう」「不思議だなあ」と思うことは何かありませんか?</p> <p>S: どうやって実はできるのかなあ。 S: なぜ、おしべとめしべがあるのかなあ。</p>
2	<p>予想や仮説を立てる場面</p> <p>実際に観察や実験をする前に、変化の様子や結果の予想を立てさせます。その根拠も併せて書かせます。</p>	<p>T: 花粉のはたらきを調べる実験について、結果を予想してみましょう。</p> <p>S: アサガオもヒマワリも、花が咲いた後に種ができたので、花粉をつけなくても実はできると思います。 S: 風や虫が花粉を運ぶという話を聞いたことがあるので、花粉がなければ実ができないと思います。</p>
3	<p>結果を記録する場面</p> <p>結果に加え、観察や実験の経過にも目を配らせて、その様子を記録させます。</p>	<p>T: 花粉をつけためばなとつけないめばなをじっくり観察して変化を記録しましょう。</p> <p>S: 花粉をつけためばなのもとが伸びてきました。 S: 花粉をつけないめばなのもとはあまり変化していません。 S: 花粉をつけないめばなのもとはしわがよって枯れてきました。 S: 花粉をつけないのに、めしべのもと伸びてきたものもありました。(※)</p> <p></p> <p>→ 次ページ</p>
4	<p>考えをまとめる場面</p> <p>結果から分かったことや考えられることを自分なりの根拠を基に書かせます。</p>	<p>T: 実験から自分なりに気づいたことや考えられることを書きましょう。</p> <p>S: 花粉をつけないと実はならないことが分かりました。 S: 実がなるためには花粉が必要だと思います。</p>
5	<p>考えを交流する場面</p> <p>他の児童の意見や発表内容を赤ペン等でメモをとらせることにより、自分の考えに広がりや深まりをもたせます。</p>	<p>T: 友達の意見もあわせて、今日の授業で分かったことや考えたことを書きましょう。</p> <p>S: 友達の意見を聞いて、花粉には種をつくるもとがあるのではないかと思いました。 S: おしべとめしべは、動物のオスとメスと同じ役割なのかもしれないと思いました。</p>










ここがポイント

ここがポイント

○授業アイデア例 1

＜単位時間内における、思考力や表現力を高める学習の例（5年：ヘチマの観察）＞

前ページの「花粉をつけないのに、めしべのもとが伸びてきたものもありました。（※）」という児童の気づきをもとに、一見失敗と思われる実験結果に対する善後策を練らせる授業の一提案。

学習課題：花粉をつけないのにめしべのもとが伸びてきた理由を考えましょう。		
主な指示・発問と予想される児童の反応		留意点
 <p>T：袋をかぶせたままで、花粉をつけないのに実がなったものもあったのはなぜでしょう。</p>	 <p>S：花粉がめしべにつかないと実はならないはずだから、実験は失敗だったと思います。 S：袋のすき間から花粉が入ってきたと思います。 S：めしべも花粉を作っているのかもしれない。 S：袋をかぶせる前に、もう花粉がくっついてたのかもしれない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の気づきを生かすために、一見失敗と思われる実験結果であってもあえてスポットを当てて、新たに課題を設定する。 ○考えをまとめ、自信をもって発表することができるよう、一旦ワークシート等に文章として記入させてから発表させる。
 <p>T：めしべとおしべの観察をしたときの記録やメモを見直してみましょう。</p>	 <p>S：おしべの先にはたくさんの花粉がついていました。 S：おしべだけではなく、めしべの先にも少し花粉がついているものもありました。 S：ハチや小さな虫が花にとまっていました。 S：いつの間にかめしべに花粉がついていたのかもしれない。</p>	<p>ここがポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えに広がりや深まりをもたせるために、友達の発表の中で、自分にはない気づきや発想、参考になりそうな意見等は、赤ペンなど色を変えてメモをとらせる。
 <p>T：では、どんな点を改良して実験すればよいでしょうか。</p>	 <p>S：風や虫によって花粉がつかないようにする必要があります。 S：袋のすき間を完全になくせばいいのではないのでしょうか。 S：回りの花粉が飛んでくる前に袋をかぶせてしまえばよいと思います。 S：小さな花粉が少しでもついたら、もうそれだけで失敗だと思います。 S：花びらが開く前に袋をかぶせてしまえばよいと思います。 S：花粉が飛ばないようにおばなにも袋をかぶせてしまえばよいと思います。</p> 	<p>ここがポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童から提案される実験のアイデアに対して、教師はよさを認めて全てを受け入れることが大事である。教師の姿勢が児童に安心感をもたせ、支持的風土の醸成が期待できる。
 <p>T：友達の考えや意見を参考にして、さらに自分の考えをまとめてみましょう。</p>	 <p>S：風や小さな虫が花粉を飛ばしたり運んだりする前に袋をかぶせてしまうとよいと思います。 S：花粉が飛んできてめしべにくっつかないように、花が開く前のつぼみに袋をかぶせてしまうとよいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の自由な発想を生かすために、教師は、児童の発言を交流させたり焦点化したりするコーディネート役に徹したい。

【指導改善のポイント】

- 実験や観察の結果を分析したり考察したりする力を育むためには、まずは自分自身の考えをしっかりととらえましょう。そして、友達との意見交流で得た情報を基に自分の考えの広がりや深まりを促す指導・支援を工夫しましょう。
- なぜそう考えたのか、根拠を明らかにして説明する場面を意図的に設定しましょう。

○課題の見られた問題の概要と結果②

- 4 (5) 天気の様子と気温の変化とを関係付けて、気温の変化を表したグラフを選択し、選択した理由を記述する問題。(正答率 16.3% 全国とのかい離 -0.6ポイント)

この問題は、天気の様子と気温の変化の関係についてデータを基に分析し、その理由を記述できるかどうかをみる「活用(分析)」に関する問題であり、正答率 16.3%と低い結果となっている。複数のデータを関連付けて考える力、自分の考察したことをまとめて書く力を高めるための学習場面を意図的に取り入れていくことが大切である。

○単元構想例

＜単元を見通した、思考力や表現力を高める学習の例(第4学年：天気のようにすと気温)＞






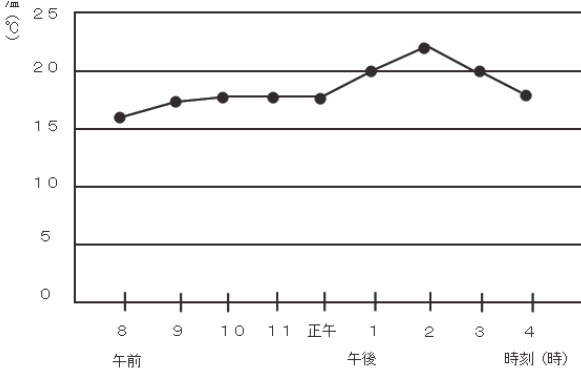
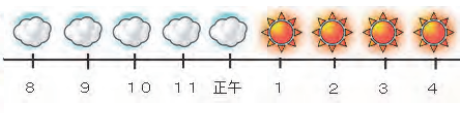

欄	段階・場面	主な指示・発問と予想される児童の反応
1	<p>課題設定の場面</p> <p>身近な自然事象から分かることを発表し合いながら整理します。</p>	<p>T: 天気について分かっていること、知っていることをまとめてみましょう。</p> <p>S: 晴れの日には太陽が出ていて、曇りや雨の日には出ていません。 S: 雲の量は、晴れの日には少なく、曇りや雨の日が多いです。 S: 晴れの日には暖かくて、曇りや雨の日はずずしく感じます。</p>
2	<p>予想や仮説を立てる場面</p> <p>実際に観察や実験をする前に、どんな結果になるか予想を立てさせます。その根拠も併せて書かせます。</p>	<p>T: 1日の気温の変わり方は天気に関係するのでしょうか。</p> <p>S: 晴れの日には太陽が出ているので暖かくなると思います。 S: 曇りや雨の日には太陽が出ていないので気温は変化しないのではないかと思います。 S: 曇りや雨の日も同じ一日なので、晴れの日と同じように気温が高くなっていくと思います。</p>
3	<p>結果を記録する場面</p> <p>結果だけではなく、経過にも目を配らせて、その様子を記録させます。</p> <p>ここがポイント</p>	<p>T: 1日の気温の変わり方を記録しましょう。 ※記録のポイント=様々な天気による一日の気温の変化の違いを比べるのだから、天気以外(場所、時間など)は同じ条件にする。</p> <p>S: 晴れた日の気温の変わり方のグラフはお昼過ぎ頃が一番高い山型になりました。 S: 曇りや雨の一日の気温の変化は平らなグラフになります。</p>
4	<p>考えをまとめる場面</p> <p>複数の観察結果から分かったことや考えられることを、まとめさせます。</p>	<p>T: 結果をもとに気づきや考えをまとめましょう。</p> <p>S: 天気によって気温の変わり方には違いがあります。(晴れの日には朝が低く昼過ぎに高くなり変化が大きくなります。一方曇りや雨の日にはあまり変わりません。) S: 晴れていても太陽の光が雲で遮られると気温が下がり、曇りが晴れ間になると気温が上がります。</p>
5	<p>考えを交流する場面</p> <p>意見の発表や交流の際には、赤ペンなどでメモをとらせ、自分の考えに広がりや深まりをもたせさせます。</p>	<p>T: 今回の観察で分かったことや考えたことを発表し合い、友達の見意も合わせて考えられるようにしましょう。</p> <p>S: 一日の気温は天気で変わっていくことが分かりました。 S: 他の班の人の発表も同じような気温の変化でした。(場所が違っても同じような気温の変わり方になります。)</p>

○授業アイデア例 2

＜単位時間内における、思考力や表現力を高める学習の例（4年：天気の様子と気温）＞

天気の変化が著しい日の気温のグラフについて、時間など他の要因と関係付けて気温の変化の理由を考察させる場面の設定。

学習課題：天気と一日の気温の変化について考えよう

主な指示・発問と予想される児童の反応	留意点
 <p>T：天気によって気温の変わり方にどのような違いがあるか、調べた結果を見ながらまとめてみましょう。</p> <p>S：晴れの日、日の出ごろが最低となって午後2時ぐらいが最高となることが多いようです。 S：晴れの日、気温の変わり方が大きいです。 S：曇りや雨の日、気温の変わり方が小さいです。</p> 	<p>○書くこと、まとめることに苦手意識をもたせず取り組ませるために、はじめは調べた結果内容をそのまま文章に表すことから始めさせる。</p>
 <p>T：どうして、晴れの日、気温の変わり方と曇りや雨の日の気温の変わり方には違いがあるのでしょうか。観察したときの空の様子を振り返って考えてみましょう。</p> <p>S：晴れていたから、変化が大きいです。 S：雲がかかっていたから、変化が小さいと思います。 S：太陽が出ていると変化が大きく、雲でさえぎられていると変化が小さいです。</p> 	<p>○複数の資料をまとめる力を身に付けるために、調べたグラフだけでなく、あらかじめ記録しておいた空の写真なども活用する。</p>
 <p>T：このようなグラフの時はどのような天気が考えられるのか、観察の結果を参考にして考えてみましょう。</p> <p>1日の気温の変化</p>  <p>S：気温の変化が小さいところは太陽が出てないと思います。 S：だんだん気温が高くなっているところは太陽が地面を照らしている時間です。</p> <p>S：朝のうち、曇っていたのが昼過ぎからだんだん晴れてきたと考えられます。</p> <p>ここがポイント</p>  	<p>○観察結果で分かったことから考察を深めさせるために、一日の間に天気の変化がある気温のグラフを用意し、考えさせる。</p> <p>○晴れの日と曇りや雨の日の違いを確認するとともに、途中での天気の変化についても一日の間の時間経過を押さえながらまとめられるよう声がけする。</p> <p>○ひととおり考えがまとまった段階で、実際の写真(インターバル撮影した物)や動画等を用いて検証すると、より深い理解が期待できる。</p>

【指導改善のポイント】

- 思考力を高めるためには、なぜそのような結果となっているのかを考察する時間を十分確保しましょう。
- 児童が考察したことの根拠を確認した後、その正否について明確に分かる資料を提示しましょう、学習内容の確かな理解と理科学的な様々な事象についての考察への意欲につながります。

(6) 中学校 理科

「知識」、「活用」とともに、概ね全国平均を上まわる良好な結果であった。一方、実験結果をもとにして式をつくり、値を求める問題や、考察の根拠となる実験結果の組合せを選ぶ問題に課題が見られた。得られた実験結果を分析・解釈する力を高めるための授業の改善が必要である。(詳細は第2章)

○課題の見られた問題の概要と結果①

- ④ (3) 実験結果から、食塩水の中で卵にはたらく浮力の大きさを求める式を書き、浮力の大きさを求める問題。(正答率 35.0% 全国とのかい離 -1.2ポイント)

この問題は知識に関する問題で、全国の平均とのかい離が大きくなった。要因として、実験結果を分析・解釈することによって物体にはたらく浮力の存在を導き出す力や、浮力の概念が十分に定着していないことが考えられる。

○授業アイデア例 1

〈様々な視点から実験結果を分析・解釈する力を高める学習の例(第1学年:身近な物理現象)〉

空気中でのばねばかりの値と物体を水に沈めたときのばねばかりの値の比較をとおして、浮力がはたらいていることを見いだしたり、浮力の性質を理解したりする場面を設定。

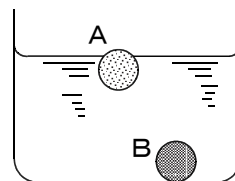
浮力の大きさを決めるもの

水に浮く物体Aと沈む物体Bを用意し、水に入れる。



T: 物体Aだけが浮いているのはなぜでしょう。

S: 物質Aは、水よりも軽いから。
S: 物質Aは、物質Bよりも軽いから。
S: 物質Aには浮力がはたらいているから。



T: 沈んでいる物体Bには浮力がはたらいているでしょうか。

S: はたらいている。
S: はたらいていない。
S: はたらいているが物質Aより弱い。



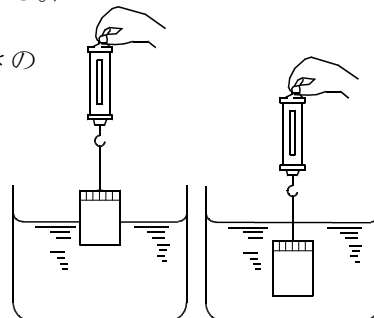
T: 重さの異なる2つの物体にはたらく浮力の大きさを確かめましょう。

< 実験 >

☆ばねばかりにつるしたおもり入りの小さな密閉容器を水そうの水に沈める。

(小さな密閉容器は、おもりの量を調節できるものにする。)

- ・ 空気中でおもり入り容器をばねばかりにつるしたときの値を記録する。
- ・ おもり入り容器を半分まで水に沈めた状態とすべて水に沈めた状態で、ばねばかりの値を記録する。
- ・ 容器をさらに深く沈めたときのばねばかりの値を記録するとともに、値に変化が見られるか観察する。
- ・ おもりの量を増やし、同様の実験を再度行う。



	空気中①	半分水中②	全部水中③	さらに深く④	①-③
おもりの量 少 (軽い)	←アの比較→	←イの比較→	←ウの比較→		↑エの比較↓
おもりの量 多 (重い)	←アの比較→	←イの比較→	←ウの比較→		↑エの比較↓

ここが
ポイント



T: 容器を半分だけ水に沈めると、ばねばかりの値はどのように変化しましたか。

S: 値は小さくなりました。



「水に沈んでいる部分の体積が大きいほど浮力は大きい」という結論を導くために、実験結果の比較をおして、分析・解釈する。

・ 容器を水に沈めると、ばねばかりの値が減少することに気付く。 **〈アの比較〉**
→ 値の減少から、浮力の存在を見いださせましょう。

ここが
ポイント



T: 容器を全部水中に沈めると、ばねばかりの値はどのように変化しましたか。

S: 値はもっと小さくなりました。



・ 水に沈んでいる部分を増やすと、ばねばかりの値もさらに減少することに気付く。 **〈イの比較〉**
→ 浮力の大きさと、水に沈んでいる部分の体積の関係をとらえさせましょう。

ここが
ポイント



T: 容器を全部水中に沈めたあと、さらに深く容器を沈めるとばねばかりの値はどのように変化しましたか。

S: 値はそのままでした。



「浮力の大きさは、深さや物体の重さには関係しない」という結論を導くために、実験結果の比較をおして、分析・解釈する。

・ ばねばかりの値が変化しないことに気付く。 **〈ウの比較〉**
→ 浮力の大きさと、深さとの関係をとらえさせましょう。



T: 容器に入れたおもりを増やした実験から、どのようなことが分かりましたか。

S: おもりを増やしても浮力の大きさは変わりませんでした。



・ ばねばかりの値が変化しないことに気付く。 **〈エの比較〉**
→ 浮力の大きさと、物体の重さとの関係をとらえさせましょう。



まとめ

- ・ ばねばかりの値が減少した分が浮力である。
- ・ 水に沈んでいる部分の体積が大きいほど浮力は大きい。
- ・ 浮力の大きさは、深さや物体の重さには関係しない。

【指導改善のポイント】

- 実験とその結果の分析をおして、目には見えない浮力の存在を実感させるとともに、浮力の概念を身に付けさせましょう。
- 実験で得られた値の比較をおして、得られた実験結果を様々な角度から分析・解釈する力の向上を図りましょう。

○課題の見られた問題の概要と結果②

1 (5) 「チューリップの花が開くには、温度が関係している」という考察の根拠となる実験の組合せを選ぶ問題。(正答率39.1% 全国とかい離 -2.2ポイント)

この問題は活用に関する問題で、中学校理科の全問題中全国とのかい離が最も大きくなった。要因として、変化させる要因(独立変数)とそれに伴い変わる事象(従属変数)を考え「比較したり、条件に目を向けたりする」などの小学校での学習の成果を生かし、観察・実験の結果を分析し解釈する学習活動が十分ではないことが考えられる。

○授業アイデア例 2

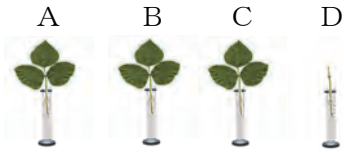
〈分析・解釈の観点を明確にした学習の例(第1学年:植物の種類と生活)〉

結論を導き出すために、独立変数と従属変数の関係を分析・解釈し考察する場面の設定。

蒸散は植物のどの部分で多く行われているだろうか

同じ大きさで、葉の枚数をそろえたクズの枝を4本用意し、次の処理をする。

- A: なにも処理しない。
- B: 葉の表側にワセリンを塗る。
- C: 葉の裏側にワセリンを塗る。
- D: 葉をすべて取り、切り口にワセリンを塗る。



4本のクズの枝を、同体積の水を入れたメスシリンダーにさし、水面に少量の油を注いだ。A~Dを明るく風通しのよいところに置き、数時間後にそれぞれのメスシリンダー内の水の体積を測定し、減った水の体積を記録する。

☆ 水の体積が減るのはクズの蒸散のはたらきによることを確認します。

ここがポイント

T: A~Dの処理により、クズは蒸散をどこで行うのでしょうか。(独立変数の設定により、蒸散を行う条件がどう変化するか捉えさせます。)
☆ 板書で視覚化させることが大切です。

- S
- A 処理しない 葉の表側・葉の裏側・茎で蒸散が行われる
 - B 葉の表側の気孔を塞ぐ . . . 葉の裏側・茎で蒸散が行われる
 - C 葉の裏側の気孔を塞ぐ . . . 葉の表側・茎で蒸散が行われる
 - D 葉をすべて取る 茎で蒸散が行われる



※ 油を注いだことで、水面からの水の蒸発を防ぐことも確認します。

条件を変えることで蒸散する量がどう変化するか比較してみましょう。(独立変数の設定⇒蒸散を行う場所の変化 従属変数⇒蒸散量の変化となることを意識させます。)

ここがポイント

実験結果を分析・解釈して、「葉の裏側で多く蒸散が行われている」という結論を導くために必要な結果の組合せを考える。

T: 葉の表側の蒸散量を調べるにはAとどれとを比較すればよいですか。

S: 葉の表側だけが違うAとBを比較すればよい。 ア
(A - B ⇒ 葉の表側からの蒸散量!)



T: 葉の裏側の蒸散量を調べるにはAとどれとを比較すればよいですか。

S: 葉の裏側だけが違うAとCを比較すればよい。 イ
(A - C ⇒ 葉の裏側からの蒸散量!)



T: 実験の結果から蒸散が多く行われている部分はどこだと考えられるでしょうか。

S: 茎の蒸散量はDの結果だから ウ
葉の裏側で多く行われる。⇒ ア, イ, ウの比較から



T: 考察していく中で疑問に思ったことはどんなことでしょうか。

S: 葉の裏側の蒸散が多いのは気孔が多くあるからではないだろうか。他の植物も同じだろうか。



○実験報告書の作成例

目的 蒸散がどこで多く行われているのかを調べる

目的が考察する内容を示すように設定する。
具体的に何を調べるのかを明らかにしておく。

方法

同じ大きさで、3枚葉のついたクズの枝を4本用意した。
どこで蒸散が多く行われているか調べるために次のように処理した。

- なにも処理しなかった。 A
- 葉の表側にワセリンを塗った。 B
- 葉の裏側にワセリンを塗った。 C
- 葉をすべて取り、切り口にワセリンを塗った。 D

テキスト通りでなく、実際に行った操作を書く。工夫した点があれば記録する。

4本のクズの枝を、同体積の水を入れたメスシリンダーにさし、水に3滴の油を注いだ。A～Dを明るく風通しのよいところに置き、2時間後にそれぞれのメスシリンダー内の水の体積を測定し、減った水の体積を記録した。

結果

2時間後減少した水の体積を調べたら

- A 葉の表側・葉の裏側・茎での蒸散 ○○cm³
- B 葉の裏側・茎での蒸散 ○○cm³
- C 葉の表側・茎での蒸散 ○○cm³
- D 茎での蒸散 ○○cm³

結果は事実をそのまま記入する。
比較する条件の違い（独立変数）と、それに伴い変わったこと（従属変数）が分かるようにまとめる。

結論を導くのに必要な結果を組み合わせ、分析・解釈する。

- 葉の表側で行われた蒸散の量は A - B ○○cm³ ア
 - 葉の裏側で行われた蒸散の量は A - C ○○cm³ イ
 - 茎で行われた蒸散の量は D ○○cm³ ウ
- ※ 水に油を浮かべたから水面からの蒸発はないと考える。

考察

結果を分析・解釈し、導いた結論を最初に記入する。
次に結論づけた根拠を説明し、結果と結論を結びつける。
目的と対応した考察になっているかを確認する。

結論

蒸散は葉の裏側で多く行われているのではないかと考えた。

根拠

水に油を浮かべたので表面からの蒸発がないこと、ア、イ、ウを比較すると、イの蒸散量が一番多いことから葉の裏側からの蒸散量が多いと考えた。

疑問

葉の裏側からの蒸散量が多いのは、葉の裏側に気孔が多いからではないか。
他の植物でも同じような結果になるだろうか。

考察する過程で疑問に思ったことを記入し、検証可能なものは計画を立て調べる。他のことにも適用できるか考え調べてみる。

【指導改善のポイント】

- 条件を制御して行う実験では、始める前に変化させる条件（独立変数）とそれに伴って変わる値（従属変数）をしっかりと捉えさせてから実験させましょう。
- 実験結果を分析・解釈する場面では、条件の違いに目を向けて比較させましょう。

(7) 研修の充実を図るために

平成24年度の学校質問紙調査で、問題冊子等や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用した割合をみると、十分な状況にあるとはいえない。(第2章 5(2)①参照)

5年間のまとめということを踏まえて、全国学力・学習状況調査の結果を学校改善にいかすための校内研修のポイントを述べる。

学力・学習状況調査の活用を図る研修の充実を

ねらいの確認

抽出校・希望校に関わらず、調査を活用すると、児童生徒の学力や学習状況を把握することができる。また、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることができる。と考える。

※単年度の指導の評価という捉えではなく、指導の蓄積の評価として捉え、学校全体で指導改善を図る必要がある。

解く・解かせる

■児童生徒に求められている力を実感する。

全職員で問題を解くということは、今、児童生徒にどのような力が求められているのかを具体的に把握できる。また、国語、算数・数学、理科以外でも身に付けさせる力を具体的におさえ、育成できる場面を想定し、指導することができる。

■児童生徒の実態から指導改善のポイントを明確にする。

児童生徒に問題を解かせるということは、自分にどのような力が付いているのか、課題があるのかを自己評価させることができる。また、指導改善にもつなげることができる。

※全国学力・学習状況調査解説資料には設問ごとに学年や領域が明記されているので、対象学年以外にも活用できる。

結果を分析する

■問題分析・誤答分析で指導改善のポイントを明確にする。

学力状況調査で、正答率の低い問題や誤答の多い問題、無答率の高い問題などを分析し児童生徒の学力の状態を把握するとともに、教科指導上の課題を明らかにし、指導改善にいかす。

※解答類型により直接見える課題や、読み取れる課題が明らかになる。

■児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査から学校課題改善のポイントを明確にする。

児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の結果を比較することで、児童生徒と教職員の意識の違いも把握でき、改善のポイントとして押さえることができる。

解答類型の例

問題番号	解答類型	反応率%	正答
小算	1を解答している	5.7	
	2を解答している	7.5	
3 (1)	3を解答している	50.9	
	4を解答している	34.3	◎
	上記以外の解答	0.3	
	無回答	1.2	

分析結果と課題

○ 誤答については、解答類型3の反応率が50.9%である。文章に「倍」という表現が含まれることから、乗法と判断し、「3」の図を選択していると考えられる。

(全国学力・学習状況調査報告書)

※つまずきや誤答などの傾向から指導改善のポイントが分かります。

校内研修の充実を図る

■校内研修の充実により課題改善を図る。

課題改善のためには、質の高い授業展開が必須である。教員の教科指導力の向上を支えるには、学校全体で指導改善の視点を焦点化し、児童生徒の学力向上を目指した校内研修の活性化を図る必要がある。

その際、下記資料が参考になる。

参考：検証改善委員会報告書・学力向上サポートプログラム報告書・文科省各指導資料

2 児童生徒の学習習慣の形成

■分かる授業の実践

「今日の授業でこれが分かった。できるようになった。」と授業後に子ども自身が変容を感じられる授業を実践することが、学ぶ楽しさを味わわせ、自主的な学習を促す原動力になる。分かる授業のためのチェック項目を設け、チェックすることも一つの手立てである。例えば

- 児童生徒の実態把握は適切か
- 学習指導要領を踏まえ、ねらい、課題は適切か
- ねらい、児童生徒の活動、評価は整合性がとれているか
- 発問、指示、説明を吟味し、実際に話す言葉、表現で決定されているか
- 予想される児童生徒の反応を児童生徒の思考の流れに沿って捉えているか など

■学習規律の徹底

下の表は平成24年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙調査の「前年度までに、学習規律の維持を徹底しましたか」という設問について、選択肢ごとに平均正答率を示したものである。

選択肢	学校数の割合	全国平均正答率 (%)					学校数の割合	全国平均正答率 (%)				
		小学校						中学校				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
よく行った	59.5	81.7	55.8	73.8	58.8	61.5	62.0	76.6	65.0	64.1	52.0	52.9
どちらかといえば、行った	37.8	80.8	54.4	72.4	57.6	60.3	35.5	74.2	62.2	60.6	47.7	49.8
あまり行っていない	2.6	79.1	51.5	69.8	55.3	57.7	2.4	71.2	58.2	56.1	42.8	46.4

この結果からも、学力の向上には、学習規律の維持の徹底が要素の一つになっていると考えられる。学習規律の維持を徹底するために、例えば以下のような点を大切にしたい。

- 学校としての約束を決め、全職員の共通理解のもと、一貫した指導を行う。
- 小学校、中学校で連携し、9年間を見通した指導を行う。
- 学習規律は指導して初めて身に付くことを理解して指導する。
- 日常的に子どもの様子について把握し、「指導と評価」を継続する。

■家庭学習の指導

家庭学習は、「学んだことを定着させる」という重要な役割がある。児童生徒が自主的・主体的に家庭学習に取り組む態度は、教師の適切な指導によって育成されるため、以下を大切にしたい。

「家庭学習」のあり方について全職員で共通理解を図る。

- (1) 学校としての家庭学習の方針や目的
- (2) 児童生徒の家庭学習の実態と目標
- (3) 課題の内容と量

- 授業とかかわる課題で、児童生徒が自分の力で取り組める内容
- 課題が明確で取り組むねらいが把握できる（予習、復習、自主課題等）
- 児童生徒が意欲的に取り組める分量
(小学校では適切な一定量を担任が把握する。中学校では、教科担任間の連絡・調整を図る)

- (4) 家庭学習の意欲の維持のさせ方

- 家庭学習の課題についての適切な評価と指導（やらせっぱなしにしない）
- 努力を認める声掛けや励まし

- (5) 児童生徒への家庭学習の指導

家庭へ協力を依頼する。

- (1) 家庭学習の具体的内容、方法について「家庭学習の手引き」等で具体的に示す。
- (2) 学校が家庭学習について説明したり保護者から家庭学習に関する相談を受けたりする場を設定する。
- (3) 発達の段階に応じて、「家庭学習カード」等で保護者にも家庭学習の点検と励ましをお願いする。
- (4) テレビやビデオ・DVDの視聴時間が全国値より高いことことを踏まえ、学習を支える望ましい生活習慣の育成を図る。

3 教育環境基盤の充実

■少人数指導の工夫

「少人数指導」「ティーム・ティーチング」「小学校における教科担任制」など指導体制を工夫し、個に応じた指導の充実を図ることが求められている。本県においては、平成13年度から少人数指導加配を始めているが「少人数指導を行えば学力が向上する」ということではない。少人数で編成した全ての学習集団が教科の目標を達成できるように指導を工夫・改善しなければならない。少人数指導に当たっては以下の点に留意したい。

指導体制

- (1) 少人数指導の目的についての共通理解を図り、全教職員で取り組む。
目的と方針、実施期間、実施学年、実施教科、実施方法（学習集団の編成、指導内容、指導方法、評価等）、推進組織、児童生徒と保護者への説明等について共通理解を図り、「少人数指導実施計画」を作成する。
- (2) 担当教員間の情報交換等を大切にして取り組む。特に、評価規準について共通理解を図る。
- (3) 互いに尊重し合う雰囲気にあふれる学年・学級経営を大切にして取り組む。
- (4) 少人数指導に使う教室の環境を整備するとともに、教育機器や学習教材等の確保を図る。

指導方法と指導形態

- (1) 少人数指導のよさと課題を把握し、よさを生かした指導を行う。
第一のよさは児童生徒の実態や学習状況に応じたきめ細やかな指導ができることである。児童生徒の反応やつまずきなどを予測し、それに合わせた指導・助言や手立てを準備しておく。
- (2) 児童生徒や学校の実態、学習指導のねらい、教科の特性等に応じて、指導形態と指導方法を検討する。
 - 学習集団の質の検討 <等質分割にするか、習熟度別の分割にするか>
 - 分割する母集団と集団の数の検討
<一つの学級を分割するか、複数学級を分割するか、いくつの集団に分割するか>
 - 少人数指導を取り入れる場面の検討
<年間を通して取り入れるか、単元全体の中の一部の時間に取り入れるか、単位時間の一部の時間（前半部や後半部）に取り入れるか>
 - 組み合わせの検討<上記の内容をどのように組み合わせるのかが有効か>

■小中連携の推進

小・中学校間におけるギャップを解消し「学校間の接続を図ること」と「授業の改善を図ること」を結び付け、教員の授業力向上を目指すことで、児童生徒の学力向上を進めていく必要がある。小中連携を進めるにあたっては、例えば以下のような取組を工夫したい。

小・中学校の学習指導要領の内容とその系統性を知る。

- (1) 小・中学校の学習指導要領を職員室内に常備する環境づくりをする。
- (2) 学習指導要領の一覧や領域、学習の系統図を作成する活動を小中それぞれ、あるいは合同の教科部会に取り入れてみる。
- (3) 中学校区の小中学校単位でカリキュラムを共有し、9年間で学ばせることを明確にする。

小・中学校の指導方法から学び合う。

- (1) 中学校区単位で授業の相互参観と検討会への参加を通して授業改善のヒントを得る。
- (2) ビデオ収録した授業を媒介に、教科の系統性や指導法の相違等を理解できる校内研修を取り入れる。
- (3) 学習規律を共通理解し、維持する指導を継続して行う。

情報の共有化を図る。

- (1) 学力検査結果等から分かる学習の成果と課題を共有化し、教科指導に役立てる。
- (2) 校内研究や行事等、教育活動全体の成果と課題を引き継ぎ、指導の強化を図る。

第2章

全国学力・学習状況調査の結果

1 全国学力・学習状況調査の概要

(1) 調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 対象学年 抽出された学校の小学校第6学年、中学校第3学年

(3) 調査の内容

① 教科に関する調査

主に知識に関する問題 (国語A, 算数・数学A, 理科)	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能など
主に活用に関する問題 (国語B, 算数・数学B, 理科)	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査 (児童生徒質問紙調査)	小・中学校とも 86問	学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査
学校に対する調査 (学校質問紙調査)	小学校: 99問 中学校: 96問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査実施日 平成24年4月17日(火)

(5) 参加状況(仙台市を含む)

	調査対象者在籍学校数	抽出校数	抽出率	調査児童生徒
公立小学校	423校	134校	31.7%	6,690名
公立中学校	214校	117校	54.7%	11,009名

(6) 教科に関する調査の結果

① 小学生の結果について

- 国語
 - ・「知識」に関するA問題の平均正答率は81.7%で、全国平均を0.1ポイント上回っている。
 - ・「活用」に関するB問題の平均正答率は55.9%で、全国平均を0.3ポイント上回っている。
- 算数
 - ・「知識」に関するA問題の平均正答率は72.7%で、全国平均を0.6ポイント下回っている。
 - ・「活用」に関するB問題の平均正答率は58.1%で、全国平均を0.8ポイント下回っている。
- 理科
 - ・理科の平均正答率は62.1%で、全国平均を1.2ポイント上回っている。
- 小学生の平均正答率については、5教科中、国語の「知識」に関するA問題、「活用」に関するB問題と理科の3教科が全国平均を上回った。また、算数は「知識」に関するA問題は全国平均を下回ったものの、「活用」に関するB問題では全国平均との差が縮まりつつあり、全体として改善が図られていると捉えている。

② 中学生の結果について

- 国語
 - ・「知識」に関するA問題の平均正答率は76.2%で、全国平均を1.1ポイント上回っている。
 - ・「活用」に関するB問題の平均正答率は65.5%で、全国平均を2.2ポイント上回っている。
- 数学
 - ・「知識」に関するA問題の平均正答率は60.8%で、全国平均を1.3ポイント下回っている。
 - ・「活用」に関するB問題の平均正答率は50.5%で、全国平均を1.2ポイント上回っている。

○ 理科

・理科の平均正答率は52.7%で、全国平均を1.7ポイント上回っている。

○ 中学生の平均正答率については、5教科中、数学の「知識」に関するA問題については全国平均との差があり課題が見られるものの、他の4つの教科で全国平均を上回っており、全体としては、ほぼ順調に改善が図られていると捉えている。

(7) 調査結果の概況

平成19年度から平成24年度までの教科に関する調査結果一覧

○ 平成22年度、24年度の値は、上段は抽出校の平均正答率、下段は抽出校の平均正答率をもとに、悉皆調査を実施した場合の県の平均正答率を想定した値の範囲(95%信頼区間 文部科学省の説明による)。

		「知識」に関するA問題				「活用」に関するB問題				
		問題数	全国 平均正答率	宮城県 平均正答率	全国平均 との比較	問題数	全国 平均正答率	宮城県 平均正答率	全国平均 との比較	
小学校	国語	H24	17	81.6 81.4-81.7	81.7 81.2-82.3	+0.1	11	55.6 55.4-55.8	55.9 55.1-56.8	+0.3
		H22	15	83.3 83.2-83.5	83.4 82.7-84.0	+0.1	10	77.8 77.7-78.0	77.7 76.9-78.5	-0.1
		H21	18	69.9	67.4	-2.5	10	50.5	49.8	-0.7
		H20	18	65.4	64.2	-1.2	12	50.5	49.2	-1.3
		H19	18	81.7	80.6	-1.1	10	62.0	61.0	-1.0
	算数	H24	19	73.3 73.1-73.5	72.7 71.9-73.5	-0.6	13	58.9 58.7-59.1	58.1 57.2-59.1	-0.8
		H22	19	74.2 74.0-74.4	73.8 72.9-74.7	-0.4	12	49.3 49.1-49.5	47.8 46.8-48.7	-1.5
		H21	18	78.7	77.5	-1.2	14	54.8	54.0	-0.8
		H20	19	72.2	71.3	-0.9	13	51.6	50.4	-1.2
		H19	19	82.1	81.1	-1.0	14	63.6	61.4	-2.2
中学校	国語	H24	32	75.1 75.0-75.2	76.2 75.6-76.8	+1.1	9	63.3 63.2-63.4	65.5 64.9-66.2	+2.2
		H22	35	75.1 75.0-75.2	76.2 75.6-76.7	+1.1	10	65.3 65.1-65.5	66.7 66.0-67.4	+1.4
		H21	33	77.0	78.1	+1.1	11	74.5	76.4	+1.9
		H20	34	73.6	73.8	+0.2	10	60.8	61.8	+1.0
		H19	37	81.6	80.8	-0.8	10	72.0	71.0	-1.0
	数学	H24	36	62.1 62.0-62.3	60.8 59.9-61.8	-1.3	15	49.3 49.2-49.5	50.5 49.4-51.6	+1.2
		H22	36	64.6 64.4-64.8	64.4 63.4-65.4	-0.2	14	43.3 43.1-43.5	44.0 42.9-45.1	+0.7
		H21	33	62.7	62.1	-0.6	15	56.9	57.7	+0.8
		H20	36	63.1	61.4	-1.7	15	49.2	49.1	-0.1
		H19	36	71.9	70.3	-1.6	17	60.6	59.4	-1.2

		問題数	全国 平均正答率	宮城県 平均正答率	全国平均 との比較	
小学校	理科	H24	24	60.9 60.8-61.1	62.1 61.4-62.9	+1.2
中学校		H24	26	51.0 50.9-51.1	52.7 52.0-53.5	+1.7

2 各教科の調査の結果

(1) 小学校国語A問題

① 結果の概要

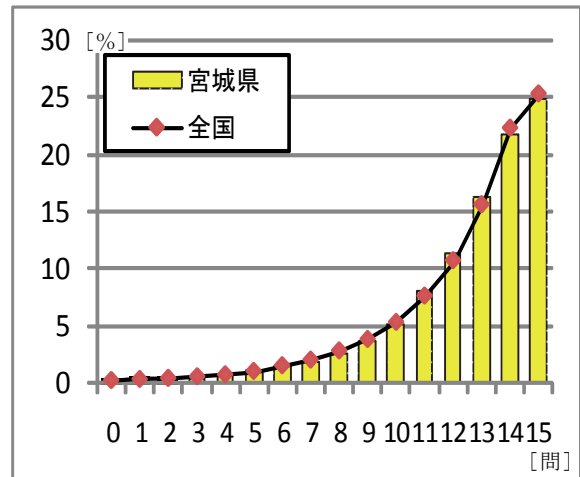
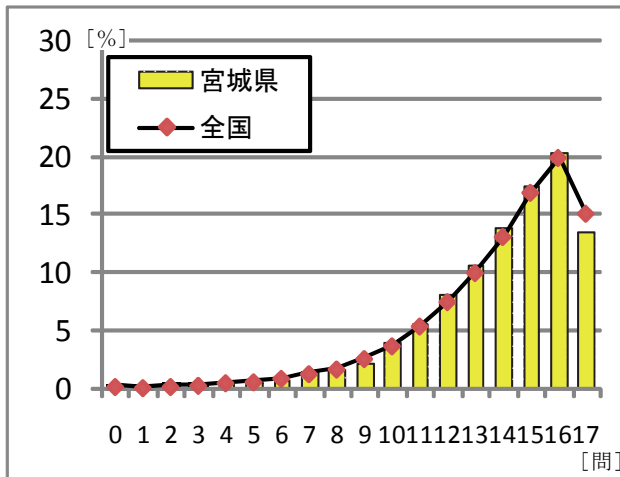
- 平均正答率は81.7%であり、昨年同様全国平均を0.1ポイント上回っている。
- 目的や意図に応じて、必要となる事柄を整理して簡潔に書くことに課題がある。

② 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 今年度は100%正答の割合が全国と比較して減少したが、14問～16問(80%～90%程度)正答した児童の割合が全国を上回っている。

【平成24年度正答数度数分布グラフ】

【平成22年度正答数度数分布グラフ】



③ 領域別の平均正答率

- 「書くこと」を除く領域で、平均正答率が、全国平均を上回る結果となり改善が図られている。
- 「書くこと」の領域の平均正答率は、55.0%で全国平均を2.5ポイント下回り、正答率の乖離も22年度と比べて0.8ポイント大きくなっている。

領域	話すこと・聞くこと					書くこと					読むこと					言語事項					合計				
年度	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19
県平均正答率(%)	79.8	82.7	65.2	76.4	54.5	55.0	66.0	84.9	50.7	83.3	82.5	73.6	67.2	44.1	67.0	86.8	86.0	60.9	64.0	86.0	81.7	83.4	67.4	64.2	80.6
全国平均正答率(%)	79.4	83.2	68.0	76.1	56.6	57.5	67.7	85.4	53.3	85.3	82.1	74.1	68.7	44.5	67.3	86.3	85.8	64.2	65.2	86.8	81.6	83.3	69.9	65.4	81.7
全国との比較	0.4	-0.5	-2.8	0.3	-2.1	-2.5	-1.7	-0.5	-2.6	-2.0	0.4	-0.5	-1.5	-0.4	-0.3	0.5	0.2	-3.3	-1.2	-0.8	0.1	0.1	-2.5	-1.2	-1.1

④ 設問別調査結果

○全国との乖離が大きい設問等 (◇: 乖離がプラス ◆乖離がマイナス, []内の記号は設問番号)

- 話すこと・聞くこと
◇ 収集した情報を関係付けながら話し合い、整理した図の中から適切な内容を取り出して書く問題の正答率は93.0%で、全国平均を0.5ポイント上回っている。[3ア]
- 書くこと
◆ 目的や意図に応じ、新聞の報道記事のリードに必要な事柄を整理し、一文にまとめて書く問題の正答率は38.8%で、全国平均を4.4ポイント下回っている。[7]
◆ 創作した物語の語り手が寄り添っている人物として適切なものを選択する問題の正答率は71.3%で、全国平均を0.5ポイント下回っている。[6]
- 読むこと
◇ 場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、四つの会話文の音読の仕方として適切なものを選択する問題の正答率は74.7%で、全国平均を1.4ポイント上回っている。[4]
- 言語事項
◇ 全ての設問で80%を超える正答率である。「漢字を読む」(3問)、「漢字を書く」(3問)では、全国平均を上回ったものが4問、下回ったものが2問である。[1一(1)～1二(3)]
◇ 日常生活で使われている慣用句を集め、それらの意味を適切に捉える問題の正答率は81.1%で、全国平均を1.4ポイント上回っている。[8]
◆ 学年別漢字配当表に示されている漢字「申」の正しい筆順を適切に捉える問題の正答率は82.3%で、全国平均を0.4ポイント下回っている。[9一]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			宮城県 (公立)		全国 (公立)		正 答 率 の か い 離	無 解 答 率 の か い 離
		話 す こ と ・ 聞 く こ と	書 く こ と	読 む こ と	伝 統 的 な 言 語 文 化 と 国 語 の 特 質 に 関 す る 事 項	選 択 式	短 答 式	記 述 式	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)		
1ー(1)	漢字を読む (新しいビルを建築する)				○				85.4	1.5	89.3	1.3	-3.9	0.2
1ー(2)	漢字を読む (親から独立してくらす)				○				94.9	1.5	92.1	2.4	2.8	-0.9
1ー(3)	漢字を読む (参加することを許す)				○				95.3	1.3	95.2	1.3	0.1	0.0
1二(1)	漢字を書く (病院でいしゃにみてもらう)				○				84.8	3.6	83.1	4.2	1.7	-0.6
1二(2)	漢字を書く (東からたいようがのぼる)				○				80.9	1.6	82.8	1.6	-1.9	0.0
1二(3)	漢字を書く (白いぬのを青くさめる)				○				94.1	2.5	90.5	4.2	3.6	-1.7
2	話し手の話の内容を聞きながら書いた質問について、その狙いを適切に説明したものを選択する	○						○	66.1	0.6	65.2	0.6	0.9	0.0
3ア	収集した情報を関係付けながら話し合い、整理した図の中から適切な内容を取り出して書く	○						○	93.0	0.9	92.5	0.9	0.5	0.0
3イ	収集した情報を関係付けながら話し合い、整理した図の中から共通する内容を取り出して書く	○						○	80.3	0.9	80.4	1.1	-0.1	-0.2
4	四つの会話文の音読の仕方として適切なものをそれぞれ選択する			○				○	74.7	0.5	73.3	0.6	1.4	-0.1
5ア	百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を取り出して書く			○				○	91.1	1.2	91.1	1.5	0.0	-0.3
5イ				○				○	93.0	1.4	92.2	1.7	0.8	-0.3
6	創作した物語の語り手が寄り添っている人物として適切なものを選択する		○	○				○	71.3	1.3	71.8	1.4	-0.5	-0.1
7	新聞の報道記事のリードに必要な事柄を整理し、一文にまとめて書く		○					○	38.8	6.9	43.2	7.5	-4.4	-0.6
8	日常生活で使われている慣用句を集め、それらの意味を適切に捉える				○			○	81.1	6.5	79.7	6.6	1.4	-0.1
9ー	学年別漢字配当表に示されている漢字(申)の正しい筆順を適切に捉える				○			○	82.3	6.6	82.7	6.7	-0.4	-0.1
9二	学年別漢字配当表に示されている漢字(赤)の正しい筆順を適切に捉える				○			○	82.5	6.7	81.4	7.0	1.1	-0.3

(2) 小学校国語B問題

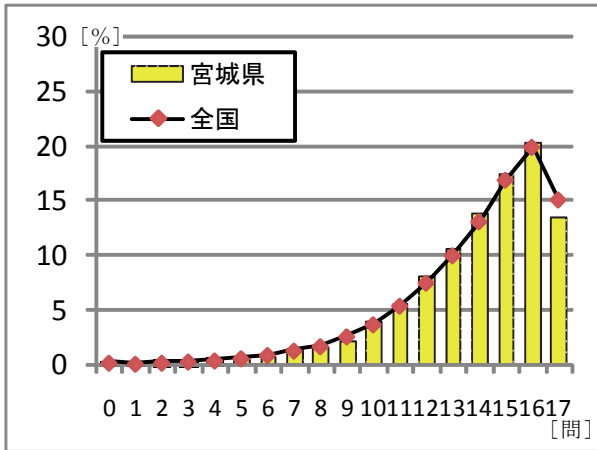
① 結果の概要

- 平均正答率は55.9%であり、全国平均を0.3ポイント上回り、改善が見られる。
- 「話すこと・聞くこと」の領域では、資料を読み取った上で、質問をしたい内容を明確にして発表すること、「書くこと」の領域では、複数の記事を結びつけながら読み、事実を基にして自分の考えを記述することに課題が見られる。

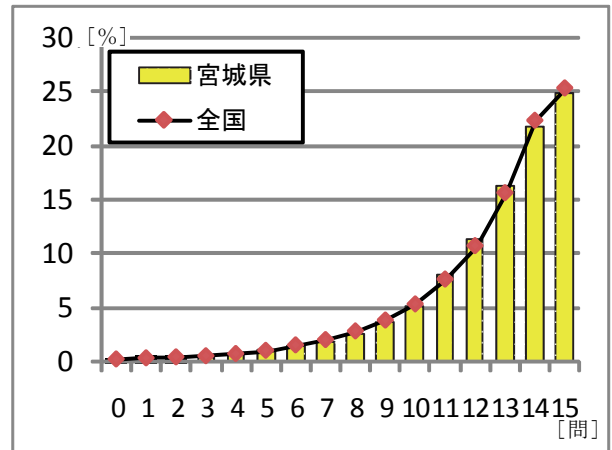
② 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国とのかい離はほとんど見られないが、10問(60%)以上正答している児童の割合が全国と同じになり、また、正答数の少ない児童の割合が全国より減少し、底上げが図られている状況が見られる。

【平成24年度正答数度数分布グラフ】



【平成22年度正答数度数分布グラフ】



③ 領域別の平均正答率

- 「書くこと」の領域の平均正答率は47.0%であり、全国平均を0.2ポイント上回っている。
- 「読むこと」と「言語事項」の領域の平均正答率は全国平均を下回ったが、全国平均とのかい離がそれぞれ0.2ポイント小さくなっている。

領域	話すこと・聞くこと					書くこと					読むこと					言語事項					合計				
	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19
県平均正答率(%)	62.6	75.0	61.1	72.7	67.6	47.0	92.2	12.7	48.0	60.5	55.6	73.1	55.6	46.6	56.5	54.7	72.3	58.5	79.4	55.9	77.7	49.8	49.2	61.0	
全国平均正答率(%)	63.0	75.4	61.3	73.0	70.9	46.8	91.6	14.5	49.1	61.7	55.7	73.4	56.5	48.3	57.7	55.2	73.0	59.7	77.0	55.6	77.8	50.5	50.5	62.0	
全国との比較	-0.4	-0.4	-0.2	-0.3	-3.3	0.2	0.6	-1.8	-1.1	-1.2	-0.1	-0.3	-0.9	-1.7	-1.2	-0.5	-0.7	-1.2	2.4	0.3	-0.1	-0.7	-1.3	-1.0	

④ 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇ : かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

話すこと・聞くこと

- ◆ 資料を読み取った上で、質問をしたい内容を明確にして発表する問題の正答率は50.7%であり、全国平均を1.9ポイント下回っている。[2二]

書くこと

- ◇ 目的や意図に応じ、依頼する具体的な内容として適切なものを選択する問題の正答率は67.1%であり、全国平均を2.3ポイント上回っている。[1一]
- ◆ 二つの記事に書かれている内容を結びつけながら読み、理由となる事実を基にして自分の考えを記述する問題の正答率は34.9%であり、全国平均を2.8ポイント下回っている。[3四]

読むこと

- ◇ 目的に応じて、雑誌の特徴を適切に説明しているものを選択する問題の正答率は88.7%であり、全国平均を1.4ポイント上回っている。[3ア]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			宮城県 (公立)		全国 (公立)		正 答 率 の か い 離	無 解 答 率 の か い 離
		話 す こ と ・ 聞 く こ と	書 く こ と	読 む こ と	伝 統 的 な 言 語 文 化 と 国 語 の 特 質 に 関 す る 事 項	選 択 式	短 答 式	記 述 式	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)		
1一	目的や意図に応じ、依頼する具体的な内容として適切なものを選択する		○			○			67.1	2.4	64.8	2.4	2.3	0.0
1二	目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら、返事の仕方と内容を記述する		○		○		○		54.7	6.4	55.2	7.0	-0.5	-0.6
1三	手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置を適切に選択する		○			○			27.7	2.0	23.5	2.1	4.2	-0.1
2一	参加者から出された質問の内容を適切に捉え、まとめごとに整理する	○				○			84.8	2.2	84.3	2.5	0.5	-0.3
2二	提示された資料を読み取った上で、相手に対して質問をしたい内容を明確にして発表するように記述する	○	○				○		50.7	14.7	52.6	14.5	-1.9	0.2
2三	話し合いの目的を再確認し、計画的に話し合いを進めようとする司会の役割を適切に説明したものを選択する	○				○			52.4	7.4	52.2	7.6	0.2	-0.2
3一ア	雑誌の特徴の説明として適切なものを選択する			○		○			88.7	2.0	87.3	2.6	1.4	-0.6
3一イ	記事の特徴の説明として適切なものを取り出して書く			○			○		44.7	9.0	45.0	9.0	-0.3	0.0
3二	編集者の意図を説明したものとして適切なものを選択する			○		○			51.9	3.2	51.0	3.8	0.9	-0.6
3三	目的に応じ、複数の記事を結び付けながら読もうとするとき、該当する記事の見出しとして適切なものを選択する			○		○			57.8	3.6	57.6	4.2	0.2	-0.6
3四	二つの記事に書かれている内容を結び付けながら読み、理由となる事実を基にして自分の考えを記述する		○	○			○		34.9	16.9	37.7	17.0	-2.8	-0.1

(3) 小学校算数A問題

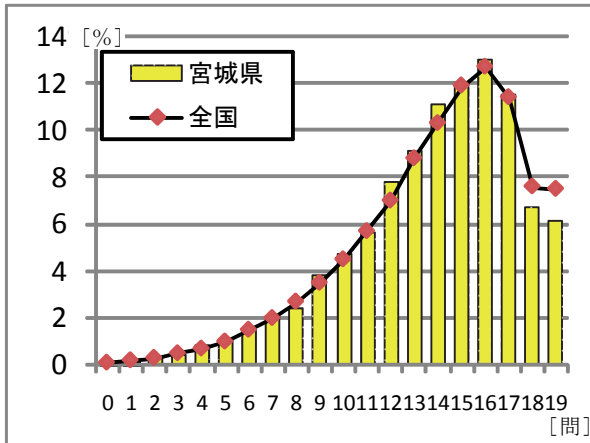
① 結果の概要

- 平均正答率は72.7%であり，全国平均を0.6ポイント下回っている。また，全国平均とのかい離は22年度より0.2ポイント大きくなっており，課題が見られる。
- 除数が整数である場合の分数の除法の計算や，加法と乗法の混合した整数の計算，百分率の意味の理解などに課題がある。

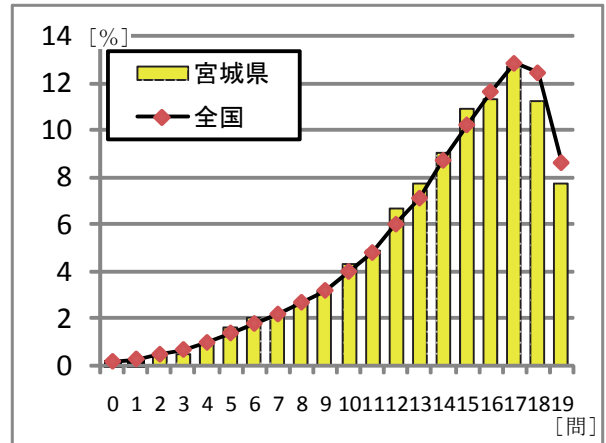
② 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 22年度と同様に18問（95%程度）以上正答した児童の割合が全国と比べて低い状況が見られ，逆に12問～15問（65%～80%程度）正答した児童の割合は，全国と比べて高くなっている。

【平成24年度正答数度数分布グラフ】



【平成22年度正答数度数分布グラフ】



③ 領域別の平均正答率

- 「図形」の領域の平均正答率は73.0%で全国平均を上回っており，「量と測定」の領域は全国平均を下回っているものの，全国平均とのかい離は，22年度よりも1.4ポイント小さくなっている。「数と計算」，「数量関係」の領域とも全国平均を下回っており，全国とのかい離は22年度より大きくなり，課題が見られる。

領域	数と計算					量と測定					図形					数量関係					合計				
	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19
県平均正答率(%)	74.6	75.0	81.2	76.2	79.6	71.0	72.0	77.4	56.1	85.1	73.0	83.7	81.1	71.6	86.3	71.9	63.4	63.0	69.8	74.0	72.7	73.8	77.5	71.3	81.1
全国平均正答率(%)	75.0	74.1	82.8	76.8	81.5	71.7	74.1	78.5	56.2	86.1	72.6	83.1	81.3	72.7	86.1	74.4	65.7	64.2	72.4	75.4	73.3	74.2	78.7	72.2	82.1
全国との比較	-0.4	0.9	-1.6	-0.6	-1.9	-0.7	-2.1	-1.1	-0.1	-1.0	0.4	0.6	-0.2	-1.1	0.2	-2.5	-2.3	-1.2	-2.6	-1.4	-0.6	-0.4	-1.2	-0.9	-1.0

④ 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇ : かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

数と計算

- ◆ 除数が整数である場合の分数の除法の計算の正答率は76.0%であり，全国平均を6.4ポイント下回っている。[1(7)]

量と測定

- ◆ 三角形の底辺と高さの関係についての理解の問題の正答率は54.1%であり，全国平均を0.5ポイント下回っている。[5(2)]

図形

- ◇ 四角形の四つの角の大きさの和が360°であることの理解の問題の正答率は78.3%であり，全国平均を1.4ポイント上回っている。[6(1)]

数量関係

- ◆ 加法と乗法の混合した整数の計算の正答率は76.9%であり，全国平均を3.1ポイント下回っている。[1(5)]
- ◆ 百分率の意味についての理解の問題の正答率は55.6%であり，全国平均を2.7ポイント下回っている。[8]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			宮城県 (公立)		全国 (公立)		正 答 率 の か い 離	無 回 答 率 の か い 離
		数 と 計 算	量 と 測 定	図 形	数 量 関 係	選 択 式	短 答 式	記 述 式	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)		
1 (1)	132+459 を計算する	○						○	96.4	0.1	95.7	0.1	0.7	0.0
1 (2)	148÷37 を計算する	○						○	94.7	1.2	94.3	1.5	0.4	-0.3
1 (3)	4.6-0.21 を計算する	○						○	64.9	1.4	63.1	1.6	1.8	-0.2
1 (4)	90×0.7 を計算する	○						○	90.7	0.5	90.8	0.8	-0.1	-0.3
1 (5)	6×2+8×3 を計算する				○			○	76.9	0.3	80.0	0.5	-3.1	-0.2
1 (6)	3/7-2/5 を計算する	○						○	85.5	1.9	85.7	2.1	-0.2	-0.2
1 (7)	4/5÷8 を計算する	○						○	76.0	6.7	82.4	4.2	-6.4	2.5
2 (1)	47000は1000が何個集まった数かを書く	○						○	90.3	0.5	88.8	0.5	1.5	0.0
2 (2)	596の1/100の大きさの数を小数で書く	○						○	73.8	3.5	73.7	3.7	0.1	-0.2
3 (1)	120cmの赤いテープの長さが白いテープの長さの0.6倍に当たるとき、二つのテープの長さの関係を表している図を選ぶ	○						○	32.0	1.0	34.0	1.2	-2.0	-0.2
3 (2)	120cmの赤いテープの長さが白いテープの長さの0.6倍に当たるとき、白いテープの長さを求める式を書く	○						○	41.6	3.1	41.1	3.4	0.5	-0.3
4	5日間で1日に平均何個のトマトがとれたことになるのかを書く		○					○	85.7	1.2	86.9	1.1	-1.2	0.1
5 (1)	示されたはがきの面積は約何cmかを選ぶ		○					○	60.8	1.0	60.6	1.2	0.2	-0.2
5 (2)	三角形の底辺に対応する高さを選ぶ		○					○	54.1	1.0	54.6	1.2	-0.5	-0.2
6 (1)	三つの角の大きさが60°、80°、90°である四角形の、残りの角の大きさを書く			○				○	78.3	2.1	76.9	2.1	1.4	0.0
6 (2)	直方体において、与えられた面に垂直な辺を書く			○				○	65.2	2.7	64.8	2.7	0.4	0.0
7	示された半円をかくために、コンパスの針を刺す場所と、コンパスの開いている長さを答える			○				○	75.7	1.5	76.1	1.6	-0.4	-0.1
8	犬を飼っている8人が学級全体の人数の25%に当たるとき、学級全体の人数を求める式と答えを書く				○			○	55.6	10.5	58.3	10.0	-2.7	0.5
9	直方体の底面の大きさを変えずに、高さを2倍、3倍、…にすると、体積はどのように変わるかを選ぶ		○		○			○	83.2	3.6	84.8	3.4	-1.6	0.2

(4) 小学校算数B問題

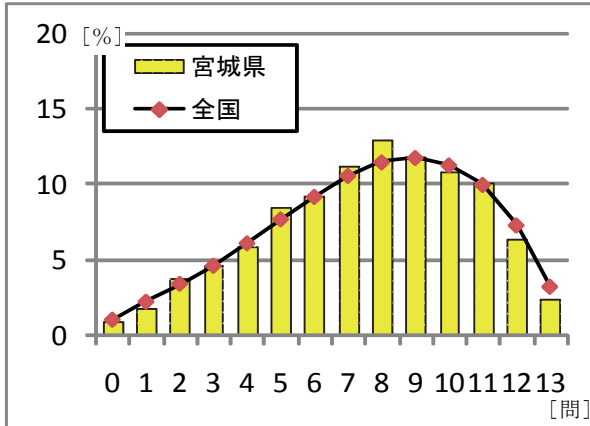
① 結果の概要

- 平均正答率は58.1%であり、全国平均を0.8ポイント下回っている。しかし、全国平均とのかい離は22年度より0.7ポイント小さくなっており、やや改善が見られる。
- 「跳び箱の高さを変えることができるかを判断し、そのわけを書く」、「表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を書く」などの問題について課題がある。

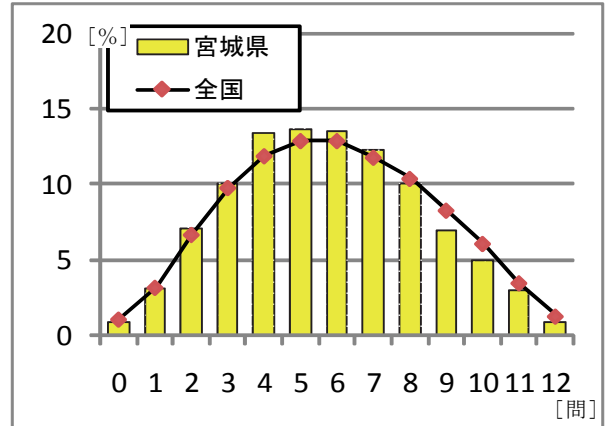
② 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向がみられる。
- 全国と比べ、12問（90%程度）以上正答した児童の割合は低い状況が見られる。

【平成24年度正答数度数分布グラフ】



【平成22年度正答数度数分布グラフ】



③ 領域別の平均正答率

- 全ての領域で全国平均を下回っているものの、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の各領域において、22年度より全国平均とのかい離が小さくなっている。「数と計算」の領域においては、全国平均とのかい離は、22年度より大きくなり、課題が見られる。

領域	数と計算					量と測定					図形					数量関係					合計				
	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19
県平均正答率(%)	52.5	54.8	55.0	64.3	55.0	60.2	30.6	58.7	51.9	55.7	63.2	40.3	54.6	59.9	71.0	48.1	52.8	57.1	43.8	63.6	58.1	47.8	54.0	50.4	61.4
全国平均正答率(%)	54.0	55.8	55.8	65.2	58.9	60.8	33.3	59.9	53.3	58.0	63.3	42.0	56.4	61.2	72.5	49.5	54.3	56.8	44.9	65.5	58.9	49.3	54.8	51.6	63.6
全国との比較	-1.5	-1.0	-0.8	-0.9	-3.9	-0.6	-2.7	-1.2	-1.4	-2.3	-0.1	-1.7	-1.8	-1.3	-1.5	-1.4	-1.5	0.3	-1.1	-1.9	-0.8	-1.5	-0.8	-1.2	-2.2

④ 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇ : かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

数と計算	◆ 示された複数の情報を関連付けて解釈し、算数の用語で的確に表現されている記述を選ぶ問題の正答率は53.9%で、全国平均を2.3ポイント下回っている。 [2(3)]
量と測定	◇ 面積が等しい直角三角形の数に着目し、長方形に内接するひし形の面積の求め方の理解の問題の正答率は75.7%で、全国平均を1.5ポイント上回っている。 [3(1)] ◇ 与えられた条件に合う時刻を求める問題の正答率は82.2%で、全国平均を0.9ポイント上回っている。 [4(1)]
図形	◆ 一輪車の図から円を見だし、円の性質を用いて長さを求める問題の正答率は63.5%で、全国平均を0.9ポイント下回っている。 [5(1)]
数量関係	◆ 必要な情報を用いて、指定された高さにすることができるかどうかを判断し、その理由を記述する問題の正答率は23.7%で、全国平均を3.1ポイント下回っている。 [2(2)] ◆ 表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を記述する問題の正答率は20.2%で、全国平均を3.1ポイント下回っている。 [5(3)]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			宮城県(公立)		全国(公立)		正答率の かい離	無回答率の かい離
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)		
1(1)	代金320円に対して520円を支払ったとき、おつりとしてもらった2枚の硬貨の種類を書く	○					○		92.2	0.3	92.6	0.5	-0.4	-0.2
1(2)	代金630円に対して、1030円よりも1130円を支払ったときの方が、おつりの硬貨の枚数が少なくなるわけを書く	○					○		40.7	5.9	42.5	5.6	-1.8	0.3
2(1)	中型の跳び箱を8段にしたときの高さを求める式を選ぶ		○		○	○			87.5	0.9	87.1	1.0	0.4	-0.1
2(2)	中型の跳び箱を70cmの高さにすることができるかどうかを判断し、そのわけを書く	○	○		○		○		23.7	1.2	26.8	1.3	-3.1	-0.1
2(3)	2種類の跳び箱を30cm高くすると同じ高さになるわけとして、正しい記述を選ぶ	○	○			○			53.9	2.1	56.2	2.2	-2.3	-0.1
3(1)	縦6cm、横10cmの長方形に内接するひし形の面積を求める式と答えを書く		○	○			○		75.7	3.4	74.2	4.1	1.5	-0.7
3(2)	面積が等しい直角三角形を基に、長方形に内接する四角形の面積と長方形の面積の関係を 書く		○	○			○		50.4	8.7	51.2	8.6	-0.8	0.1
4(1)	午前11時30分までにご飯が出来上がるようにするために、所要時間40分を基に、こんろに点火する時刻を求める		○				○		82.2	1.5	81.3	1.7	0.9	-0.2
4(2)	40分以内でできることを判断するために、所要時間の範囲から適切な数値の組み合わせを書く	○	○				○		72.0	1.9	72.8	2.0	-0.8	-0.1
4(3)	はかりの目盛りと1人分の材料と分量を基に、班の人数分のご飯を作るために必要な水の重さの求め方と答えを書く	○	○				○		32.5	11.9	32.8	10.9	-0.3	1.0
5(1)	一輪車の高さを調節したときの、示された長さを求める		○	○			○		63.5	6.2	64.4	5.7	-0.9	0.5
5(2)	一輪車のタイヤの回転数と進んだ長さが比例の関係にあることを基に、トラック一周の長さを求める式を選ぶ				○	○			61.2	5.8	60.9	5.8	0.3	0.0
5(3)	示された表から、合計の人数を基にした乗れる人数の割合は、男子と女子ではどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く				○		○		20.2	10.7	23.3	10.6	-3.1	0.1

(5) 小学校理科問題

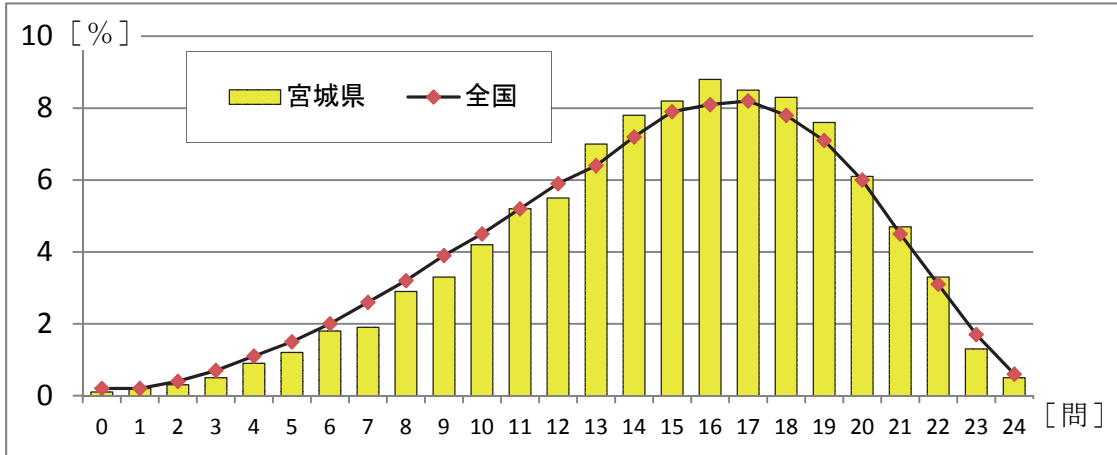
① 結果の概要

- 平均正答率は 62.1% であり、全国平均を 1.2 ポイント上回っている。
- 全ての領域で、平均正答率が全国平均を上回っている。
- 平均無答率は、全 24 問中 22 問で全国平均を下回っている。
- 記述式の問題の平均正答率は、3 問全てで全国平均を下回っている。

② 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 13 問～22 問(54%～92%程度)正答した児童の割合が全国平均を上回り、正答数が 12 問(50%)以下と 23 問(95%程度)以上の児童の割合が全国平均を下回っている。

【平成 24 年度正答数度数分布グラフ】



③ 領域別の平均正答率

- 主として「知識」に関する問題の平均正答率が 71.5% で、全国平均を 2.4 ポイント上回っている。
- 主として「活用」に関する問題の平均正答率が 58.3% で、全国平均を 0.7 ポイント上回っている。
- 「物質」の領域の平均正答率が 63.2% で 1.8 ポイント、「エネルギー」の領域の平均正答率が 60.4% で 0.6 ポイント、「生命」の領域の平均正答率が 69.8% で 1.2 ポイント、「地球」の領域の平均正答率が 51.4% で 0.8 ポイント、それぞれ全国平均を上回っている。 [%]

	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	物質	エネルギー	生命	地球	合計
県平均正答率 (%)	71.5	58.3	63.2	60.4	69.8	51.4	62.1
全国平均正答率 (%)	69.1	57.6	61.4	59.8	68.6	50.6	60.9
全国との比較	2.4	0.7	1.8	0.6	1.2	0.8	1.2

④ 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇ : かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

物質	◇ 氷砂糖を水に溶かしたときの全体の重さについて、当てはまるものを選ぶ問題の正答率は 82.4% で、全国平均を 6.1 ポイント上回っている。[1(2)]
	◇ 氷砂糖を細かく割ったときの全体の重さについて、当てはまるものを選ぶ問題の正答率は 89.7% で、全国平均を 3.9 ポイント上回っている。[1(1)]
	◇ 梅ジュースに溶けている砂糖の濃さについて、適切に説明しているものを選ぶ問題の正答率は 68.5% で、全国平均を 2.9 ポイント上回っている。[1(4)]
	◆ 水の状態変化の説明として、当てはまる言葉(温度)を選ぶ問題の正答率は 42.6% で、全国平均を 0.9 ポイント下回っている。[3(5)キ]
エネルギー	◇ 車を動かす力を強くするための工夫について、乾電池のつなぎ方について当てはまる言葉を書く問題の正答率は 64.3% で、全国平均を 2.6 ポイント上回っている。[3(1)イ]
	◆ 車の進行方向と電流の向きとを関係付けて考え、並列つなぎの適切なつなぎ方を選ぶ問題の正答率は 50.7% で、全国平均を 2.0 ポイント下回っている。[3(3)]
	◆ ゴムをねじる回数と車の進む距離の関係を示すグラフから、ゴムをねじる回数を選ぶ問題の正答率は 55.7% で、全国平均を 1.7 ポイント下回っている。[3(2)]
生命	◇ 虫眼鏡の適切な操作方法を選ぶ問題の正答率は 68.8% で、全国平均を 3.8 ポイント上回っている。[2(1)]
	◇ 「おしべの花粉がめしべの先につく」ことを表す言葉を書く問題の正答率は 80.1% で、全国平均を 2.9 ポイント上回っている。[2(4)]
	◆ スイカの受粉と結実の関係を調べる実験について、適切な実験方法を選び、選んだわけを書く問題の正答率は 30.8% で、全国平均を 1.3 ポイント下回っている。[2(5)]
地球	◆ 天気の様子と気温の変化とを関係付けて、気温の変化を表したグラフを選び、選んだわけを書く問題の正答率は 16.3% で、全国平均を 0.6 ポイント下回っている。[4(5)]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			宮城県 (公立)		全国 (公立)		正 答 率 の か い 離	無 正 答 率 の か い 離
		物質	エネルギー	生命	地球	選択式	短答式	記述式	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)		
1 (1)	氷砂糖を細かく割ったときの全体の重さについて、当てはまるものを選ぶ	○				○			89.7	0.1	85.8	0.3	3.9	-0.2
1 (2)	氷砂糖を水に溶かしたときの全体の重さについて、当てはまるものを選ぶ	○				○			82.4	0.2	76.3	0.4	6.1	-0.2
1 (3)	砂糖水に溶けている氷砂糖の様子について、実験結果から適切な図を選び、選んだわけを書く	○						○	53.9	0.7	54.4	0.9	-0.5	-0.2
1 (4)	梅ジュースに溶けている砂糖の濃さについて、適切に説明しているものを選ぶ	○				○			68.5	0.4	65.6	0.6	2.9	-0.2
2 (1)	虫眼鏡の適切な操作方法を選ぶ			○		○			68.8	0.3	65.0	0.5	3.8	-0.2
2 (2) ア	4月25日のサクラの様子について、データを基に、それぞれ当てはまるものを選ぶ			○		○			73.3	0.7	73.0	0.8	0.3	-0.1
2 (2) イ				○		○			89.6	0.7	88.4	0.8	1.2	-0.1
2 (3) 太郎	サクラが開花する地域について、データを基に、それぞれ当てはまるものを選ぶ			○		○			75.6	1.7	75.5	1.7	0.1	0.0
2 (3) 花子				○		○			70.7	1.6	68.9	1.6	1.8	0.0
2 (4)	「おしべの花粉がめしべの先につく」ことを表す言葉を書く			○			○		80.1	8.6	77.2	10.2	2.9	-1.6
2 (5)	スイカの受粉と結実の関係を調べる実験について、適切な実験方法を選び、選んだわけを書く			○			○		30.8	4.1	32.1	4.6	-1.3	-0.5
3 (1) ア	車を動かす力を強くするための工夫について、光電池の特性や乾電池のつなぎ方から当てはまる言葉を書く		○				○		78.6	3.7	76.5	4.3	2.1	-0.6
3 (1) イ			○				○		64.3	4.4	61.7	5.4	2.6	-1.0
3 (2)	ゴムをねじる回数と車の進む距離の関係を示すグラフから、ゴムをねじる回数を選ぶ		○			○			55.7	0.6	57.4	1.0	-1.7	-0.4
3 (3)	車の進行方向と電流の向きとを関係付けて考え、並列つなぎの適切なつなぎ方を選ぶ		○			○			50.7	1.0	52.7	1.3	-2.0	-0.3
3 (4)	電磁石の強さを変えるための実験条件を書く		○				○		52.6	6.4	50.6	7.2	2.0	-0.8
3 (5) オ	水の状態変化の説明として、当てはまる言葉を選ぶ	○				○			63.2	1.8	62.1	2.4	1.1	-0.6
3 (5) カ		○				○			42.4	2.2	42.4	2.8	0.0	-0.6
3 (5) キ		○					○		42.6	2.8	43.5	3.4	-0.9	-0.6
4 (1)	方位磁針の適切な操作方法を選び、その時の太陽の方位を書く				○		○		28.0	2.9	27.3	3.2	0.7	-0.3
4 (2)	方位磁針の名称を書く				○		○		90.9	4.8	89.8	5.7	1.1	-0.9
4 (3)	「かげの観察記録」を基に、木の影の長さの変化を表したグラフを選ぶ				○	○			56.2	3.1	54.6	3.9	1.6	-0.8
4 (4)	木の影がなかった時間の空の様子を選ぶ				○	○			65.8	3.2	64.6	4.1	1.2	-0.9
4 (5)	天気の様子と気温の変化とを関係付けて、気温の変化を表したグラフを選び、選んだわけを書く				○		○		16.3	6.1	16.9	6.7	-0.6	-0.6

(6) 中学校国語A問題

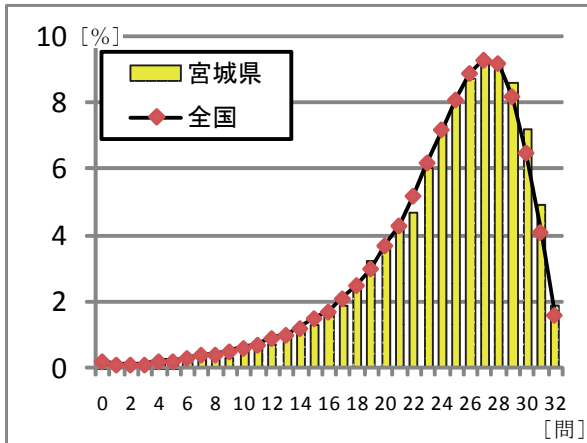
① 結果の概要

- 平均正答率は76.2%であり、22年度と同様に全国平均を1.1ポイント上回る結果となっている。
- 「話すこと・聞くこと」や「書くこと」「読むこと」「言語事項」の全ての領域において全国平均を上回り、基礎的・基本的な内容に関する知識・技能について、改善が図られている。

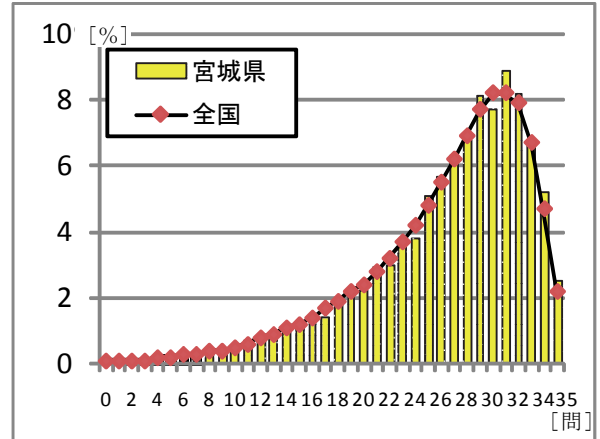
② 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 29問(90%程度)以上正答した生徒の割合が、全国と比べてやや高い状況が見られる。

【平成24年度正答数度数分布グラフ】



【平成22年度正答数度数分布グラフ】



③ 領域別の平均正答率

- 「話すこと・聞くこと」や「書くこと」「読むこと」「言語事項」の全ての領域において全国平均を上回っている。特に、「話すこと・聞くこと」の領域では全国平均を1.7ポイント、「読むこと」の領域では22年度同様、全国平均を1.3ポイント上回っている。

領域	話すこと・聞くこと					書くこと					読むこと					言語事項					合計				
	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19
県平均正答率(%)	89.4	75.6	87.0	80.3	90.3	89.0	71.6	65.8	55.8	74.1	66.7	77.9	76.7	71.2	79.9	74.7	76.8	77.4	75.4	78.2	76.2	76.2	78.1	73.8	80.8
全国平均正答率(%)	87.7	74.2	86.8	80.1	90.1	88.1	71.1	64.6	55.2	73.4	65.4	76.6	75.7	71.0	80.6	73.7	75.8	76.0	75.2	80.3	75.1	75.1	77.0	73.6	81.6
全国との比較	1.7	1.4	0.2	0.2	0.2	0.9	0.5	1.2	0.6	0.7	1.3	1.3	1.0	0.2	-0.7	1.0	1.0	1.4	0.2	-2.1	1.1	1.1	1.1	0.2	-0.8

④ 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

話すこと・聞くこと	◇ 「難易度が高くなるので」を聞き手や場面を意識して分かりやすい表現に直す問題の正答率は91.7%であり、全国平均を1.6ポイント上回っている。 [4一]
書くこと	◇ 時候の挨拶に書き足した文の説明として適切なものを選択する問題の正答率は87.2%であり、全国平均を2.3ポイント上回っている。[2二]
読むこと	◇ 取扱い絵表示の内容に加えて気を付けなければならないこととして適切なものを選択する問題の正答率は43.0%であり、全国平均を2.7ポイント上回っている。[6二]
言語事項	◆ 「諸行むじやう」を漢字で書いたものとして適切なものを選択する問題の正答率は53.9%で、全国平均を13.1ポイント下回っている。[7七1]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			宮城県(公立)		全国(公立)		正答率の かい離	無解答率の かい離
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)		
1一	指示棒が指す箇所として適切なものを選択する	○				○			87.1	0.2	85.4	0.3	1.7	-0.1
1二	話題が変わる箇所として適切なものを選択する				○	○			86.8	0.2	85.0	0.4	1.8	-0.2
2一	手紙の前文の最初に書かれる言葉の名称として適切なものを選択する		○			○			89.0	0.4	89.2	0.4	-0.2	0.0
2二	時候の挨拶に書き足した文の説明として適切なものを選択する		○			○			87.2	0.3	84.9	0.5	2.3	-0.2
3一	「よく熟した夏ミカン」に対応する東京の情景を本文中から抜き出す			○			○		87.0	1.8	85.9	2.3	1.1	-0.5
3二	「この村の月は、まるでよく熟した夏ミカンだ」に使われている表現の技法の名称を書く			○			○		41.9	19.3	40.4	18.3	1.5	1.0
4一	「難易度が高くなるので」を聞き手に分かりやすい表現に直す	○					○		91.7	1.6	90.1	2.0	1.6	-0.4
4二	「生徒会活動(小学校……児童会活動)」を場に応じた話し言葉にする				○		○		51.4	6.6	47.1	7.7	4.3	-1.1
5一	文章の特徴として適切なものを選択する		○			○			91.9	0.4	90.6	0.6	1.3	-0.2
5二	文鎖について説明する一文を書き加える		○				○		88.1	3.1	87.8	3.6	0.3	-0.5
6一	「このような現象」が何と呼ばれているかを本文中から抜き出す			○			○		70.2	2.2	68.1	3.1	2.1	-0.9
6二	取扱い絵表示の内容に加えて気を付けなければならないこととして適切なものを選択する			○		○			43.0	0.4	40.3	0.6	2.7	-0.2
7一1	漢字を書く(地域の人を <u>ショウタイ</u> する)				○		○		50.9	15.4	51.5	14.7	-0.6	0.7
7一2	漢字を書く(メートルは長さの <u>タンイ</u> である)				○		○		86.2	7.7	86.1	7.4	0.1	0.3
7一3	漢字を書く(鉛筆を <u>カ</u> る)				○		○		71.1	5.7	69.3	5.7	1.8	0.0
7二1	漢字を読む(考えに <u>相違</u> がある)				○		○		69.4	11.2	64.5	12.5	4.9	-1.3
7二2	漢字を読む(不純物が <u>沈殿</u> する)				○		○		88.2	4.6	84.6	6.0	3.6	-1.4
7二3	漢字を読む(会議で決を <u>採</u> る)				○		○		75.7	4.3	73.8	4.8	1.9	-0.5
7三ア	適切な語句を選択する(このカーテンの色は、部屋の雰囲気とよく <u>調和</u> している)				○	○			84.5	0.5	82.6	0.7	1.9	-0.2
7三イ	適切な敬語を選択する(先生が、私の家に <u>いらっしやる</u>)				○	○			92.2	0.4	89.0	0.6	3.2	-0.2
7三ウ	適切な語句を選択する(弟子を手塩に <u>かけて</u> 育てる)				○	○			63.2	0.8	60.6	1.1	2.6	-0.3
7三エ	適切な語句を選択する(<u>左なびく</u> 雲の間から、春の光がもれてくる)				○	○			48.6	0.5	46.9	0.8	1.7	-0.3
7三オ	適切な語句を選択する(<u>いかなる</u> 困難にもひるむことなく仕事を進めた)				○	○			94.8	0.5	93.5	0.7	1.3	-0.2
7四ア	適切な対義語を選択する(受信)				○	○			88.7	0.4	87.5	0.7	1.2	-0.3
7四イ	適切な対義語を選択する(理想)				○	○			69.9	0.4	66.3	0.8	3.6	-0.4
7五	はがきの表書きを書く				○		○		71.5	2.6	73.7	2.7	-2.2	-0.1
7六1	ローマ字で書く(たけくらべ)				○		○		88.2	2.3	88.8	2.3	-0.6	0.0
7六2	ローマ字を読む(Tosa <u>nikki</u>)				○		○		81.8	4.6	81.9	4.2	-0.1	0.4
7七1	「諸行むじやう」を漢字で書いたものとして適切なものを選択する				○	○			53.9	0.7	67.0	1.1	-13.1	-0.4
7七2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(あらはず)			○			○		91.4	3.0	92.6	3.5	-1.2	-0.5
7八1	漢字の音読みと訓読みの説明として適切なものを選択する				○	○			71.7	0.9	72.0	1.3	-0.3	-0.4
7八2	漢和辞典の「意味」の中から、「観光」の「光」の意味として適切なものを選択する				○	○			80.0	1.4	76.6	1.6	3.4	-0.2

※ 小学校学習指導要領による。

(7) 中学校国語B問題

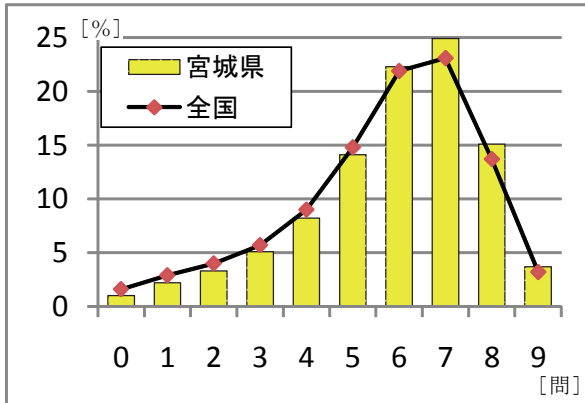
① 結果の概要

- 平均正答率が65.5%であり、全国平均を2.2ポイント上回っている。
- 全ての問題の正答率が、全国を上回っている。
- 全ての問題で、無解答率が全国を下回っている。

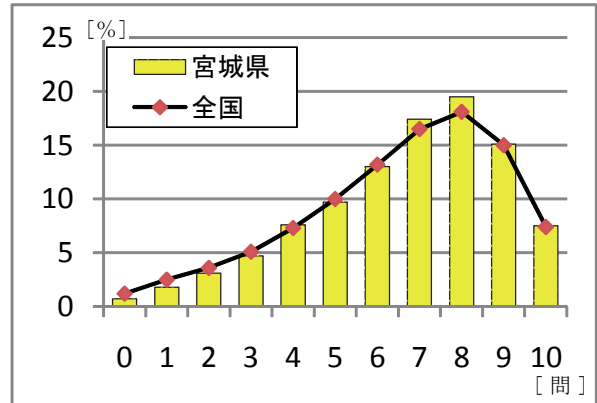
② 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 7問(80%程度)以上正答した生徒の割合が全国と比べてやや高く、正答数の少ない生徒の割合が減少し、底上げが図られている状況が見られる。

【平成24年度正答数度数分布グラフ】



【平成22年度正答数度数分布グラフ】



③ 領域別の平均正答率

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域全てにおいて全国平均を上回り、特に「話すこと・聞くこと」の領域では全国平均を2.0ポイント、「読むこと」の領域では全国平均を2.5ポイント上回っている。

領域	話すこと・聞くこと					書くこと					読むこと					言語事項					合計						
	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19		
県平均正答率(%)	61.9	47.5			81.8	59.1	62.8	75.0	48.1	63.4	64.0	68.8	76.4	61.8	69.8						63.1	67.4	65.5	66.7	76.4	61.8	71.0
全国平均正答率(%)	59.9	45.6			81.3	57.4	60.2	72.5	46.7	64.4	61.5	67.5	74.5	60.8	70.6						60.5	68.5	63.3	65.3	74.5	60.8	72.0
全国との比較	2.0	1.9			0.5	1.7	2.6	2.5	1.4	-1.0	2.5	1.3	1.9	1.0	-0.8						2.6	-1.1	2.2	1.4	1.9	1.0	-1.0

④ 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

話すこと・聞くこと	◇ 相手の話を踏まえて話す問題の正答率が81.7%、話の展開に注意して聞く問題の正答率が83.3%であり、いずれも全国平均を2.5ポイント上回っている。 [1一, 1二]
書くこと	◇ 効果的に伝わるように、相手に応じて内容や表現の仕方を工夫して書く問題の正答率が84.2%であり、全国平均を1.7ポイント上回っている。[2二] ◇ これからどのような言葉の使い方をしたいのかを具体的な言葉の例を挙げて書く問題の正答率が20.6%であり、全国平均を0.9ポイント上回っている。 [1三]
読むこと	◇ 文脈の中における語句の意味を捉え、「被写体」を言い換えている言葉を本文中から抜き出す問題の正答率は86.8%であり、全国平均を2.5ポイント上回っている。[2一] ◇ 物語に描かれている季節を選択する問題の正答率は37.5%であり、全国平均を3.3ポイント上回っている。[3二]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			宮城県 (公立)		全国 (公立)		正答率 の かい離	無解答率 の かい離
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)		
1一	対談での発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	○				○			81.7	0.2	79.2	0.4	2.5	-0.2
1二	対談の展開を整理したものとして適切なものを選択する	○				○			83.3	0.3	80.8	0.4	2.5	-0.1
1三	これからどのような言葉の使い方をしたいのかを具体的な言葉の例を挙げて書く	○	○					○	20.6	11.4	19.7	13.9	0.9	-2.5
2一	「被写体」を言い換えている言葉を本文中から抜き出す			○			○		86.8	3.7	84.3	4.9	2.5	-1.2
2二	祖母向けの説明書の工夫として適切なものを選択する		○			○			84.2	0.3	82.5	0.5	1.7	-0.2
2三	祖母向けの説明書の一部を書く		○	○				○	69.8	6.9	68.4	8.1	1.4	-1.2
3一	物語について説明したものとして適切なものを選択する			○		○			64.2	0.5	61.6	0.8	2.6	-0.3
3二	物語に描かれている季節を選択する			○		○			37.5	0.4	34.2	0.7	3.3	-0.3
3三	朗読の仕方の工夫とその理由を書く		○	○				○	61.6	11.3	58.9	13.6	2.7	-2.3

(8) 中学校数学A問題

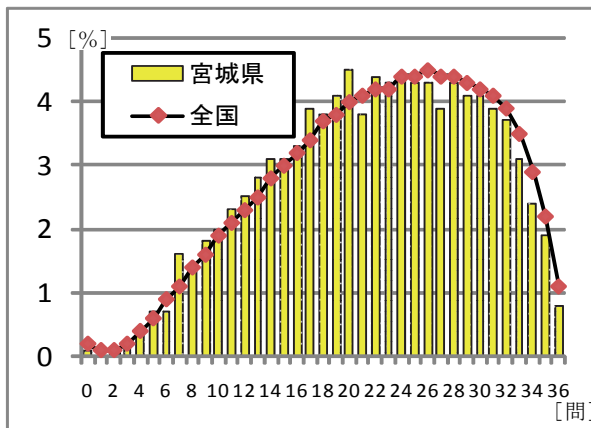
① 結果の概要

- 平均正答率は60.8%であり、全国平均を1.3ポイント下回っている。全国平均とのかい離は、22年度よりさらに1.1ポイント大きくなり課題がある。
- 「数と式」の領域では、正負の数の減法の計算や比例式を解く技能に、「図形」の領域では、体積の求め方や三角形の合同条件の理解に、「数量関係」の領域では、資料を読み取ることや座標平面上に点を示すことに、それぞれ課題が見られる。

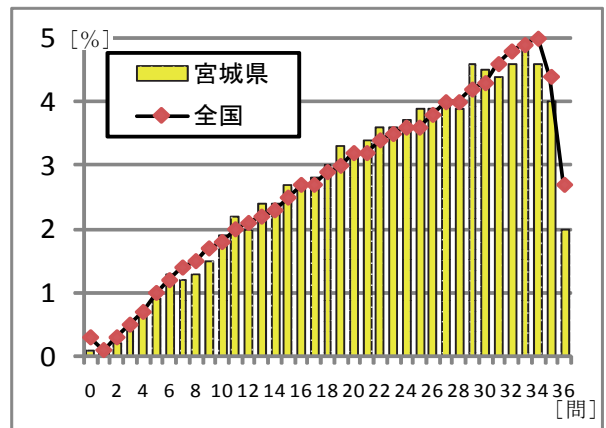
② 正答数分布状況

- 正答数の分布状況は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 24年度は、25問(70%程度)以上正答した生徒の割合が全国と比べやや低い状況となっている。

【平成24年度正答数度数分布グラフ】



【平成22年度正答数度数分布グラフ】



③ 領域別の平均正答率

- 全ての領域で全国平均を下回っている。特に「数と式」と「数量関係」の領域では、全国とのかい離が大きくなり、課題が見られる。

領域	数と式					図形					数量関係					合計				
	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19
県平均正答率(%)	66.1	74.7	66.0	65.4	72.4	66.2	63.8	64.8	61.6	73.7	50.3	54.6	55.7	57.3	64.4	60.8	64.4	62.1	61.4	70.3
全国平均正答率(%)	67.5	75.2	67.3	68.0	74.4	66.7	64.3	64.6	62.7	75.5	52.1	54.3	56.2	58.6	65.9	62.1	64.6	62.7	63.1	71.9
全国との比較	-1.4	-0.5	-1.3	-2.6	-2.0	-0.5	-0.5	0.2	-1.1	-1.8	-1.8	0.3	-0.5	-1.3	-1.5	-1.3	-0.2	-0.6	-1.7	-1.6

④ 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇:かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

- 数と式**
- ◆ 正の数と負の数の減法を計算する問題の正答率は84.4%であり、全国平均を4.1ポイント下回っている。[1(2)]
 - ◆ 簡単な比例式を解く問題の正答率は57.4%であり、全国平均を4.4ポイント下回っている。[3(1)]
- 図形**
- ◆ 正四角錐の体積の求め方の理解についての問題の正答率は57.0%であり、全国平均を3.8ポイント下回っている。[5(4)]
 - ◆ 三角形の合同条件の理解についての問題の正答率は61.7%であり、全国平均を5.1ポイント下回っている。[6(3)]
- 数量関係**
- ◇ 確率における「同様に確からしい」の意味の理解についての問題の正答率は68.8%であり、全国平均を4.2ポイント上回っている。[14(1)]
 - ◆ 座標平面上に点の位置を示す問題の正答率は56.8%であり、全国平均を4.2ポイント下回っている。[11(1)]
 - ◆ 資料を整理した図から最頻値を読み取る問題の正答率は35.0%であり、全国平均を7.4ポイント下回っている。[15(2)]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域			問題形式			宮城県(公立)		全国(公立)		正答率 かい離	無回答率 かい離
		数と式	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)		
1(1)	8と12の最小公倍数を求める	○ ^{※1}				○		66.7	2.5	67.7	2.6	-1.0	-0.1
1(2)	$6 - (-7)$ を計算する	○				○		84.4	1.0	88.5	1.1	-4.1	-0.1
1(3)	数直線上の点が表す負の整数の値を読み取る	○				○		68.4	0.9	66.4	1.2	2.0	-0.3
1(4)	天気予報の情報から、ある市の最高気温と最低気温の差を求める	○				○		70.6	1.5	73.5	1.8	-2.9	-0.3
2(1)	$(7x + 5y) - (5x + 2y)$ を計算する	○				○		74.5	1.6	77.6	1.8	-3.1	-0.2
2(2)	$x = 3$ のときの式 $-x^2$ の値を求める	○				○		65.2	6.5	66.3	6.0	-1.1	0.5
2(3)	整数 a を用いて、式 $2a$ で表すことのできる数を選ぶ	○				○		38.5	4.5	36.6	4.8	1.9	-0.3
2(4)	「1個 a 円の品物を2個買った代金は1000円より安い。」という数量の関係を表した式として正しいものを選ぶ	○			○			63.5	0.3	65.2	0.5	-1.7	-0.2
3(1)	比例式 $6 : 8 = x : 12$ を解く	○				○		57.4	6.4	61.8	5.8	-4.4	0.6
3(2)	連立方程式 $\begin{cases} a + b = 8 \\ 2a + b = 11 \end{cases}$ を解く	○				○		78.2	6.5	80.5	6.4	-2.3	0.1
3(3)	一次方程式を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ	○				○		79.5	0.3	78.5	0.6	1.0	-0.3
3(4)	方程式の解が問題の答えとして適切なものであるかどうかを調べることについて、正しい記述を選ぶ	○				○		46.4	1.0	47.8	1.2	-1.4	-0.2
4(1)	与えられた方法で作図された直線がもつ性質として、正しい記述を選ぶ		○			○		56.1	0.7	56.3	0.9	-0.2	-0.2
4(2)	三角形を、直線を軸として対称移動した図形をかく		○			○		80.8	2.6	81.3	2.7	-0.5	-0.1
4(3)	中心角 120° の扇形の面積について正しいものを選ぶ		○			○		69.9	0.7	69.0	0.9	0.9	-0.2
5(1)	直方体の辺と面上の線分との位置関係について、正しい記述を選ぶ		○			○		60.4	0.4	60.9	0.6	-0.5	-0.2
5(2)	1回転させると円柱ができる平面図形として正しいものを選ぶ		○			○		86.2	0.2	86.9	0.5	-0.7	-0.3
5(3)	三角柱の展開図として正しいものを選ぶ		○			○		93.4	0.3	92.8	0.5	0.6	-0.2
5(4)	正四角錐の体積を求める式として正しいものを選ぶ		○			○		57.0	0.5	60.8	0.7	-3.8	-0.2
6(1)	三角定規による平行線の作図について、正しい記述を選ぶ		○			○		42.0	0.7	43.6	1.0	-1.6	-0.3
6(2)	n 角形の内角の和を求める式で、 $(n - 2)$ が表すものを選ぶ		○			○		46.6	0.5	45.7	0.8	0.9	-0.3
6(3)	与えられた三角形と合同な三角形を選ぶ		○			○		61.7	0.5	66.8	0.7	-5.1	-0.2
7	図形に成り立つ性質の逆の事柄を完成する		○			○		73.5	6.2	72.4	7.0	1.1	-0.8
8	証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについての正しい記述を選ぶ		○			○		66.4	0.8	64.4	1.0	2.0	-0.2
9(1)	y が x に比例し、比例定数が3のとき、 x 、 y の値について、正しい記述を選ぶ			○	○			50.8	1.3	51.8	1.4	-1.0	-0.1
9(2)	$y = 2x$ 上の点を選ぶ			○	○			47.7	0.9	49.8	1.1	-2.1	-0.2
10(1)	反比例の表を完成する			○		○		46.0	3.1	48.8	3.4	-2.8	-0.3
10(2)	反比例のグラフを選ぶ			○	○			50.7	1.2	52.2	1.4	-1.5	-0.2
11(1)	$(-1, -4)$ の位置を座標平面上に示す			○		○		56.8	3.9	61.0	4.0	-4.2	-0.1
11(2)	一次関数のグラフから式を選ぶ			○	○			74.4	1.0	72.0	1.1	2.4	-0.1
12	一次関数を表した事象を選ぶ			○	○			34.9	1.7	37.9	1.8	-3.0	-0.1
13	二元一次方程式の解を座標とする点について、正しい記述を選ぶ			○	○			37.0	2.2	38.8	2.2	-1.8	0.0
14(1)	1枚の硬貨を投げたときの確率について、正しい記述を選ぶ			○	○			68.8	1.4	64.6	1.6	4.2	-0.2
14(2)	数字の書かれた3枚のカードから2枚のカードをひくとき、両方とも奇数のカードである確率を求める			○		○		54.1	6.9	57.4	6.9	-3.3	0.0
15(1)	度数分布表について、正しい記述を選ぶ			○ ^{※2}	○			46.9	2.8	48.7	2.6	-1.8	0.2
15(2)	フリースローでボールの入った回数と人数の関係をまとめた図から、ボールの入った回数の最頻値を求める			○ ^{※2}		○		35.0	20.3	42.4	16.9	-7.4	3.4

※1 小学校学習指導要領による。

※2 中学校学習指導要領(平成20年告示)においては、「資料の活用」の領域の内容となる。

(9) 中学校数学B問題

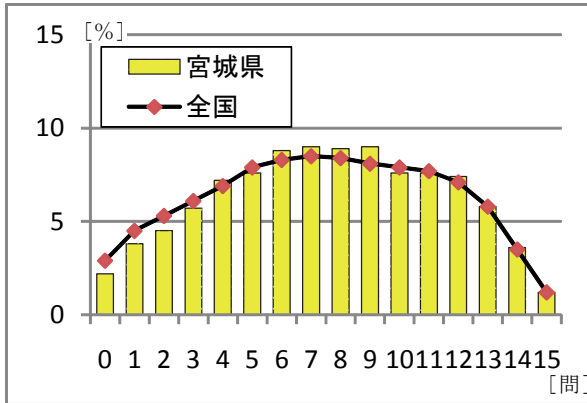
① 結果の概要

- 平均正答率は50.5%であり、全国平均を1.2ポイント上回っている。全国平均とのかい離は、22年度より、さらに0.5ポイント大きくなっている。
- 全ての領域で全国平均を上回っている。特に「図形」の領域では、全国平均を2.1ポイント上回る結果となっている。
- 記述式の問題にやや課題が見られるが、無回答率は全ての設問で全国平均を下回っている。

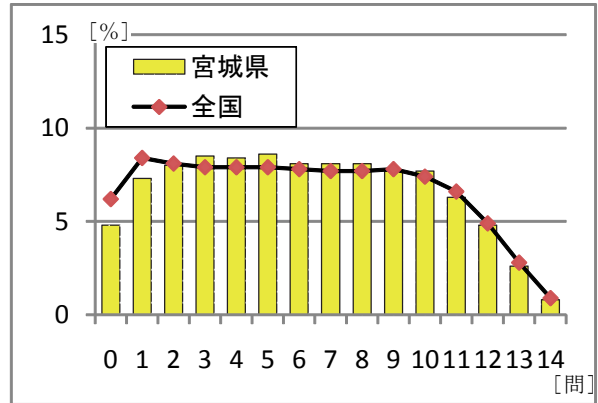
② 正答数分布状況

- 正答数の分布状況は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 24年度は、12問(80%)以上正答した生徒の割合が全国と比べやや高く、3問(20%)以下の生徒の割合はやや低くなっている。

【平成24年度正答数度数分布グラフ】



【平成22年度正答数度数分布グラフ】



③ 領域別の平均正答率

- 22年度と同様に、全ての領域で全国平均を上回っている。「数と式」と「図形」の領域では、22年度の全国平均とのかい離より、さらに0.2ポイント、1.2ポイント大きくなっている。

領 域	数と式					図 形					数量関係					合 計				
	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19
県平均正答率(%)	41.4	43.5	61.6	53.8	45.5	61.8	41.1	58.8	59.2	54.0	39.9	46.2	54.7	44.2	67.0	50.5	44.0	57.7	49.1	59.4
全国平均正答率(%)	40.9	43.2	61.4	54.2	48.2	59.7	40.2	57.5	57.6	53.1	39.8	45.5	54.1	44.7	67.9	49.3	43.3	56.9	49.2	60.6
全国との比較	0.5	0.3	0.2	-0.4	-2.7	2.1	0.9	1.3	1.6	0.9	0.1	0.7	0.6	-0.5	-0.9	1.2	0.7	0.8	-0.1	-1.2

④ 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇ : かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

数と式

- ◇ 表から必要な情報を適切に選択し、処理する問題の正答率は64.5%であり、全国平均を2.7ポイント上回っている。[1(1)]
- ◇ 連続する3つの自然数の和の性質を発展的に考え、予想した事柄を表現する問題の正答率は56.7%であり、全国平均を1.4ポイント上回っている。[2(2)]
- ◆ 連続する3つの自然数の和の性質が成り立つ理由を示された方針に基づいて説明する問題の正答率は34.7%であり、全国平均を1.6ポイント下回っている。[2(1)]

図形

- ◇ 多角形の外角の和が360°であることを基に、正多角形の1つの外角の大きさを求める問題の正答率は80.7%であり、全国平均を3.5ポイント上回っている。[6(1)]
- ◇ 「木の高さの求め方」を振り返り、長さを置き換えてよいことの根拠となる図形の性質を指摘する問題の正答率は59.8%であり、全国平均を3.0ポイント上回っている。[5(2)]
- ◇ 複数の作図を総合的に捉え、作図に共通して利用されている性質を見いだす問題の正答率は59.2%であり、全国平均を2.7ポイント上回っている。[4(3)]

数量関係

- ◇ 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題の正答率は47.8%であり、全国平均を1.7ポイント上回っている。[3(2)]
- ◆ 正多角形について、頂点の数と1つの外角の大きさの関係を数学的に解釈し、その関係が成り立つ理由を説明する問題の正答率は21.0%であり、全国平均を1.9ポイント下回っている。[6(3)]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域			問題形式			宮城県 (公立)		全国(公立)		正 答 率 か い 離	無 回 答 率 か い 離
		数 と 式	図 形	数 量 関 係	選 択 式	短 答 式	記 述 式	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)		
1(1)	ISSの高度を1cmとしたときの、ひまわり7号の高度を選ぶ	○			○			64.5	0.4	61.8	0.6	2.7	-0.2
1(2)	2つの人工衛星の軌道の長さの差を求める計算から分かることを選び、その理由を説明する	○					○	9.6	4.4	9.9	4.7	-0.3	-0.3
2(1)	連続する3つの自然数の和が3の倍数になることを説明する	○					○	34.7	23.8	36.3	24.1	-1.6	-0.3
2(2)	連続する3つの偶数の和について成り立つ事柄を表現する	○					○	56.7	24.2	55.3	24.9	1.4	-0.7
3(1)	原田選手と船木選手の飛んだ回数を求める			○ ^{*1}		○		73.3	4.4	72.8	5.2	0.5	-0.8
3(2)	次の1回でより遠くへ飛びそうな選手を選び、その理由を説明する			○ ^{*1}			○	47.8	4.8	46.1	4.9	1.7	-0.1
4(1)	線対称な図形を対称の軸で折り返したとき、対応する点を答える		○			○		91.1	4.2	89.0	5.3	2.1	-1.1
4(2)	2つの直線が垂直に交わることを、三角形の合同を利用して証明する		○				○	47.2	18.4	45.1	22.4	2.1	-4.0
4(3)	異なる場合での垂線の作図で、共通して利用されている図形の性質を選ぶ		○		○			59.2	1.1	56.5	1.5	2.7	-0.4
5(1)	CDが1.2m、DBが8.3mのときの、木の高さABを求める		○			○		72.0	11.3	70.4	11.5	1.6	-0.2
5(2)	長さを置き換えてよい根拠となる、長方形の性質を選ぶ		○		○			59.8	1.7	56.8	2.1	3.0	-0.4
5(3)	AEの長さを求められるようにするための方法を説明する		○				○	22.4	43.4	22.5	43.5	-0.1	-0.1
6(1)	正十二角形の1つの外角の大きさを求める		○			○		80.7	5.2	77.2	6.2	3.5	-1.0
6(2)	正多角形の頂点の数と正多角形の1つの外角の大きさの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する			○ ^{*2}		○		17.7	27.3	17.4	31.0	0.3	-3.7
6(3)	正多角形の頂点の数と正多角形の1つの外角の大きさの関係がどのような関数であるかを選び、その理由を説明する			○		○		21.0	7.9	22.9	8.3	-1.9	-0.4

※1 中学校学習指導要領(平成20年告示)においては、「資料の活用」の領域の内容となる。

※2 中学校学習指導要領(平成20年告示)においては、「関数」の領域の内容となる。

(10) 中学校理科問題

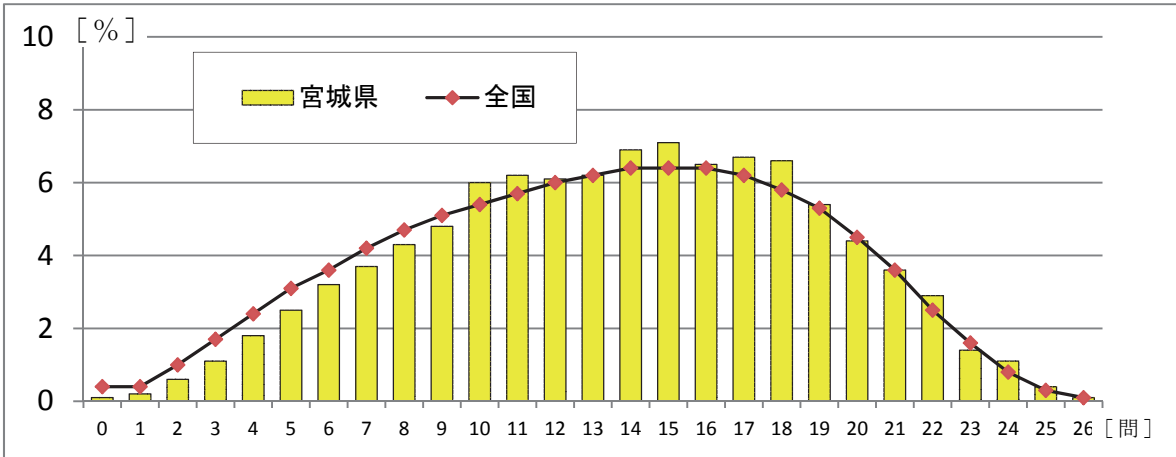
① 結果の概要

- 平均正答率は 52.7%であり、全国平均を 1.7 ポイント上回っている。
- 全ての領域で、平均正答率が全国平均を上回っている。
- 平均無回答率は、全 26 問中 21 問で全国平均を下回っている。

② 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 10 問～19 問（40%～73%程度）正答した児童の割合が全国平均を上回り，正答数が 9 問（35%程度）以下の児童の割合が全国平均を下回っている。

【平成 24 年度正答数度数分布グラフ】



③ 領域別の平均正答率

- 主として「知識」に関する問題の平均正答率が 58.1%で、全国平均を 2.0 ポイント上回っている。
- 主として「活用」に関する問題の平均正答率が 49.4%で、全国平均を 1.6 ポイント上回っている。
- 物理的領域の平均正答率が 48.1%で 2.2 ポイント，化学的領域の平均正答率が 59.6%で 2.7 ポイント，生物的領域の平均正答率が 51.2%で 0.5 ポイント，地学的領域の平均正答率が 53.6%で 1.6 ポイント全国平均を上回っている。

	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域	合計
県平均正答率 (%)	58.1	49.4	48.1	59.6	51.2	53.6	52.7
全国平均正答率 (%)	56.1	47.8	45.9	56.9	50.7	52.0	51.0
全国との比較	2.0	1.6	2.2	2.7	0.5	1.6	1.7

④ 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇ : かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

物理的領域	◇ 白熱電球を LED 電球に交換するときに、消費する電力量を減らすために最も効果がある場所を選び、その理由を説明する問題の正答率は 63.6%で、全国平均を 5.0 ポイント上回っている。[2(5)]
	◇ 白熱電球と LED 電球で、省エネの効果と比較する実験を考えると、必要な条件を選ぶ問題の正答率は 76.4%で、全国平均を 4.1 ポイント上回っている。[2(4)]
	◆ 実験結果から、食塩水の中で卵にはたらく浮力の大きさを求める式を書き、浮力の大きさを求める問題の正答率は 35.0%で、全国平均を 1.2 ポイント下回っている。[4(3)]
化学的領域	◇ 液体のようす（上部が水、下部が食塩水）を、食塩の粒子のモデルで表したものを選ぶ問題の正答率は 71.7%で、全国平均を 3.3 ポイント上回っている。[4(5)]
	◇ 実験で、古い卵が浮いたときの気室の位置と、卵のとがっている部分の位置を選ぶ問題の正答率は 64.6%で、全国平均を 3.2 ポイント上回っている。[4(2)]
生物的領域	◇ 水草の働きと発生する気体の名称を答える問題の正答率は 58.5%で、全国平均を 3.6 ポイント上回っている。[1(1)]
	◆ 「チューリップの花が開くには、温度が関係している」という考察の根拠となる実験結果の組合せを選ぶ問題の正答率は 39.1%で、全国平均を 2.2 ポイント下回っている。[1(5)]
	◆ 両生類であるカエルの特徴や成長に応じて飼育の環境を整えた理由を説明する問題の正答率は 36.4%で、全国平均を 1.0 ポイント下回っている。[1(2)]
地学的領域	◇ 「うすい塩酸をかけ、発生する気体を確かめる」という石灰岩を見分ける技能において、そのとき発生する気体の名称を答える問題の正答率は 77.0%で、全国平均を 3.6 ポイント上回っている。[3(6)]
	◆ 地層観察の結果から、過去の火山活動が活発だった時期の回数についての他者の考察を検討し、適切な回数を選び、その根拠を説明する問題の正答率は 9.9%で、全国平均を 0.5 ポイント下回っている。[3(3)]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			宮城県(公立)		全国(公立)		正 答 率 の か い 離	無 正 答 率 の か い 離
		物理的 領域	化学的 領域	生物的 領域	地学的 領域	選 択 式	短 答 式	記 述 式	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)		
1(1)	水草の働きや名称と発生する気体の名称を答える			○		○		58.5	9.6	54.9	10.4	3.6	-0.8	
1(2)	両生類であるカエルの特徴や成長に応じて飼育の環境を整えた理由を説明する			○			○	36.4	10.8	37.4	11.6	-1.0	-0.8	
1(3)	成長して種子になる部分の名称を選ぶ			○	○			72.3	0.2	70.9	0.4	1.4	-0.2	
1(4)	示された花の模式図にならって、アブラナの花のつくりを表した模式図を選ぶ			○	○			66.1	0.3	66.0	0.5	0.1	-0.2	
1(5)	「チューリップの花が開くには、温度が関係している」という考察の根拠となる実験結果の組合せを選ぶ			○	○			39.1	0.3	41.3	0.6	-2.2	-0.3	
1(6)	チューリップの花が開く温度を明らかにするための追実験を計画するに当たって、実験結果の考察から設定する温度を答える			○		○		34.9	7.7	33.9	8.3	1.0	-0.6	
2(1)	電圧が1.2Vのときの電流計の図から、電流の大きさを読みとり答える	○					○	45.3	6.1	44.3	7.7	1.0	-1.6	
2(2)	1つの回路で、2つの実験と同じ結果を得るための測定方法を説明する	○					○	8.4	18.0	7.6	19.6	0.8	-1.6	
2(3) X	2つの実験結果から、電圧2.0Vのときの、豆電球と発光ダイオードの消費する電力を比較して答える	○					○	56.5	9.7	53.7	11.5	2.8	-1.8	
2(3) Y	2つの実験における豆電球と発光ダイオードの消費する電力から、白熱電球とLED電球の省エネの効果を考察し、LED電球の省エネの効果を答える	○					○	86.5	8.4	83.9	10.4	2.6	-2.0	
2(4)	白熱電球とLED電球で、省エネの効果を比較する実験を考えるとときに、必要な条件を選ぶ	○				○		76.4	0.5	72.3	1.0	4.1	-0.5	
2(5)	白熱電球をLED電球に交換するとき、消費する電力量を減らすために最も効果がある場所を選び、その理由を説明する	○					○	63.6	2.8	58.6	3.5	5.0	-0.7	
2(6)	白熱電球とLED電球を、それぞれ1時間使用する場合に、消費する電力量の差を求め式を書き、電力量の差を求め	○					○	13.3	39.8	11.1	41.1	2.2	-1.3	
3(1)	野外観察で、「地層のつながりや広がり方」と「地層の成因」を調べるための技能において、着目する事象と観察の観点を選ぶ				○	○		88.4	0.3	86.9	0.7	1.5	-0.4	
3(2)	地層観察の結果から、観察地における地層のつながり方を考察し、地層の傾いている方向を選ぶ				○	○		31.6	0.9	31.2	1.3	0.4	-0.4	
3(3)	地層観察の結果から、過去の火山活動が活発だった時期の回数についての他者の考察を検討し、適切な回数を選び、その根拠を説明する				○		○	9.9	6.0	10.4	6.0	-0.5	0.0	
3(4)	ローム層の厚さと偏西風の影響の情報から、火山、観察地、中学校の位置関係を適切に示した模式図を選ぶ				○	○		50.2	1.7	48.3	2.2	1.9	-0.5	
3(5)	アサリの化石が含まれる地層が堆積した当時の生活環境を選ぶ				○	○		64.5	0.7	61.9	1.1	2.6	-0.4	
3(6)	「うすい塩酸をかけ、発生する気体を確かめる」という石灰岩を見分ける技能において、そのとき発生する気体の名称を答える				○		○	77.0	8.7	73.4	10.2	3.6	-1.5	
4(1)	濃度10%の食塩水1000gをつくるために必要な食塩と水の質量を求め	○					○	51.8	18.3	49.8	18.8	2.0	-0.5	
4(2)	実験で、古い卵が浮いたときの気室の位置と、卵のどがっている部分の位置を選ぶ		○			○		64.6	1.4	61.4	1.8	3.2	-0.4	
4(3)	実験結果から、食塩水の中で卵にはたらく浮力の大きさを求める式を書き、浮力の大きさを求める	○					○	35.0	42.8	36.2	40.2	-1.2	2.6	
4(4)	食塩水がいくらでも濃くできるわけではない理由を説明する		○				○	49.1	25.3	46.6	26.9	2.5	-1.6	
4(5) 和宏さん	食塩水の様子を、食塩の粒子のモデルで表したものを選ぶ		○			○		74.6	2.5	71.6	2.5	3.0	0.0	
4(5) 望さん	液体の様子(上部が水、下部が食塩水)を、食塩の粒子のモデルで表したものを選ぶ		○			○		71.7	2.8	68.4	2.7	3.3	0.1	
4(6)	二人の考えのどちらが正しいかを調べる実験の方法と、その実験を行ったとき、得られる実験結果として、正しいものを選ぶ		○			○		45.4	3.5	43.7	3.2	1.7	0.3	

3 類似問題の経年比較 (H21 小と H24 中の類似問題の比較)

(1) 中学校国語

A 3一 比喩という言葉と結びつけて、表現の仕方を理解すること。

平成21年度小学校調査での正答率は57.0%であったが、今年度調査では87.0%であった。

21年度との比較では、全国平均の27.2ポイント増に対して県平均は30ポイント増であり、全国平均を上回る結果となった。

表現の仕方に注意して読むことは、登場人物の心情や情景などを豊に捉えることにつながり、文章内容を理解する上で有効である。

比喩を手がかりにしながら描写されている2つの情景の対応関係を捉えることについては、正答率も87.0%に至っていることから、かなり改善が進んだと考えている。

<p>H 2 1 小 A 5</p>	<p>H 2 4 中 A 3一</p>
<p>(全国) 58.7%</p> <p>(県) 57.0%</p>	<p>(全国) 85.9%</p> <p>(県) 87.0%</p>

A 7五 はがきの書き方を理解して書くことができる。

平成21年度小学校調査での正答率は65.4%であったが、今年度調査では71.5%であった。

21年度との比較で全国平均の6.7ポイント増に対して、県平均は6.1ポイント増であることから、実用的な文章を書く力に少々課題があると捉えている。

様々な相手や目的に応じて、依頼状や案内状、礼状等、実際に手紙を書く言語活動を設定して指導事項を指導したり、実際にはがきを投函することを含めた学習活動を設定したりすることが重要である。

社会生活の中でも手紙を書く機会が多い。往復はがきの書き方なども機会を捉えて指導する必要がある。

<p>H 2 1 小 A 3</p>	<p>H 2 4 中 A 7五</p>
<p>(全国) 67.0%</p> <p>(県) 65.4%</p>	<p>(全国) 73.7%</p> <p>(県) 71.5%</p>

A ㊦六 ローマ字を書いたり読んだりすること。

平成21年度小学校調査と今年度を比較すると、「ローマ字を読む・書く」のいずれも正答率が上がっており習熟度が上がっていることが分かる。ただし、全国平均と比較して県平均は若干下回る結果になっている。

社会の国際化に対応して、標識や名刺などにもローマ字が併記されることが多くなってきていることなどにも注目させながら、早い段階からさらに習熟度を高める必要がある。

B ㊦六 説明的な文章を書き換えること。

平成21年度小学校調査では、調べて分かったことを判断し、条件に合わせて表現する問題の正答率が15.5%であった。今回は、祖母向けの

説明書の下書きを条件に合わせて書き換える問題で、正答率が69.8%となり、全国平均も上回った。ただ、正答率が7割を下回っていることから課題があると捉えている。

説明する文章を書く際には、相手や目的に応じて構成や記述を工夫する必要がある。情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように説明の順序を考えたり、ふさわしい語句や表現を用いたりする書くことの学習をさらに充実させていくことが重要である。例えば、保護者向けに書かれた体育祭の案内を基に、小学生や地域の方に向けた案内を作成するなど、文章を相手や目的に応じて書き換える学習活動が考えられる。

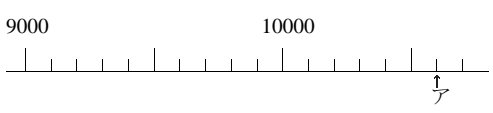
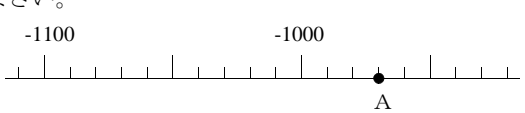
「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成にむけて～【中学校版】」の事例も参照しながら、単元を貫く言語活動を設定して指導していく必要がある。

<p>H21小A ㊦</p>	<p>H24中A ㊦六</p>
<p>くすり (全国) 69.4% (県) 66.6% たべもの (全国) 45.5% (県) 41.8% はっぴ (全国) 51.9% (県) 48.8%</p>	<p>たけくらべ (全国) 88.8% (県) 88.2% とさにつき (全国) 81.9% (県) 81.8%</p>

<p>H21小B ㊦</p>	<p>H24中B ㊦六</p>
<p>(全国) 17.7% (県) 15.5%</p>	<p>(全国) 68.4% (県) 69.8%</p>

(2) 中学校数学

A1 (3) 数直線上の点が表示する負の整数の値を読み取る。

<p>H21 小学校 算数A 2 (1)</p> <p>次の数直線アの目盛りが表示する数を書きましょう。</p>  <p>(全国) 64.1% (県) 61.9%</p>	<p>H24 中学校 数学A 1 (3)</p> <p>下の図は数直線の一部です。点Aが表示する数を答えなさい。</p>  <p>(全国) 66.4% (県) 68.4%</p>
--	---

平成21年度小学校調査では、数の範囲が自然数の場合と同様の問題が出題された。一目盛りの大きさを誤った解答が31.0%あった。

平成24年度中学校調査では、同様の誤りをした生徒は12.7%あった。単純な比較はできないが、数の範囲が負の数に拡張されている中で同様の誤りの割合が減ったことは、数直線の一目盛りの大きさを正しく捉えることが一定程度できるようになったと考えられる。

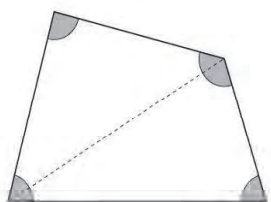
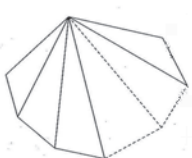
A2 (3) 整数 a を用いて、式 $2a$ で表すことのできる数を選ぶ。

<p>H21 小学校 算数A 2 (4)</p> <p>次の数の中から偶数をすべて選んで、書きましよう。</p> <p>0, 1, 35, 78, 100</p> <p>(全国) 77.4% (県) 71.4%</p>	<p>H24 中学校 数学A 2 (3)</p> <p>a を整数とすると、式 $2a$ で表すことのできる数を、次の中からすべて選びなさい。</p> <p>0 1 35 78 100</p> <p>(全国) 36.6% (県) 38.5%</p>
---	---

平成21年度小学校調査では、「0」を偶数と捉えず「78」と「100」だけを選択した解答が12.1%あった。また、「1」と「35」を選択した解答が2.4%あり、偶数と奇数の意味理解に課題が見られる。

平成24年度調査では、「78」と「100」だけを選択した解答が23.5%あった。「0」が偶数であると理解していても、aに代入する整数に0が含まれることを理解していない生徒、 $2a$ で「0」は表すことができないと捉えている生徒がいると考えられる。また、「1」と「35」の両方、もしくはどちらか一方を選択した解答が3.3%あったことから、偶数と奇数の意味理解が曖昧な生徒がまだいると考えられる。

A6 (2) n 角形の内角の和を求める式で、 $(n-2)$ が表すものを選ぶ。

<p>H21 小学校 算数A 5 (1)</p> <p>(1) 下の図のように、四角形を2つの三角形に分けて、四角形の4つの角の大きさの和を求めます。</p> <p>三角形の3つの角の大きさの和が 180° であることを使って、四角形の4つの角の大きさの和を求める式を書きましょう。</p> <p>ただし、計算の答えを書く必要はありません。</p>  <p>(全国) 67.9% (県) 69.0%</p>	<p>H24 中学校 数学A 6 (2)</p> <p>(2) 下の図のように、n 角形は1つの頂点からひいた対角線によって、いくつかの三角形に分けられます。</p>  <p>このことから、n 角形の内角の和は $180^\circ \times (n-2)$ で表すことができます。</p> <p>この式の $(n-2)$ は、n 角形において何を表していますか。下のアからオまでの中から正しいものを1つ選びなさい。</p> <p>ア 頂点の数 イ 辺の数 ウ 内角の数 エ 1つの頂点からひいた対角線の数 オ 1つの頂点からひいた対角線によって分けられた三角形の数</p> <p>(全国) 45.7% (県) 46.6%</p>
--	--

平成24年度中学校調査では、n が表している頂点の数、辺の数、内角の数を選擇した解答が45.5%あった。問われていることを的確に捉えることや多角形の内角の和を求める公式は覚えていても、その式の意味を理解することに課題があると考えられる。また、 $(n-2)$ を一つの数量として捉えることにも課題があると考えられる。さらに、平成21年度小学校調査の正答率が69.0%であることを考えると、四角形の内角の和を求めた方法を n 角形の場合に結び付けて考えることができない生徒がいると考えられる。なお、平成20年度中学校調査でも同一の問題が出題されているが、頂点の数、辺の数、内角の数を選擇した解答は44.6%であり、同様の傾向が見られている。

4 児童生徒質問紙調査結果

※表の下段は全国との比較

(1) 結果の概要

- 小・中学生ともに、早寝・早起き・朝ご飯や規則正しく生活することなど基本的な生活習慣に関する質問に対しては全国値に比べて肯定的な回答が多い。長時間テレビを見ている子どもの割合は全国値よりも高い。
- 小・中学生ともに、家庭で予習・復習をしている割合は全国値よりも高い。家庭における学習時間については、小学生が1時間以上、中学生が2時間以上学習する割合は、小学生は22年度より下がったが、全国値よりも高く、中学生は22年度より上がったが、全国値よりも低い。

(2) 質問事項別の状況

① 学習に対する関心・意欲・態度

- 「授業の内容がよく分かるか」という質問に対して肯定的に答えている小・中学生の割合は、中学生の数学のみ全国値を下回ったが、他は全て全国値を上回っている。
- 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている小・中学生の割合は小・中学生ともに全国値を上回っている。
- 算数・数学の問題の解き方が分からないとき、あきらめずにいろいろな方法を考える小・中学生の割合は、全国値より低い。また、言葉や式で訳や求め方を書く問題に最後まで書く努力をした小・中学生の割合も全国値を下回り、算数・数学に対してやや消極的な傾向が見られる。
- 科学や自然について疑問を持ち、その疑問について人に質問したり、調べたりすることがある小・中学生の割合は、全国値を上回っている。

	質問事項	小学校 (%)					中学校 (%)				
		H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19
1	国語の授業の内容はよく分かりますか	83.7 +0.6	82.3 +0.0	80.1 +0.1	77.6 -0.4	78.7 +0.7	74.7 +3.5	71.5 +1.6	70.1 +1.3	69.6 +2.8	67.5 +2.1
2	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	79.5 +0.4	78.0 +0.8	80.2 +1.0	79.2 +0.8	77.9 +0.8	64.1 -0.8	64.8 -0.9	62.4 -2.5	64.5 -1.0	61.5 -2.1
3	理科の授業の内容はよく分かりますか	86.2 +0.2					66.5 +2.4				
4	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。	72.0 +0.7	72.8 +3.6	66.7 +0.5	67.2 +0.1		63.3 +3.9	62.1 +4.4	58.6 +3.5	61.4 +5.9	
5	国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか	74.9 -0.2	74.9 +1.5	70.6 -0.2	71.7 -0.2		68.5 +2.9	66.7 +3.0	63.3 +2.6	65.6 +4.1	
6	算数・数学の問題の解き方が分からないときはあきらめずにいろいろな方法を考えますか。	78.1 -1.0	77.4 +0.1	77.6 +0.8	76.2 +0.2	75.0 +0.3	65.7 -0.3	68.7 +1.6	64.9 +0.1	64.7 +1.1	63.6 +0.6
7	言葉や式を使ってわけや求め方を書く問題についてどのように解答しましたか（最後まで書く努力をした）	70.8 -1.6	60.5 -1.5	66.4 -1.6	65.9 -1.1		45.8 -0.1	45.6 +0.1	48.4 +0.4	42.2 -0.5	
8	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	88.2 +2.5					74.2 +4.0				
9	科学や自然について疑問を持ち、その疑問について人に質問したり、調べたりすることがありますか	64.5 +1.5					50.0 +4.0				

② 基本的な生活習慣、家庭でのコミュニケーション

- 就寝時刻、起床時刻を守り、規則正しい生活を行っている小・中学生の割合が増加している。
- 朝食を毎日食べる小・中学生の割合は22年度同様全国値よりも高い。

	質問事項	小学校 (%)					中学校 (%)				
		H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19
1	普段(月～金曜日)、何時ごろに寝ますか (小：午後10時前 中：午後11時前)	53.5 +7.5	49.6 +5.8	51.1 +7.8	48.4 +7.0	49.4 +7.3	37.3 +3.4	35.5 +3.1	34.3 +2.5	32.4 +3.0	33.8 +4.0
2	普段(月～金曜日)、何時ごろに起きますか (午前6時30分より前)	43.3 +4.4	39.8 +3.0	39.8 +3.5	38.0 +2.5	37.9 +3.5	35.2 -2.3	30.6 -3.7	29.9 -3.4	29.2 -3.5	29.2 -2.5
3	朝食を毎日食べていますか	96.6 +0.5	97.4 +1.0	96.6 +0.6	96.3 +0.9	96.2 +1.0	94.4 +0.8	94.5 +1.2	94.0 +1.6	93.6 +1.7	93.3 +1.7
4	家の人と学校での出来事について話をしていますか	77.6 +1.7	77.0 +2.8	71.0 +0.1	70.9 +1.7	70.0 +1.6	66.7 +1.0	65.1 +1.4	61.1 +1.3	60.0 +2.1	60.0 +2.2
5	家の手伝いをしていますか	84.0 +3.3	83.8 +3.6	82.0 +3.5	81.0 +3.5	81.1 +2.7	71.1 +5.1	69.7 +4.9	68.3 +5.3	65.9 +5.3	67.9 +4.6
6	今住んでいる地域の行事に参加していますか	73.2 +10.0	74.4 +12.8	73.0 +10.6	71.6 +11.7	72.6 +10.6	37.9 +0.2	39.5 +5.2	40.9 +3.1	39.8 +2.8	39.7 +2.2

③ 学習時間等

- 家で自分で計画を立てて、予習・復習をしている小・中学生の割合は、22年度同様全国値よりも高い。
- 家庭で1時間以上学習すると答えた小学生の割合は全国値を上回ったが、2時間以上の学習になると、小・中学生ともに全国値を下回っている。
- テレビやビデオ・DVDを3時間以上見たり、聞いたりする小・中学生の割合は、依然として全国値よりも高くその傾向は小学生で顕著である。

	質問事項	小学校 (%)					中学校 (%)					
		H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19	
1	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	61.1 +3.1	64.7 +6.4	55.5 +0.8	51.5 -0.5		45.6 +2.7	44.3 +2.5	40.1 +2.2	35.8 +1.6		
2	家で学校の授業の予習をしていますか	45.6 +5.1	48.6 +8.2	42.6 +5.1	39.1 +3.7	36.6 +3.7	39.3 +10.0	43.9 +13.0	42.1 +12.6	41.0 +12.6	39.3 +9.8	
3	家で学校の授業の復習をしていますか	59.9 +9.7	61.2 +11.6	54.9 +8.9	50.8 +7.4	45.8 +5.7	56.8 +11.3	54.4 +10.9	49.7 +9.2	48.4 +8.8	45.8 +6.6	
4	普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか	30分以上	89.1 +3.5	88.7 +3.9	86.1 +2.5	83.5 +1.1	83.5 -0.4	84.7 +1.4	83.1 +0.0	81.7 -0.2	81.4 -0.7	78.6 -2.6
		1時間以上	61.2 +1.7	61.5 +3.3	56.9 -0.3	52.9 -3.2	53.8 -4.1	65.8 -0.6	63.7 -2.5	62.2 -3.1	63.1 -2.3	59.9 -5.1
		2時間以上	21.3 -4.3	20.8 -4.9	19.7 -6.0	18.8 -6.7	18.3 -7.2	30.0 -5.3	28.5 -7.2	29.1 -6.6	29.8 -5.9	27.4 -8.0
		3時間以上	7.0 -4.1	6.8 -4.6	17.9 -4.9	16.3 -6.4	15.4 -7.6	6.6 -3.3	6.3 -3.9	13.5 -1.9	13.6 -1.5	11.8 -3.1
5	普段1日にどれくらいの時間テレビやビデオ・DVDを見ますか(3時間以上)	47.8 +5.1	47.2 +3.9	51.1 +5.4	51.7 +5.6	38.0 +3.7	33.3 +0.8	38.1 +1.6	40.4 +2.4	43.0 +3.4	35.9 +2.8	
6	普段1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますか(3時間以上)	13.7 +1.1	12.6 +1.3	13.0 +1.4	14.0 +2.1	9.8 +0.9	10.5 -0.9	10.2 -0.6	10.5 +0.1	10.4 -0.1	10.5 -0.2	

④ 自尊意識・規範意識

- 「自分にはよいところがある」と答えた小・中学生の割合は、依然として全国値よりも低い、小学生は着実に増加傾向にある。
- 「将来の夢や目標を持っている」と答えた小・中学生の割合は、小学生は全国値よりも低く、中学生は全国値よりも高い。
- 規範意識に関する質問に対し肯定的な解答をした小・中学生の割合は、小学生は全国値に並ぶが、中学生はわずかに全国値を下回っている。

	質問事項	小学校 (%)					中学校 (%)				
		H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19
1	自分には、よいところがあると思う	76.4 -0.4	73.6 -0.8	72.9 -1.7	71.4 -2.0	68.6 -2.9	67.7 -0.5	63.8 +0.7	61.6 +0.4	61.8 +1.0	59.8 -0.7
2	ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがありますか	94.8 +0.3	94.5 +0.4	93.8 +0.0	93.2 -0.3	93.2 +0.1	93.4 +0.2	93.6 +0.9	92.9 +1.0	92.9 +1.0	92.4 +0.4
3	将来の夢や目標を持っていますか	86.5 -0.2	86.5 -0.3	85.6 -0.7	84.0 -0.7	83.6 -0.1	73.8 +0.6	72.6 +0.9	71.3 +0.3	72.0 +1.3	72.2 +1.5
4	学校のきまり(規則)を守っていますか	91.2 -0.1	89.4 +0.2	87.6 -0.9	85.7 -0.6	85.2 -1.0	91.2 -1.1	90.5 +0.4	89.3 +0.7	88.0 +0.6	86.0 +0.3
5	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	95.3 -0.1	94.3 -0.7	95.1 +0.2	95.0 +0.3	94.7 +0.0	92.9 -0.1	90.8 -0.3	90.7 +0.4	89.8 +0.3	87.8 -0.1
6	人の役に立つ人間になりたいと思う	94.7 +0.0	92.5 -0.9	91.8 -0.7	92.0 -0.4	91.4 -0.5	93.7 -0.2	91.5 -0.6	90.4 +0.0	90.6 +0.1	89.4 -0.2

5 学校質問紙調査結果

※ 表の下段は全国との比較

(1) 結果の概要

- 問題冊子等や独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導や学校全体での教育活動の改善のために活用している学校の割合は、小学校は全国値よりも高く、中学校は全国値よりも低い。
- 国語の指導として、書く習慣や読む習慣を付ける指導に取り組んでいる学校の割合は、小・中学校ともに、全国値よりも高い。
- 児童生徒の発言や活動の時間を確保した授業や、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている学校の割合は、小・中学校ともに全国値よりも高い。
- テーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている学校の割合は、小・中学校ともに全国値よりも低い。

(2) 質問事項別の状況

① 学力・学習状況調査の活用

- 問題冊子等や独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導や学校全体での教育活動の改善のために活用している学校の割合は、小学校は全国値よりも高く、中学校は全国値よりも低い。

	質問事項	小学校 (%)					中学校 (%)				
		H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19
1	問題冊子等や独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導の改善等を行ったか。	87.2 +1.7	100.0 +0.1	93.0 +1.3	89.0 -5.8		76.6 -3.2	94.2 +3.1	93.2 +3.2	94.1 +8.1	
2	問題冊子等や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用したか。	82.0 +0.8	100.0 +0.1	97.3 +4.4	94.8 +4.0		73.0 -1.1	89.1 +7.6	89.1 +10.4	89.1 +17.7	

② 指導方法・学習規律

- 国語の指導として、書く習慣や様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った学校の割合は、小・中学校ともに全国値よりも高い。
- 算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った学校の割合は、小・中学校ともに全国値よりも低い。
- 理科の指導として、児童生徒が科学的な体験や自然体験をする授業を行った学校の割合は、小学校は全国値よりも低く、中学校は全国値よりも高い。
- 児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進める学校の割合は、小・中学校ともに全国値よりも高い。
- 児童生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行っている学校の割合は、小・中学校ともに全国値よりも高い。

	質問事項	小学校 (%)					中学校 (%)				
		H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19
1	国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行ったか	94.0 +4.2	91.6 +2.2	88.3 -0.8	90.1 +2.7	82.2 -1.2	94.9 +3.3	94.2 +3.1	95.0 +4.1	89.5 -0.3	85.8 -1.9
2	国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったか	89.5 +6.6	85.4 +2.4	85.5 +2.2	87.4 +4.5	82.6 +2.3	84.6 +0.7	84.9 +0.2	85.9 +3.2	81.4 -1.7	84.4 +2.3
3	算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行ったか	61.8 -1.3	61.7 -0.9	66.0 +4.1	63.5 +2.7	62.4 +2.3	54.1 -1.4	50.1 -1.5	52.3 +2.4	53.7 +3.9	46.2 -2.3
4	理科の指導として、児童生徒が科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか	80.6 -1.2					78.5 +4.5				
5	児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしているか	94.8 -0.1	95.8 +1.4	94.6 -0.2	97.5 +3.3		95.4 +4.3	95.9 +5.7	92.3 +2.7	91.3 +2.5	
6	児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めているか	98.6 +1.6	99.3 +2.1	96.4 -1.0	97.1 +0.2		96.3 +2.5	100.0 +7.7	95.9 +3.4	95.5 +4.9	
7	児童生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしているか	77.6 +6.3	72.3 +1.3	68.1 -1.4	62.1 -4.1		97.3 +2.0	94.1 -2.1	96.8 +0.9	95.9 +0.0	

③ 個に応じた指導

- 算数・数学の指導において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行っている小・中学校の割合は、全国値よりも低く、22年度よりも減少している。
- 算数・数学の指導において、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行っている小・中学校の割合は、全国値よりも低い。

	質問事項	小学校 (%)					中学校 (%)				
		H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19
1	算数・数学の指導において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導をしたか	33.7 -7.4	36.0 -3.4	37.4 -2.3	33.6 -6.9		28.1 -1.9	42.4 +8.7	37.3 +3.4	42.7 +6.0	
2	算数・数学の指導において、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導をしたか	29.0 -4.2	29.0 -2.5	26.9 -5.3	27.5 -6.2		24.6 -0.8	38.0 +8.7	32.7 +3.1	39.6 +7.1	

④ 学習環境づくりに向けた取組

- 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施している学校の割合は、小学校は22年度よりも減少したものの全国値よりも高く、中学校は全国値よりも低い。
- 長期休業期間を利用した補充的なサポートを実施している学校の割合は、小・中学校ともに全国値よりも低い。
- 学校図書館を活用した授業を計画的に行っている学校の割合は、小・中学校ともに全国値よりも低い。

	質 問 事 項	小学校 (%)					中学校 (%)				
		H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19
1	放課後を利用した補足的な学習サポートを実施したか	70.2 + 8.4	78.5 + 16.5	76.8 + 15.9	58.6 + 16.7	61.0 + 20.1	85.2 - 1.5	84.0 - 1.5	86.1 + 3.0	63.6 + 6.4	61.8 + 6.4
2	長期休業期間を利用した補足的な学習サポートを実施したか	53.3 - 10.1	53.5 - 5.1	46.6 - 10.4	43.0 - 7.0	41.2 - 6.6	74.5 - 9.6	73.7 - 6.7	68.6 - 11.6	70.0 - 7.0	68.9 - 6.1
3	「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けているか	98.7 + 0.6	99.3 + 1.3	98.7 + 0.8	95.0 + 1.8	93.2 + 1.2	94.1 + 1.2	94.1 + 2.1	93.2 + 1.8	89.5 + 3.1	88.9 + 4.3
4	学校図書館を活用した授業を計画的に行っているか	75.4 - 1.8	77.8 - 1.0	72.6 - 5.2	63.5 - 3.8	56.4 - 3.5	30.7 - 13.2	41.6 - 4.8	41.3 - 6.3	28.6 - 11.1	36.0 - 2.3

⑤ 家庭学習・家庭との連携

- 国語、算数・数学の指導として、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っている学校の割合は、小学校は全国値よりも高く、中学校は国語は全国値よりも低く、数学は全国値よりも高い。
- 国語、算数・数学、理科の指導として、家庭学習（宿題）の課題を与えている割合は、小・中学校ともに算数・数学は全国値よりも高いが、他の教科は全国値よりも低い。
- 国語、算数・数学、理科の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行っている学校の割合は、小学校の算数以外は小・中学校ともに全国値より低い。

	質 問 事 項	小学校 (%)					中学校 (%)				
		H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19
1	国語の指導として、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っているか	97.0 + 2.1	96.6 + 2.4	97.3 + 4.3	97.3 + 6.7		70.7 - 0.3	78.0 + 7.4	75.9 + 6.1	67.3 + 0.7	
2	算数・数学の指導として、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っているか	96.2 + 1.6	95.9 + 2.2	97.1 + 4.7	96.8 + 6.4		70.1 + 0.3	78.9 + 7.5	73.6 + 3.5	71.4 + 4.5	
3	国語の指導として、家庭学習（宿題）の課題を与えているか	99.2 - 0.1	99.3 + 0.1	99.3 + 0.3	99.6 + 0.9	98.4 + 1.3	84.1 - 4.7	96.5 + 7.7	89.1 + 2.1	85.5 - 1.0	78.6 - 5.4
4	算数・数学の指導として、家庭学習（宿題）の課題を与えているか	100.0 + 0.6	99.3 + 0.1	99.1 + 0.1	99.6 + 0.8	98.7 + 1.2	92.8 + 0.6	94.9 + 3.0	92.3 + 1.8	94.1 + 3.7	87.6 - 1.0
5	理科の指導として、家庭学習（宿題）の課題を与えているか	28.9 - 3.3					61.1 - 6.0				
6	国語の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行っているか	95.5 - 1.5	100.0 + 3.8	96.4 + 0.8	98.0 + 0.7		95.6 - 0.3	90.7 - 4.1	94.5 + 0.9	94.5 + 0.2	
7	算数・数学の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行っているか	97.0 + 0.2	99.3 + 3.3	96.4 + 1.2	98.4 + 1.0		93.9 - 1.5	93.2 - 0.9	93.6 + 0.7	95.9 + 1.7	
8	理科の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行っているか	71.5 - 10.3					92.1 - 1.0				

⑥ 教員研修

- 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている学校の割合は、小学校で増加し、全国値を上回ったが、中学校では減少し、全国値を下回った。
- 講師を招聘するなどの校内研修を行っている学校の割合は、小・中学校ともに全国値よりも低く、かい離が大きい。
- 授業研究を伴う校内研修を行っている学校の割合は、小学校は全国値よりも高く、中学校は全国値よりも低い。

	質 問 事 項	小学校 (%)					中学校 (%)				
		H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19
1	模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っているか	97.0 + 2.4	92.3 - 2.1	91.2 - 2.5	90.7 - 2.0	88.5 - 2.8	81.5 - 3.8	91.4 + 8.2	88.7 + 6.2	88.2 + 7.0	84.5 + 6.0
2	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っているか	78.1 - 13.9	78.4 - 13.8	73.7 - 18.2	75.0 - 17.1	70.1 - 20.9	66.6 - 17.3	71.1 - 11.3	66.4 - 16.2	59.0 - 23.9	63.6 - 19.5
3	授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施したか（9回以上）	50.5 + 4.2	56.1 + 9.2	50.0 + 6.4	50.5 + 4.5	44.5 + 0.0	28.9 - 1.4	33.0 + 4.8	30.5 + 4.4	24.0 - 3.0	22.7 - 2.9

⑦ 地域の人材・施設の活用

- 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行っている学校の割合は、小学校は減少して全国値を下回り、中学校は増加して全国値を上回った。
- 博物館や科学館、図書館を利用した授業を行っている学校の割合は、小学校は全国値よりも低く、中学校は増加して全国値を大きく上回った。
- 職場見学や職場体験活動を行っている学校の割合は、小学校で低く、全国値とのかい離が大きい。

	質 問 事 項	小学校 (%)					中学校 (%)				
		H24	H22	H21	H20	H19	H24	H22	H21	H20	H19
1	地域の人材を外部講師として招聘した授業を行ったか	80.5 - 1.6	82.0 + 3.4	70.0 - 4.2	75.7 + 0.9	79.3 + 0.9	63.4 + 3.1	44.2 - 6.8	56.8 + 0.2	54.5 - 3.4	58.2 - 1.4
2	博物館や科学館、図書館を利用した授業を行ったか	38.9 - 1.8	34.6 - 1.6	27.3 - 6.8	33.1 - 3.4	31.9 - 6.5	28.0 + 12.0	20.2 + 6.2	23.7 + 7.0	25.9 + 7.7	30.7 + 10.0
3	職場見学や職場体験活動を行っているか	32.5 - 10.0	22.9 - 14.8	22.5 - 13.7	25.9 - 8.5	22.5 - 10.1	98.3 + 0.0	100.0 + 2.2	99.1 + 2.0	97.3 - 0.5	99.1 + 3.1

6 平均正答率の高い県との比較

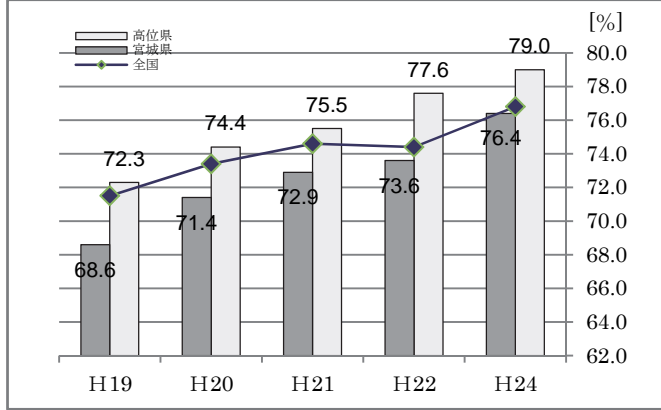
児童生徒質問紙調査において、宮城県全体の課題をより明確に把握したいと考え、自尊意識、将来の夢や目標、基本的な生活習慣、学習習慣、教科への取組や関心・意欲・態度に関する項目について、平均正答率の高い県（以下、高位県）と比較した。

児童生徒質問紙調査の全項目の中から特徴の見られた主な12項目について列挙する。

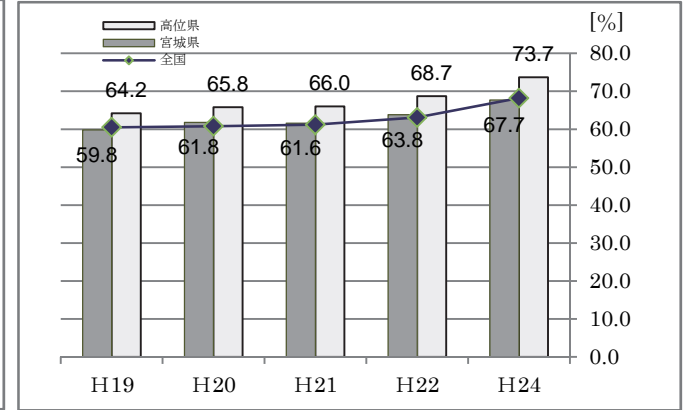
(1) 自尊意識や将来の夢や目標に関する質問事項の比較結果

①自分にはよいところがあると思いますか。

【小学校】

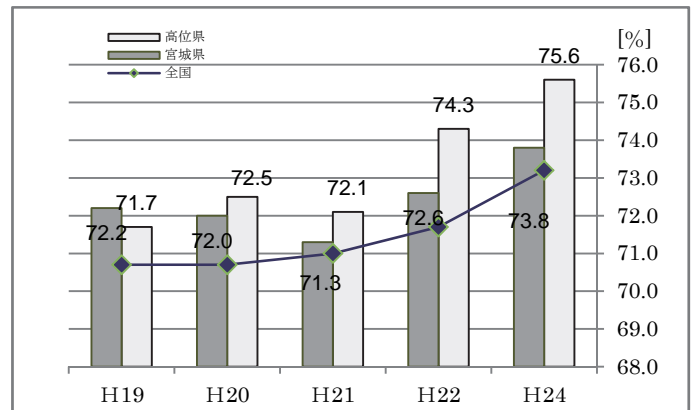
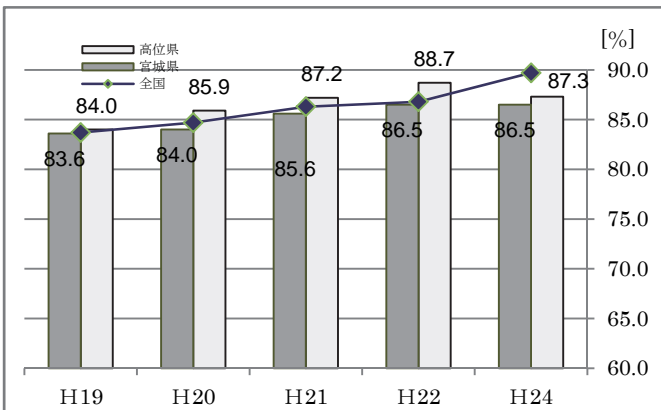


【中学校】



・小・中学生ともに全国値には近いが、高位県よりも低い。

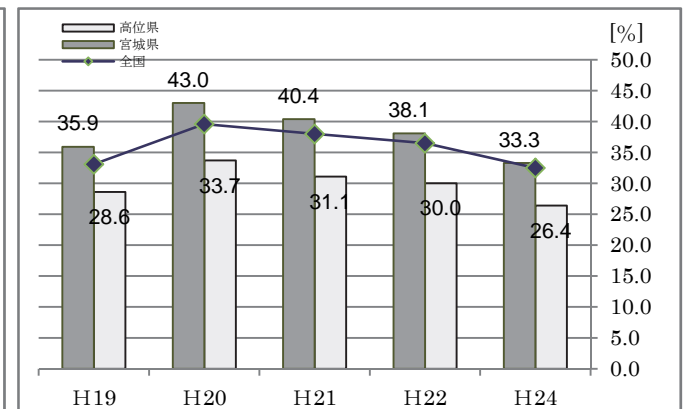
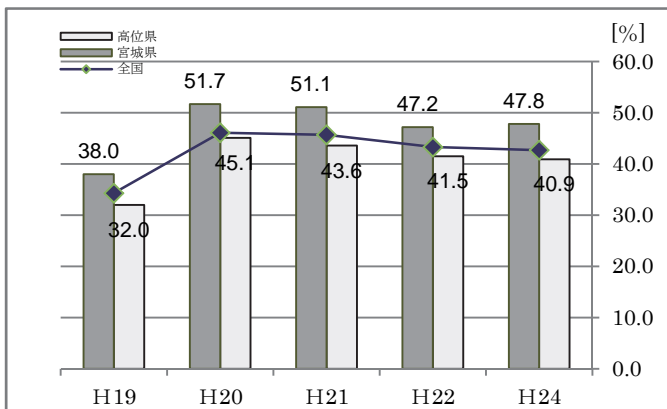
②将来の夢や目標を持っていますか。



・小学生は全国値及び高位県よりも低い。
 ・中学生は全国値より高いが、高位県よりも低い。

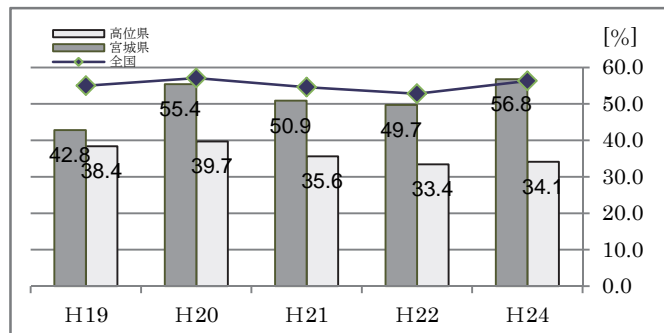
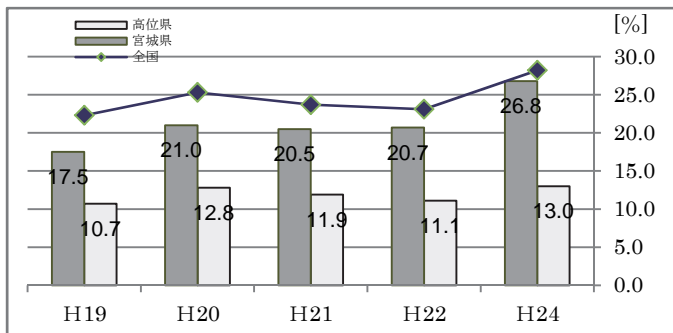
(2) 基本的な生活習慣に関する質問事項の比較結果

①1日何時間、テレビ等を見ますか。(3時間以上と回答した割合)



・小学生は全国値及び高位県よりも高い。
 ・中学生は全国値に近いが、高位県よりはかなり高い

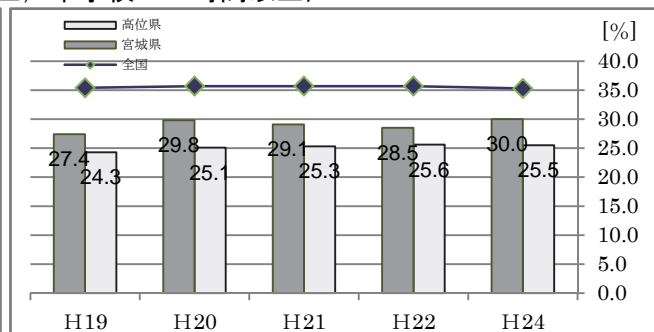
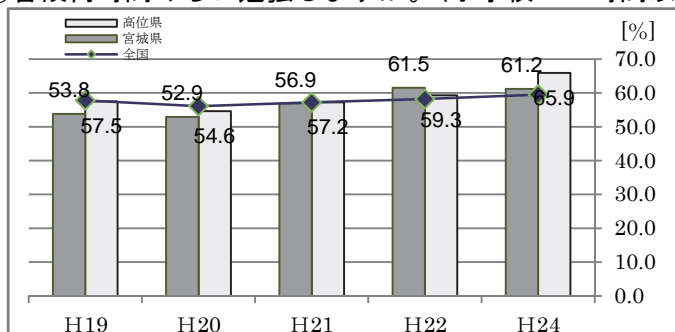
②携帯電話で通話やメールをしていますか。(毎日あるいは時々と回答した割合)



- ・小学生は全国値よりも低い、高知県よりはかなり高い。
- ・中学生は全国値に近いが、高知県よりはかなり高い。

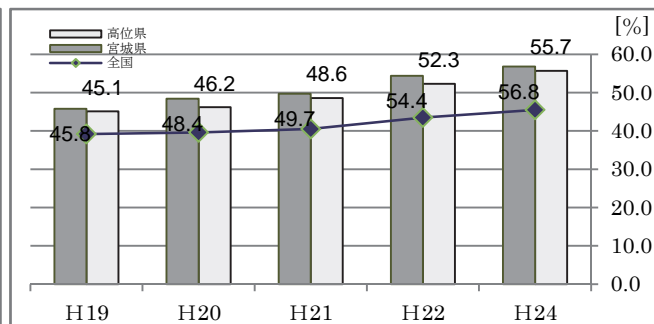
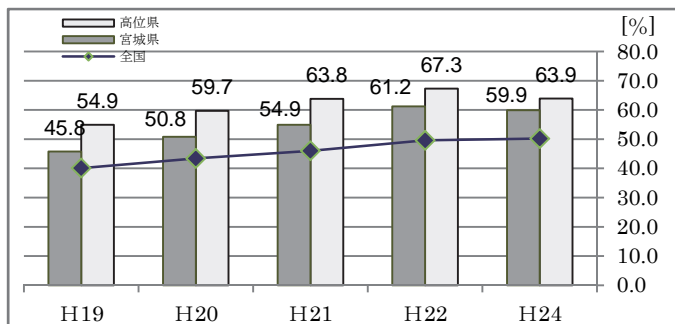
(3) 学習習慣に関する質問事項の比較結果

①普段何時間くらい勉強しますか。(小学校：1時間以上，中学校：2時間以上)



- ・小学生は全国値よりも少し高いが、高知県よりは低い。
- ・中学生は高知県よりも高いが、全国値よりは低い傾向が続いている。

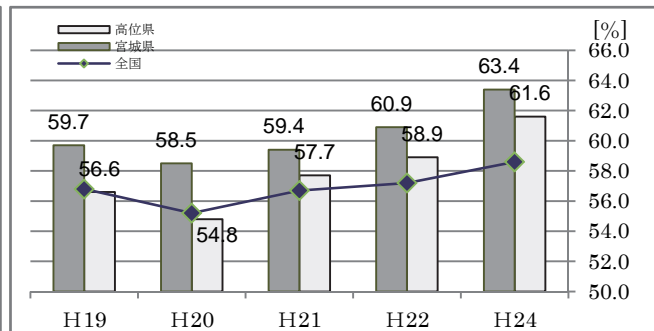
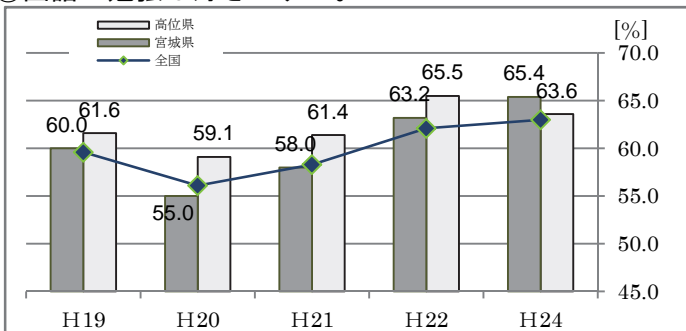
②家で学校の授業の復習をしていますか。



- ・小学生は全国値よりも高いが、高知県よりは低い。
- ・中学生は全国値及び高知県よりも高い。

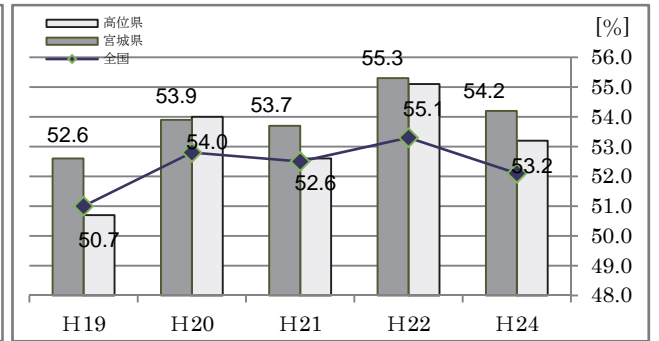
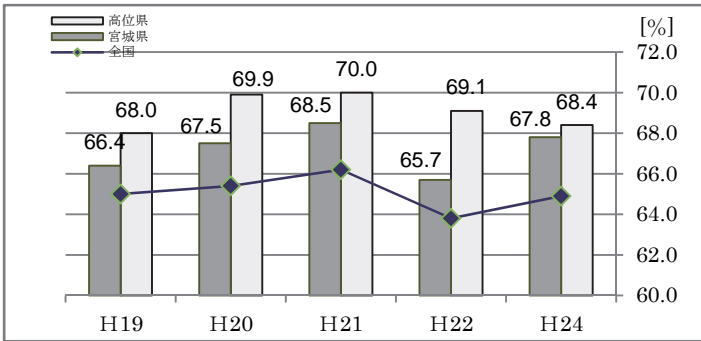
(4) 教科への取組や関心・意欲・態度に関する質問事項の比較結果

①国語の勉強は好きですか。



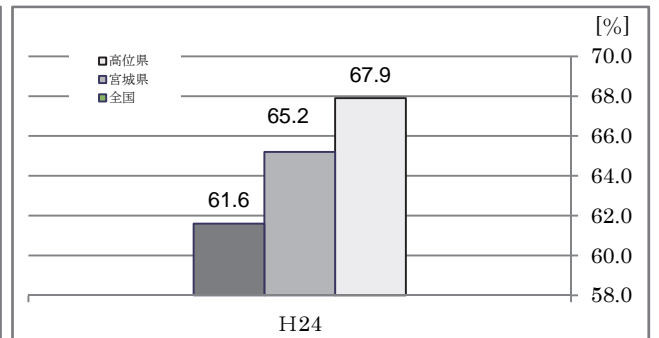
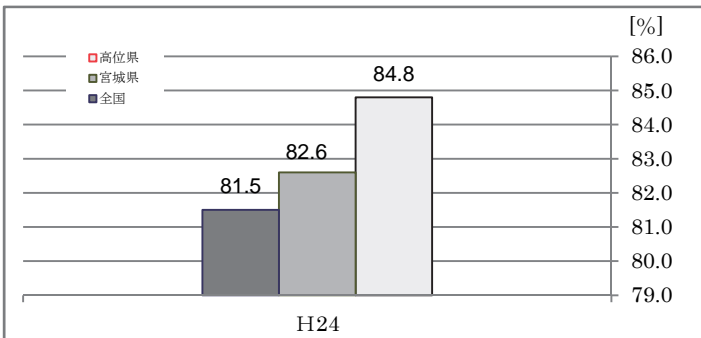
- ・小・中学生ともに増加傾向で、全国値及び高知県よりも高い。

②算数・数学の勉強は好きですか。



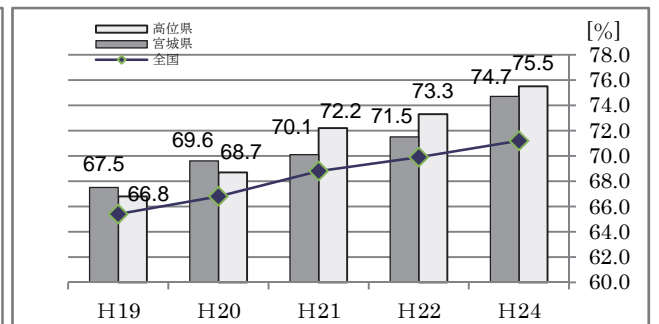
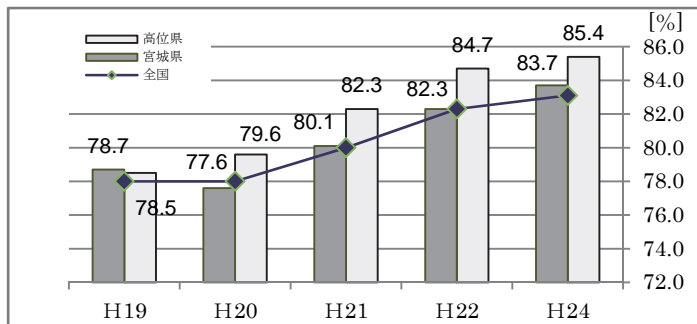
- ・小学生は全国値よりも高いが、高位県よりは低い。
- ・中学生は全国値及び高位県よりも高い。

③理科の勉強は好きですか。



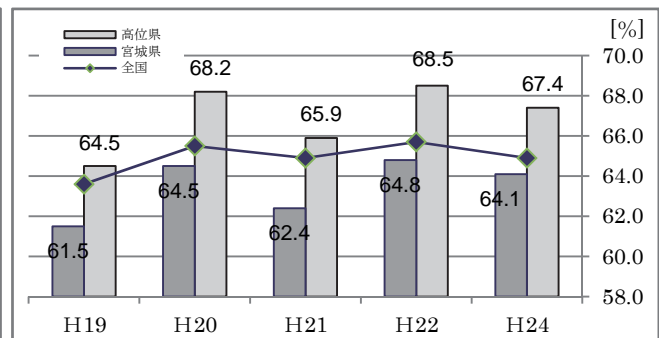
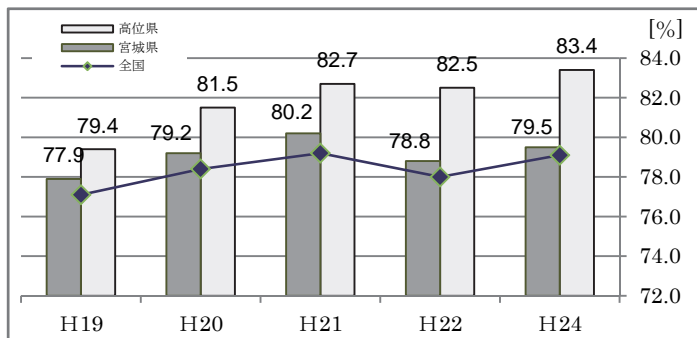
- ・小・中学生ともに全国値よりも高いが、高位県よりは低い。

④国語の授業の内容はよく分かりますか。



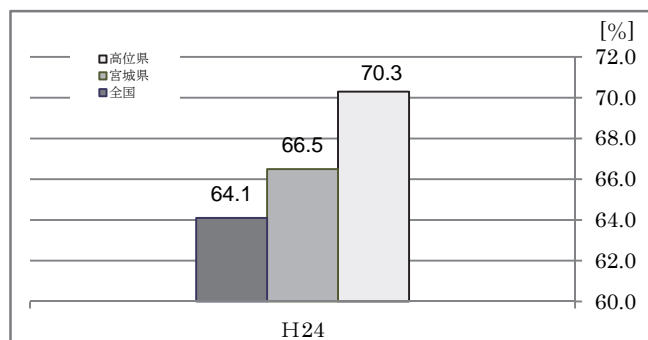
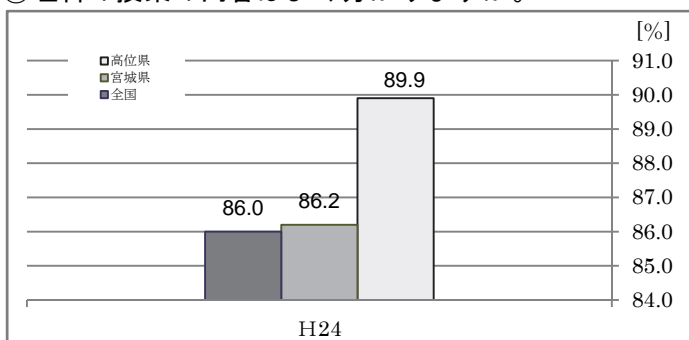
- ・小学生は全国値よりも高いが、高位県よりは低い。
- ・中学生は全国値よりも高く、高位県に近い。

⑤算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。



- ・小学生は全国値とほぼ同程度であるが、高位県よりは低い。
- ・中学生は全国値及び高位県よりも低い。

⑥理科の授業の内容はよく分かりますか。



- ・小学生は全国値とほぼ同程度であるが、高位県よりは低い。
- ・中学生は全国値より高く、高位県よりは低い。

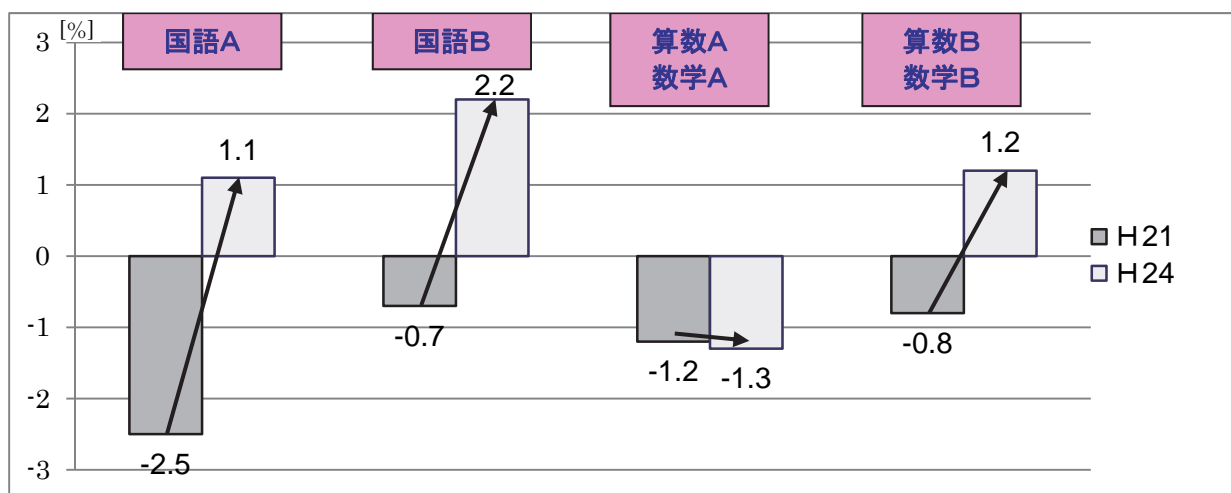
(5) 高位県との比較から見てきた宮城県全体の状況

- 自尊意識は向上してきているが依然として低い。
- テレビ等の視聴時間が長く、携帯電話でメール等をしている回数も多い。
- 授業の復習をしている小学生の割合が低い。
- 国語の勉強が好きと答える小学生、国語や数学の勉強が好きと答える中学生の割合は高いが、算数の勉強が好きと答える小学生、理科の勉強が好きと答える小・中学生の割合は低い。
- 国語、算数・数学、理科のすべての教科において授業の内容が分かると答える小・中学生の割合が低い。

7 平成21年度の調査結果との比較

今年度の抽出調査に参加した中学校3年生は、平成21年度調査で小学校6年生として本調査を受けていることから、今年度調査対象となった中学校3年生と平成21年度の小学校6年生の調査結果について、全国平均正答率とのかい離の比較を行うことにより、別な視点から本県の取組の成果や課題等が見えてくるものと考えた。

○教科に関する調査結果（全国平均正答率とのかい離の比較）



- 国語 A, 国語 B, 算数 B・数学 Bにおいては、小学校6年生の時には全国平均を下回っていたが、3年後の中学校3年生の時には全国平均を上回る結果となっている。
- 算数 A・数学 Aにおいては、小学校6年生の時に全国平均を下回っており、3年後の中学校3年生の時には全国平均を同じ程度下回る結果となっている。

第3章

学力向上に向けた施策の概要

1 教員の教科指導力の向上に向けた施策

(1) 学力向上サポートプログラム事業

学力向上のための学校改善に取り組む小・中学校を、継続的、個別的に直接支援し、教員の教科指導力の向上と児童生徒の学力向上を図る。

(2) 学力向上成果普及マンパワー活用事業

優れた教育実践者や研究指定校教員、研修経験者等、学力向上に成果を上げている教員のマンパワーを指導・助言の必要な学校及び教育委員会等に派遣することにより校内研修等の充実を支援し、教員の指導力向上を図る。

(3) 市町村教育委員会学力向上パワーアップ支援事業

学力向上に主体的かつ積極的に取り組む市町村教育委員会に対して支援を行い、その取組の一層の活性化と促進を図り、県と市町村とが連携して学力向上に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上を図る。

(4) 基礎学力ステップアップ支援事業

漢字や計算の指導など基本的な指導技術を手引書にし、それを各小学校で活用することにより、教員の指導力の向上を図るとともに、ベテラン教員の指導技術を若手教員が学び引き継いでいくことができるようにする。

(5) 小学校理科中核教員養成事業 (H24新規)

小学校教員を対象にした観察・実験等に関する実技研修会を行い、地域の小学校理科教育の中核となる教員を養成し、小学校における理科教育の充実を図る。

(6) 小・中連携英語教育推進事業

中学校区内の小・中学校が連携し、学習内容の系統性や指導方法の継続性に配慮した指導計画の作成と実践等を通じて研究を行い、その成果の普及により児童生徒の英語力及び教員の指導力の向上を図る。

2 児童生徒の学習習慣の形成に向けた施策

(1) 学び支援コーディネーター等配置事業 (H24新規)

被災地における児童生徒の放課後や週末、長期休業等の学習支援を行おうとする市町村教育委員会に、学習活動のコーディネート等に従事する人材を配置し、児童生徒の学習、交流を促進することを通じ、地域コミュニティの再生に資する。

(2) みやぎ単元問題ライブラリー整備事業

みやぎ単元問題ライブラリーの改善・充実を図ることにより、児童生徒の学力の向上と学習習慣の形成を図る。

3 教育環境基盤の充実に向けた施策

(1) 学級編成弾力化事業

国の標準で40人とされている学級編制を、県内一円で弾力的運用を進めることにより、児童生徒一人一人に応じたきめ細かな教育活動の一層の推進を図る。

(2) 幼・保・小連携推進事業 (H24新規)

幼稚園、保育所、小学校の連携推進を図り、子どもたちの発達や学びの連続性を踏まえた望ましい幼・保・小連携体制の確立に資する。

宮城県検証改善委員会について

宮城県検証改善委員会では、全国学力・学習状況調査の結果等を活用・分析し、教育委員会や学校における効果的な取組や課題を明らかにし、改善につなげるため協議を重ねてきました。その結果、学校改善に活用できる資料として作成したものが本報告書です。

本報告書は、教育委員会や学校関係者をはじめ、みやぎの子どもたちの学力向上を願う全ての方に読んでいただきたいという思いをもって作成しました。

特に学校においては、本報告書内容を学校や地域の実態に合ったものにアレンジしていただきながら、子どもたちの学力向上のために積極的に活用されることを願っています。

学校における活用例～こんな活用はどうでしょうか～

※必要なページをコピーして活用できます。

(義務教育課HPからもダウンロードができます。)

本報告書は活用しやすいように、内容ごとに1, 2ページぐらいの区切りでまとまるように編集しました。必要なときに、必要な部分を取り出して、ぜひ日常のご活用ください。

【主に、校長先生、教頭先生へ】

○職員会議や打ち合わせ等での活用

- ・自身の豊富な教育経験を例に挙げ、本報告書の内容について教職員へ具体的なアドバイスをするなど

○学校だより等への引用, P T A 研修会等での活用

- ・本報告書の内容を引用しながら、学校の特色ある取組を保護者や地域へ発信するなど

【主に、教務主任の先生、研修を担当する先生へ】

○各種会議等での参考資料として活用

- ・研修会、授業研究会、指導計画作成会議等において、報告書内容を参考に協議の観点を設定するなど

○研修だより等への活用

- ・本報告書の内容にかかわって校内外の優れた実践例などを掲載し、校内の教職員で共有するなど

【学級担任の先生、教科担任の先生、指導にかかわるすべての方へ】

○授業づくり、学級づくりなどへの活用

- ・学級経営案や教科指導方針の作成、授業づくりのポイントをつかむ参考資料として活用するなど
- ・子どもの実態を踏まえて、学習習慣の形成に向けて共通理解したい事項を確かめるなど

《平成24年度宮城県検証改善委員会》

回	月 日	主 な 活 動 内 容
1	7月 5日	・本委員会の方針, 計画等の決定
2	9月13日	・5年間(H19~H22, H24)の全国学力・学習状況調査結果の分析, 課題等の整理
3	10月 4日	・課題を踏まえた指導改善のポイントの吟味, 提言内容の協議 ・報告書の構成内容の決定
4	10月25日	・報告書内容の吟味, 表現の仕方等の検討
5	11月22日	・報告書内容, 表現の吟味, 校正

《平成24年度宮城県検証改善委員》

吉村 敏之	(宮城教育大学教職大学院 教授)
稲垣 忠	(東北学院大学 准教授)
佐藤 亨	(気仙沼市立面瀬中学校 教頭)
玉田 芳治	(柴田町立東船岡小学校 主幹教諭)
鈴木 洋	(義務教育課長)
宮下 文憲	(義務教育課 副参事)
及川 浩市	(東部教育事務所登米地域事務所 主幹)
高橋 勝	(仙台教育事務所 主幹)
萱場 恒行	(教育研修センター 主幹)
高橋紳一郎	(大河原教育事務所 主任主査)
名取 秀樹	(北部教育事務所栗原地域事務所 主幹)
日野口 香	(教育研修センター 主任主査)
佐々木弘晃	(義務教育課 課長補佐)
内海喜久子	(義務教育課 課長補佐)
鎌田 鉄朗	(義務教育課 課長補佐)
芳賀 孝志	(義務教育課 課長補佐)
高橋 琢哉	(義務教育課 課長補佐)
新井 雅行	(義務教育課 主幹)

宮城県検証改善委員会報告書

みやぎの子どもたちのために

今日から活用できる指導改善のポイント

発行年月	平成25年1月
編集発行	宮城県教育庁義務教育課
住 所	仙台市青葉区本町3-8-1
電 話	022-211-3642